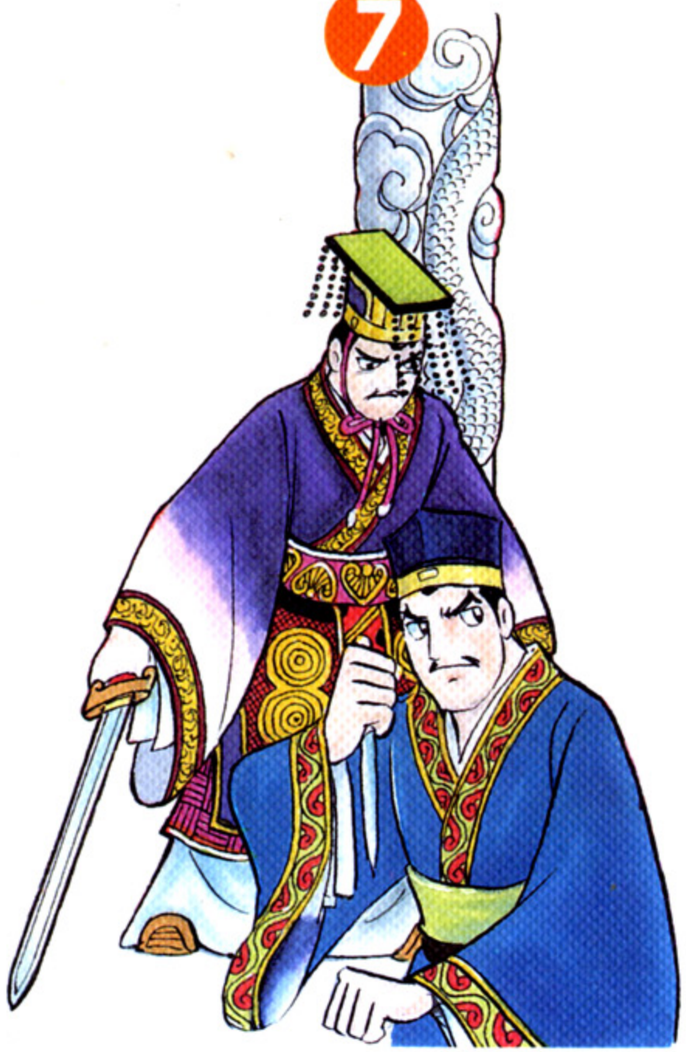
SHOGAKUKAN

若き支配者

史記

横山光輝

7



CHINESE HISTORY[SHIKI]

MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS

BIG GOLD COMICS

BIG GOLD COMICS

史記 7 横山光輝 MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS CHINESE HISTORY[SHIKI]

小学館

9784091890474

ISBN4-09-189047-4

C0379 P670E

19103790067 03

定価670円
(本体650円)

BIG GOLD COMICS

CHINESE HISTORY[SHIKI]

十三歳で秦の王位についた政（のちの始皇帝）の苦闘の日々――。
実母「母太后」の男好きからすべてが始まった「嫪毐の乱」!!
若き秦王政を助けた李斯の活躍を描く「我れ鳥獣にあらず」!!
そして、秦王暗殺をたくらむ刺客が、
まさに政の息の根を止めようとした時、何が起こったか……
暗殺計画の全貌を一気に百ページで描き切る「刺客荊軻」!!
始皇帝の少年時代の波瀾の日々を熱く描く炎の第7巻!!

横山光輝

MITSUTERU YOKOYAMA PROFILE

昭和29年に「音無しの剣」でデビュー。「鉄人28号」「おてんば天使」「伊賀の影丸」等で不動の地位を確立する。昭和42年より「水滸伝」を連載、さらに昭和46年からライフワークともいえる「三国志」の連載を開始する。「バビル２世」「時の行者」等、ＳＦの傑作も多い。「史記」は、古代中国史全体を見極めようとする新しいライフワークだ。

ビッグゴールド・コミックス

史記①～⑦……横山光輝
平成野球草子①～④……水島新司
妖怪博士の朝食①～③ ….水木しげる
ゼンマイ仕掛けの犯罪白書①……青柳裕介
青柳裕介作品集①～②……青柳裕介
ケースハード①～③……松本零士
アトンの娘 全３巻……里中満智子
博愛の人①～④……ジョージ秋山
齋藤なずな作品集①～②‥齋藤なずな
紅にほふ①～②……竹宮惠子
トワイライト・ミュージアム……岡崎二郎
理想宮① ……畑中 純
HATAGO〈旅籠〉① ….石ノ森章太郎

SHOGAKUKAN

若き支配者

史記

横山光輝

7

BIG GOLD COMICS

BIG GOLD COMICS

史記

7

横山光輝

MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS/CHINESE HISTORY[SHIKI]

小学館

BIG GOLD COMICS

CHINESE HISTORY[SHIKI]

SHOGAKUKAN

若き支配者

史記

横山光輝

7

BIG GOLD COMICS

史記〈7〉若き支配者 目次

CHINESE HISTORY [SHIKI]

MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS

第1話 嫪毐の乱……5

第2話 我れ鳥獣にあらず……65

第3話 刺客荊軻……125

第1話

嫪毐（ろうあい）の乱

呂不韋は、
趙の人質となっていた
秦の公子・子楚を救い出し、
秦の王とした。
呂不韋はこの手柄により、
丞相に封じられた。
だがこの荘襄王は
在位三年で
この世を去った。

そして十三歳の政が秦王となった。

3

そして呂不韋を相国(丞相より位は上)とし、「仲父」と呼んだ。これは父の次という意味である。

4

のう、わしは思うのだが、斉の孟嘗君、魏の信陵君、楚の春申君、趙の平原君と、世に聞えた公子がいる。

はい、すぐれた食客を三千人も抱えているそうにございますな。

ところでわしは
強国・秦の相国だ。
弱小国の公子に
負けるのは恥ずかしい。
わしも
優秀な人材を
集めようと思う。

天下に声をかけよ、
賢者は優遇して
迎えるとな。
はっ。

5

こうして
すぐれた食客を
三千人抱えた。

先生方に
一つお願いが
ある。

なんで
ございましょう。

孔子は昔からの四季の
出来事をまとめ、
「春秋」を完成された。
わしもそれを
見習おうと思う。

6

先生たちの
知ってるかぎりの
今までの
見聞をまとめ、
記録して
いただきたい。

学者達は
作業にかかった。
天地、万物、古今の
出来事を研究し、
まとめていった。

7

そして二十余万語からなる
書を完成させた。
呂不韋はこれを
「呂氏春秋」と名づけた。

8

9

一攫千金とか春宵一刻値千金、一字千金などに使われる「千金」はこれが出典といわれている。

後宮。

ア、アッ……

10

母太后さま、こんな関係はそろそろやめねばなりません。

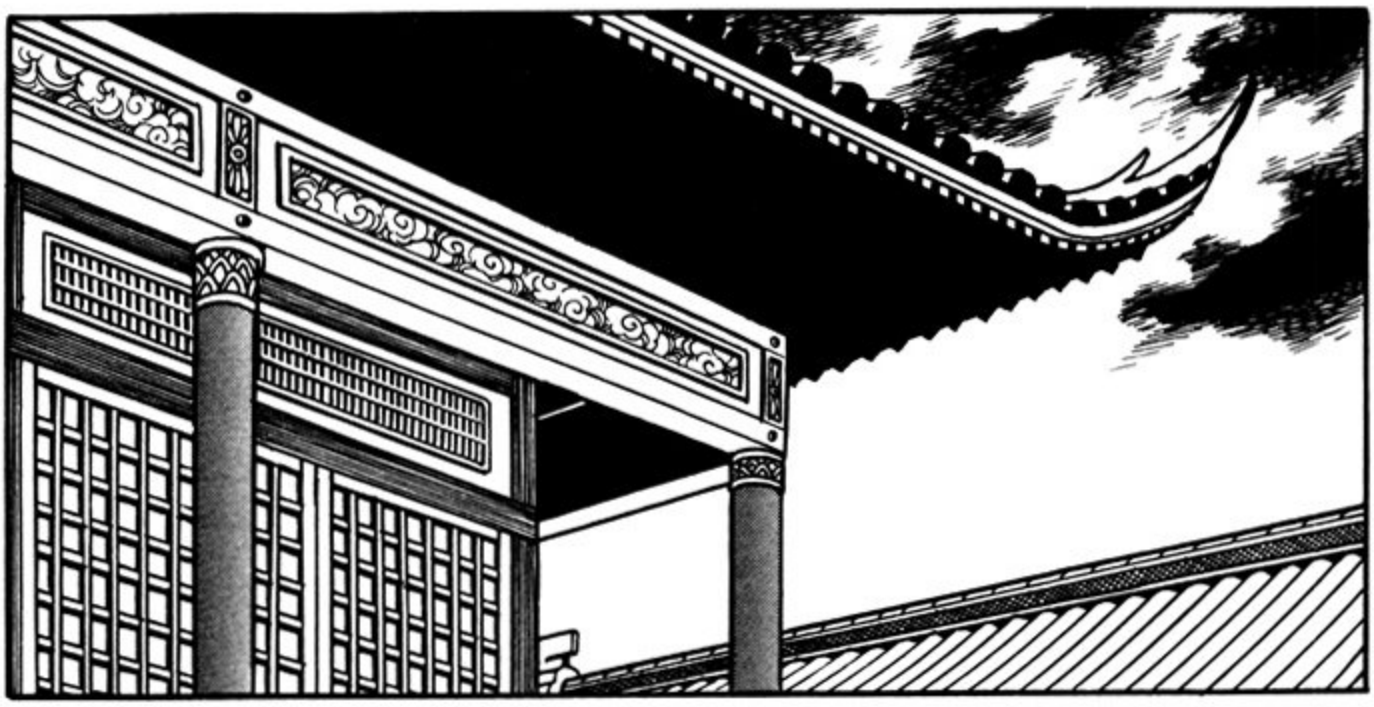
どうしてです。昔はいつもこうして愛しあったではありませぬか。

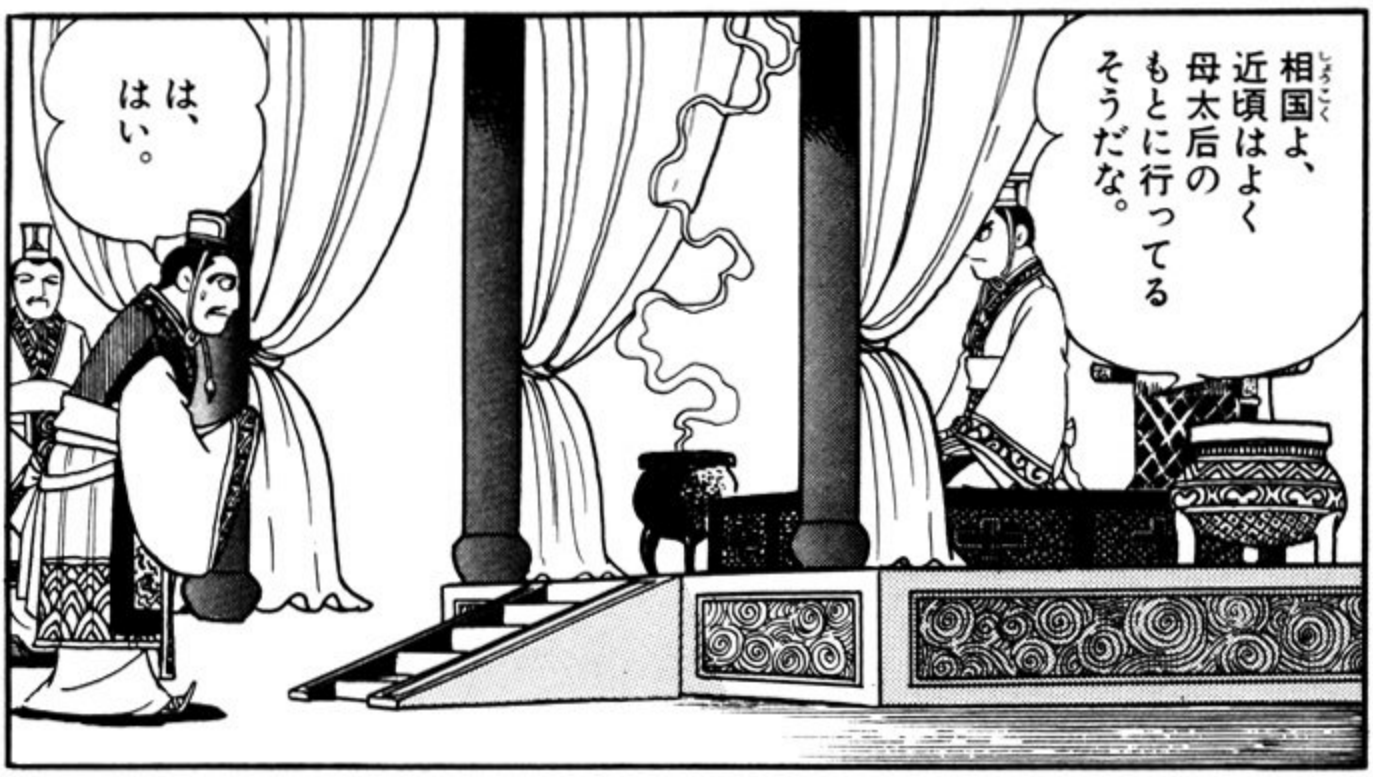
昔は私は商人、あなたさまは私の囲い物でした。だからだれにも遠慮しなくてすんだのです。

しかしあなたは荘襄王の皇后となられ、いまは秦王さまの母太后です。それにわたしは相国です。昔と立場が違うのです。
でもわたしはまだ若いのです。孤閨には耐えられませぬ。

11

ふーっ、この女 昔から好色であったがこれは治らぬものなのかな……

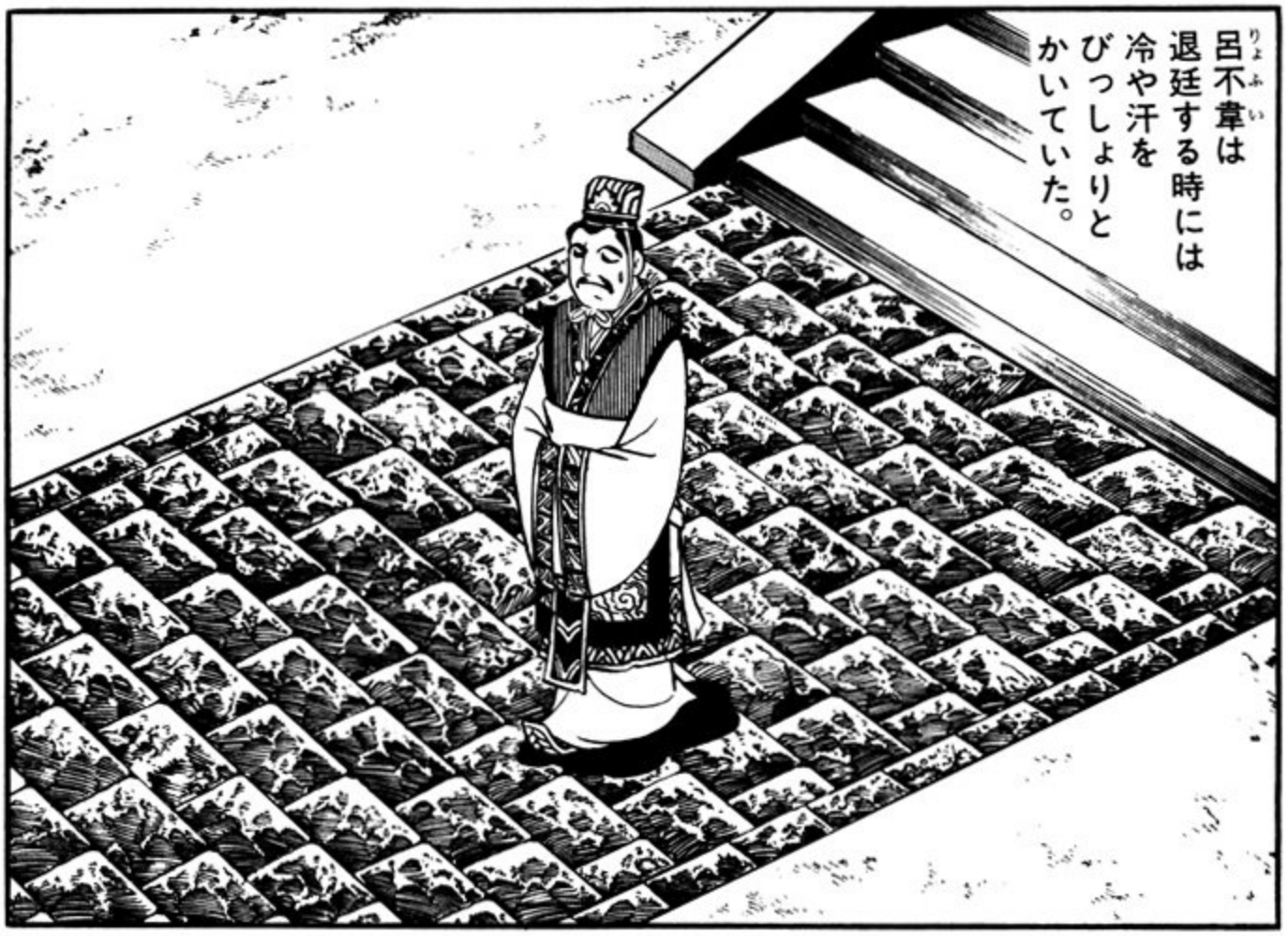


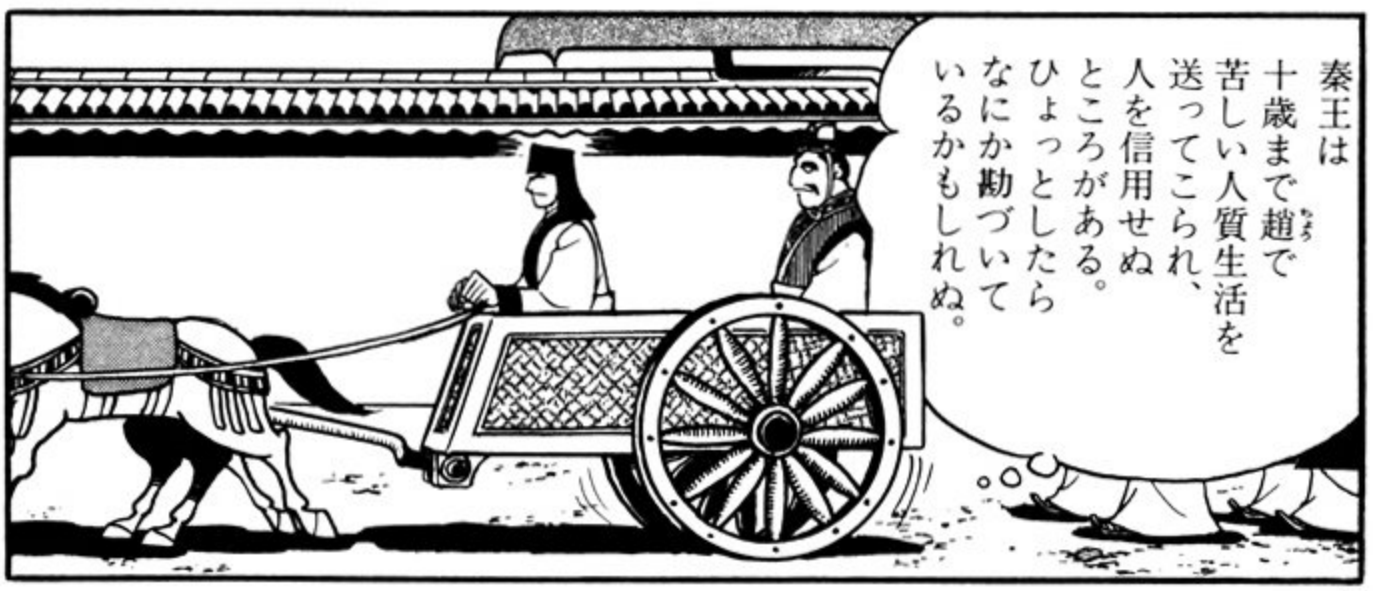

相国よ、近頃はよく母太后のもとに行ってるそうだな。
は、はい。

12

そうかそれはよく気がついてくれた。

母太后さまも荘襄王さま亡きあと、おさびしそうなので、お話相手にと参上いたしておりまする。


呂不韋は
退廷する時には
冷や汗を
びっしょりと
かいていた。


秦王は
十歳まで趙で
苦しい人質生活を
送ってこられ、
人を信用せぬ
ところがある。
ひょっとしたら
なにか勘づいて
いるかもしれぬ。

13

これは早く
母太后との仲を
清算しなければ
身の破滅に
なるぞ……

14

呂不韋は
一計を考え、
酒宴を開いた。

嫪毐！

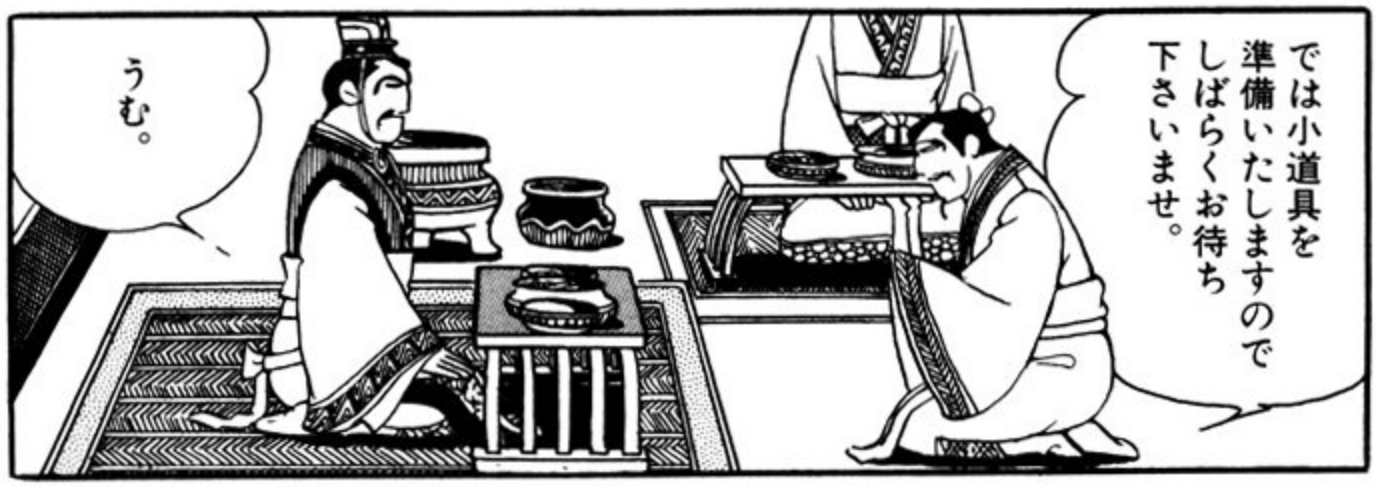
はっ、相国さま。

そなたの男の一物は立派で、それで余興が出来ると聞いておるが、まことか。
お恥ずかしい芸ですが……

酒の席の余興として見たいものだな。

相国さまのお言葉ではお断わりも出来ませぬ。

15


では小道具を準備いたしますのでしばらくお待ち下さいませ。
うむ。

これっ。
はっ。

この余興の
ありさまを
ひそかに
母太后さまの
耳に入るように
いたせ。

はっ。

まもなく
嫪毐は桐で
作った車輪を
持って現われた。
それでは
酒の席の余興として
それがしの
一物を軸にして
この車輪を
ころがして
みせまする。

16

ではごらんください。

ゴロ
ゴロ

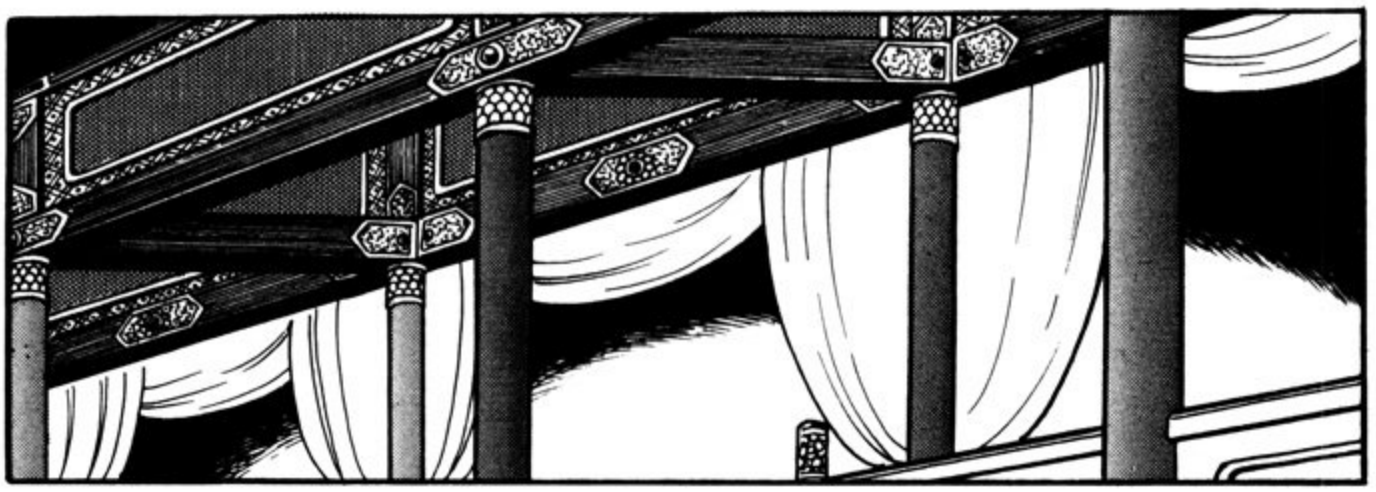
はあっ。

おおっ。
こりゃすごい。

噂通りの一物じゃ。
はっはっはっ
はっははは。

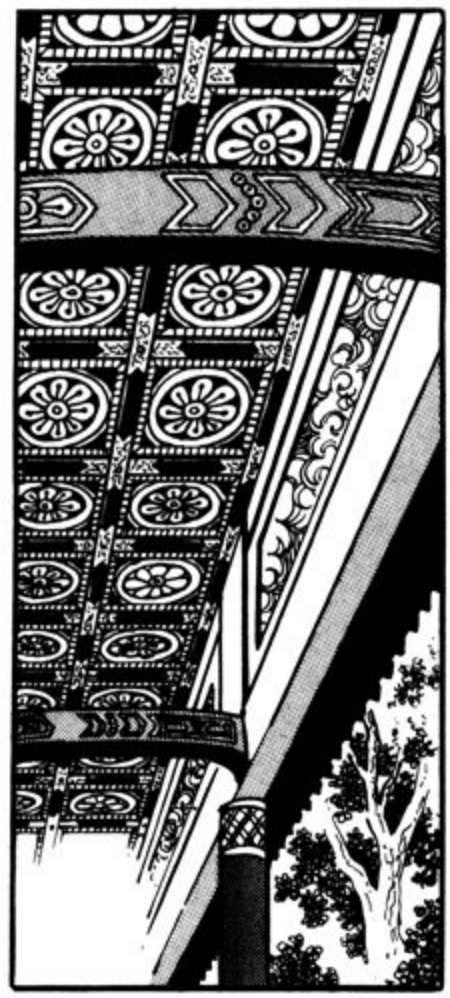
17

ふっふっふ
この噂を聞いたら母太后はかならず嫪毐を求めてくる……



18

相国どの、そなたの屋敷に嫪毐と申す者がいるそうじゃな。
はい、おりまする。



その男をわたしの側に仕えさせてくれぬか。

後宮には普通の男は入れませぬ。宦官なれば別ですが……

19

宦官！宦官ではなんの役にも立たぬではないか。
いやいや、宦官ということでお側におかねばならぬということです。

なにかよい
方法はないのかえ。

腐刑係の役人を
買収し宦官にしたと
記録を残させるのです。
それならば問題は
ありますまい。

母太后は
腐刑係の役人に
多額の金品を
送り、嫪毐を
宦官にしたように
記録させたのである。

そして
あごひげを抜き
宦官らしく
みせかけた
(宦官になると
ひげがはえなく
なる)。

20

嫪毐はこうして
母太后の側に
仕えることになった。

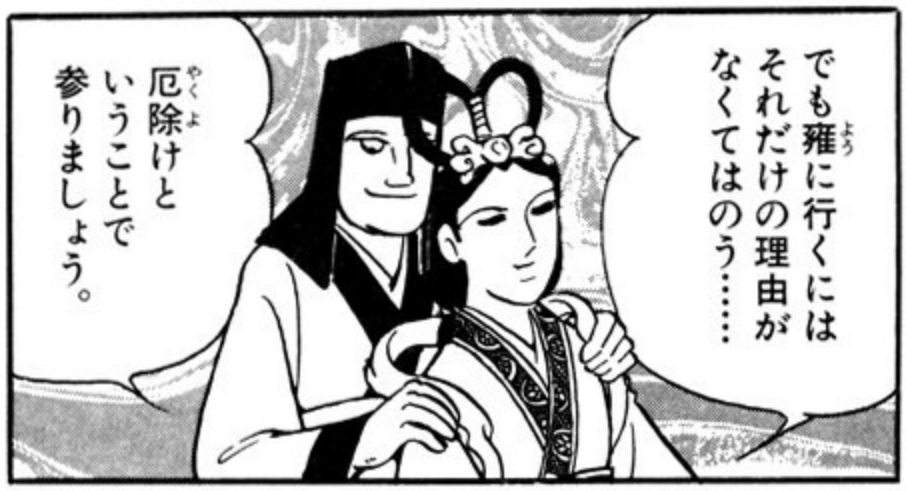
母太后は狂ったように
嫪毐を寵愛した。

嫪毐よ、
わたしは
身ごもった
ようじゃ。
えっ。

そんなことが
知れたら一大事です。
どこかでこっそりと
子供を産まなければ
……

どこで産めば
よいのじゃ。

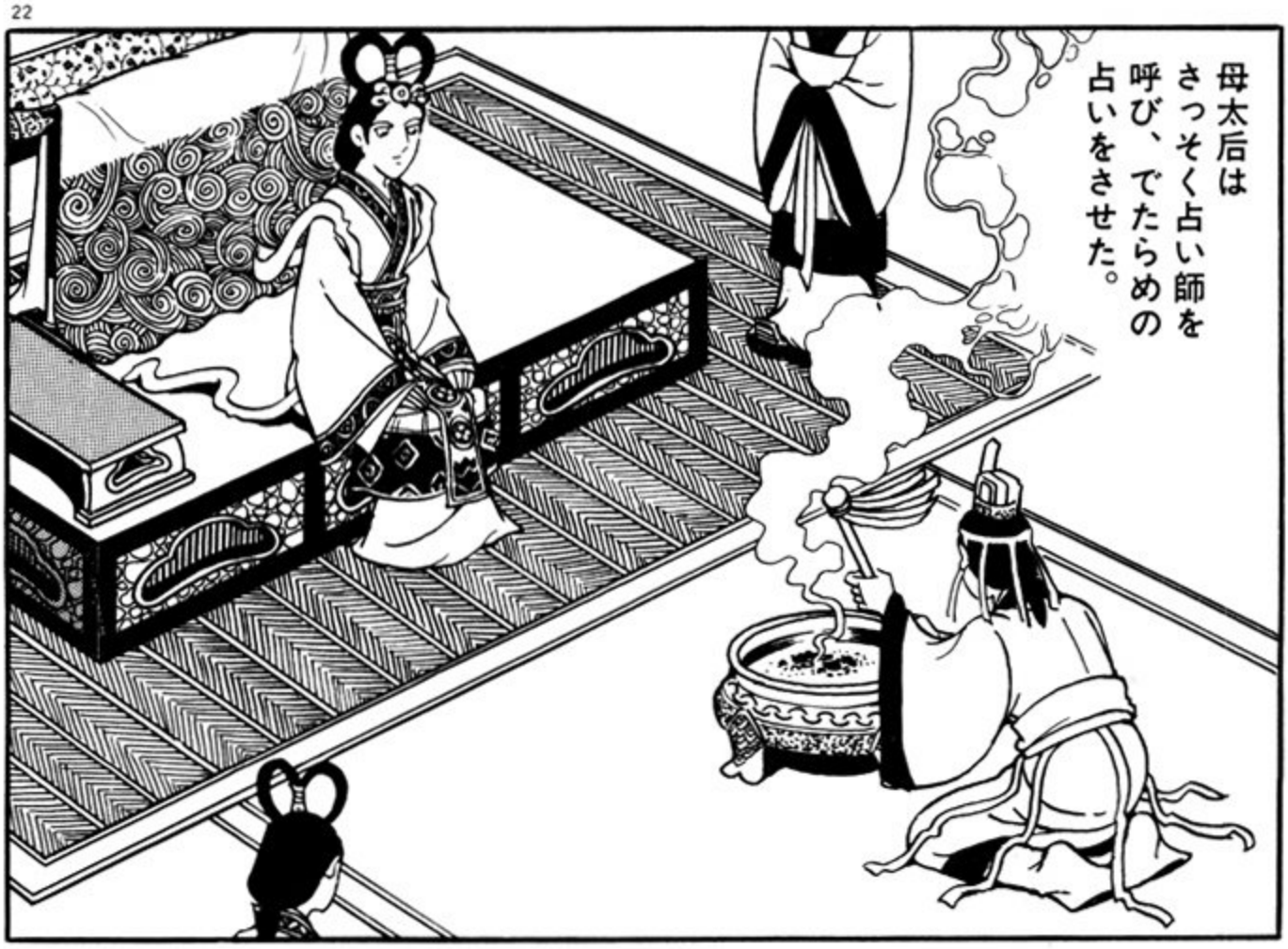
旧都の雍の
離宮では
いかがで
ございましょう。


でも雍に行くには
それだけの理由が
なくてはのう……
厄除けと
いうことで
参りましょう。

厄除け？

占い師に
祟りがあると
占わせ、
雍の離宮に
厄除けに行くと
いうことに
いたしましては
……
おう、
それはよい
知恵じゃ。

22


母太后は
さっそく占い師を
呼び、でたらめの
占いをさせた。

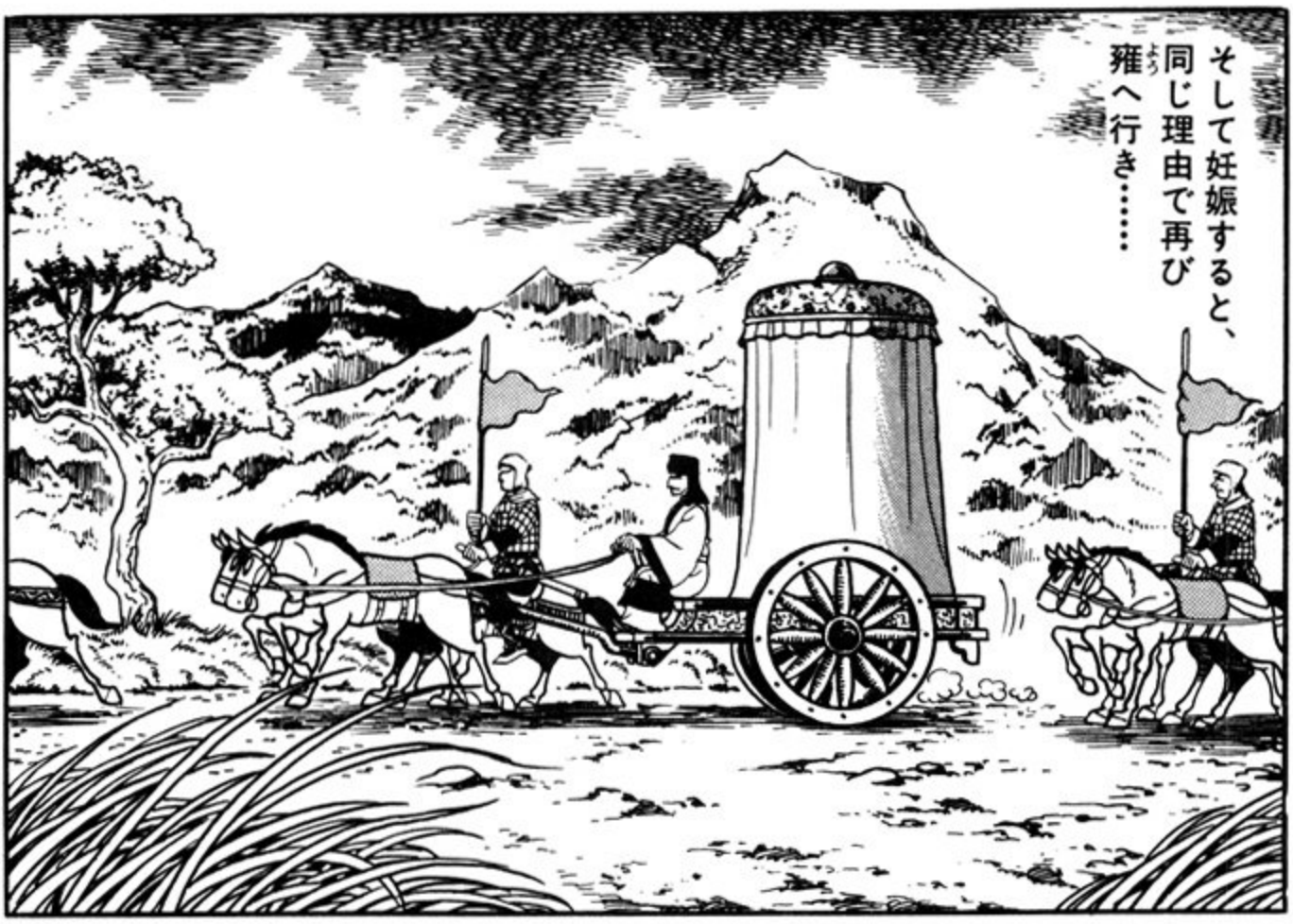
そして厄除けと
称して雍に行き、

23

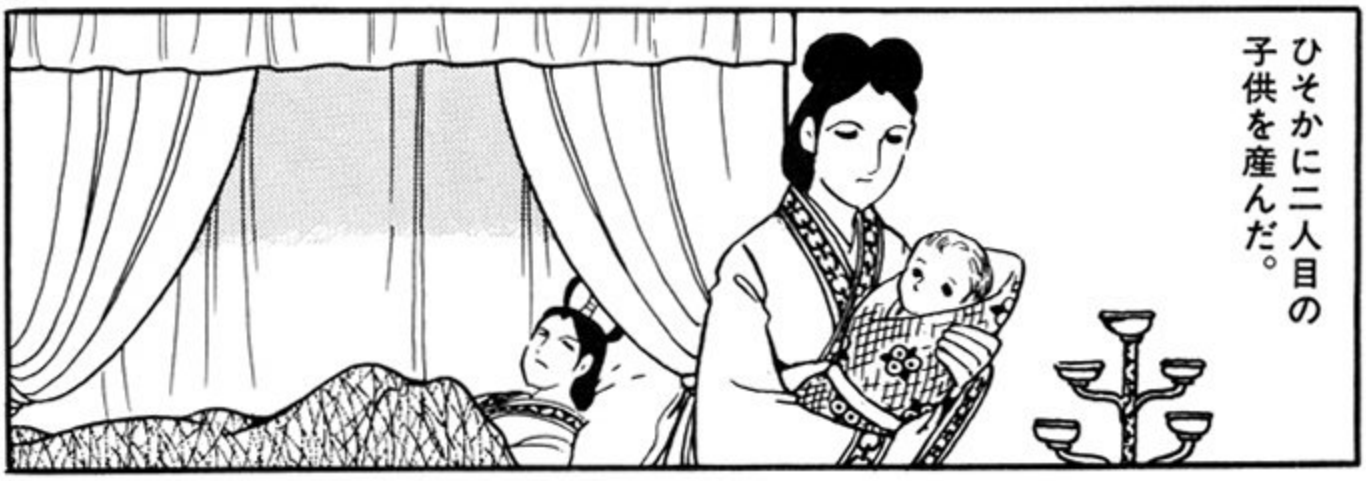
そこで子供を産み
……

そしらぬ顔で
都へ帰ってきた。

母太后と嫪毐(ろうあい)の
ただれた生活は
それからも続いた。


そして妊娠すると、
同じ理由で再び
雍(よう)へ行き……

24


ひそかに二人目の
子供を産んだ。

その頃になると
嫪毐の位も上り
後宮の権限を一手に握り、
すべてを決裁する
ようになっていた。

25

嫪家の使用人は
数千にのぼり、
仕官を求めて
集まってきた
食客も千人を
越える羽振りで
あった。

嫪毐よ、そなたに領地を与えるよう王に申しておきましたが、王はお認めになりましたぞ。
えっ、それがしに領地を…

そなたは長信侯に封じられ、山陽の地を与えられるのじゃ。追って正式に沙汰があろう。

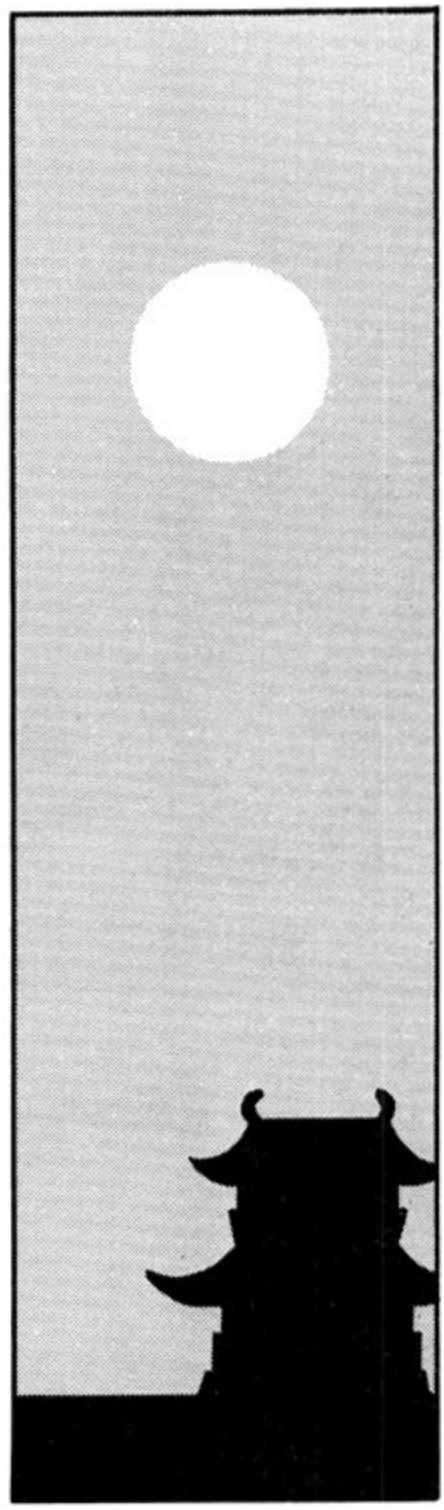
26

これみなわたしの力じゃぞ。粗末にすると許しませぬぞ。
も、もちろんよくわかっておりまする。

それから間もなく
嫪毐は正式に
長信侯に封じられ、
山陽の地を与えられた。

27

宮殿、車馬、衣服
などすべて嫪毐の
ほしいままであった。



太后さま、秦王さまの後継者は雍でお産みになられたお子さまになされたらいかがでございます。
あの子たちを……

そうなればわれらは次の秦王の父と母、わたし共が天下に号令をかけられまするぞ。

28

そうよのう、そうなればお前とこうしているのも誰にも遠慮はいらぬのう。
その通りでございます。

だが嫪毐は巨根だけで
出世した男である。
物事に細心の注意を
払うなど出来ぬ男だった。

29

それを苦々しく見ていたのは
呂不韋であった。
秦はその昔、強国策として
商鞅が厳しい法律を作った。
その法は今でも適用されていた。

密告を奨励し、
身内から犯罪者が出ると
一族も連座制で同罪と
なったのである。
呂不韋は嫪毐が偽宦官で
あることが露見するのを
恐れたのである。

30

わたしの母上の名誉にもかかわることだ。その密告者はわたしが直々に取調べる。ここへ連れてまいれ。
はっ。

その方か、母太后に二人の隠し子がいると訴えでたのは。
はい。

31

人を中傷するとその罪は重いことを承知で訴えてまいったのだな。

はい。

それでその子供は
どこにいて
その父親は誰だ。
子供は雍(よう)で
ひそかに育て
られております。
父親は長信侯
嫪毐(ろうあい)にございます。

まてっ、
長信侯は宦官だ。
どうして子ができる。

宦官という
ことになって
おりますが、
本当は去勢
されておりませぬ。
なにっ。

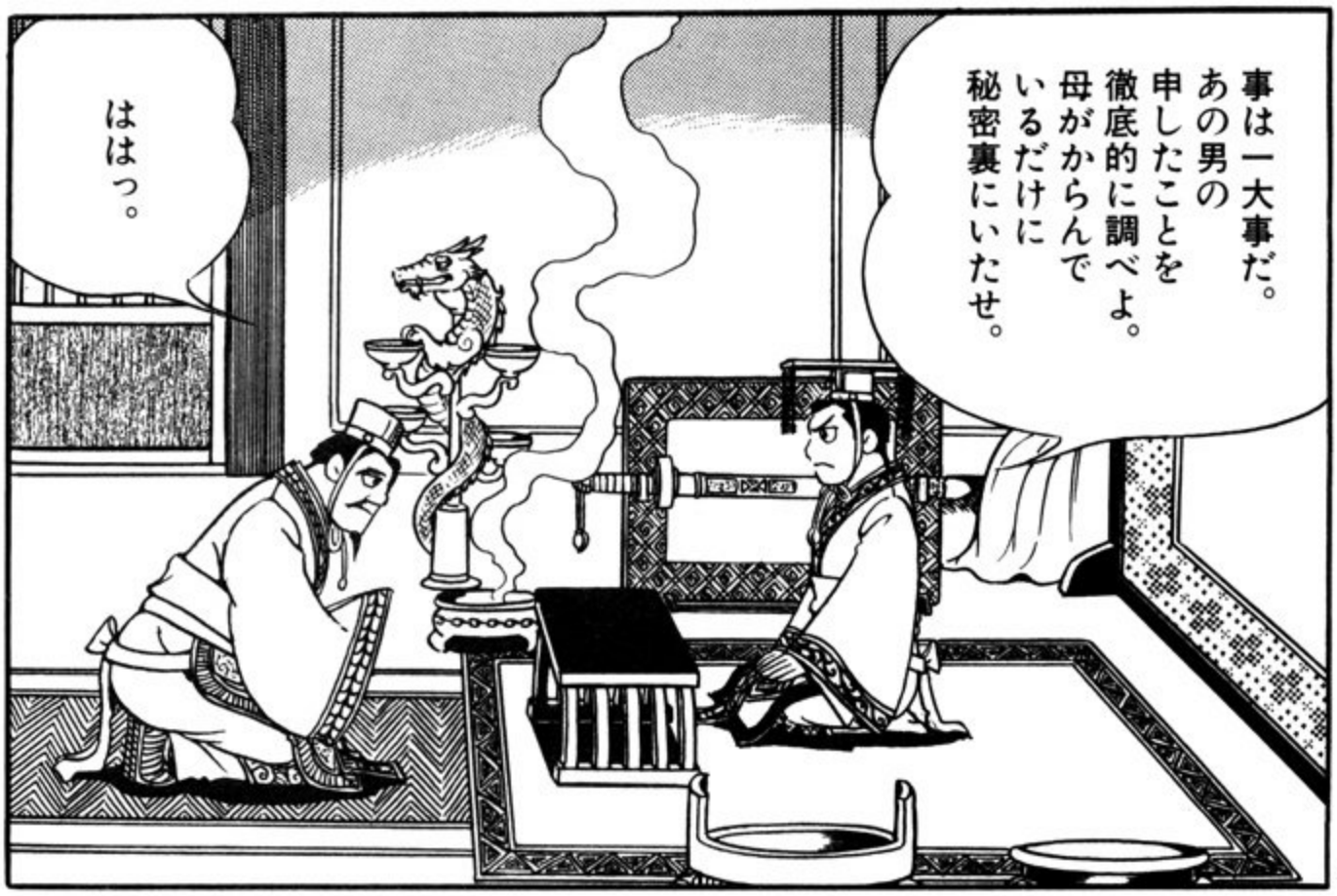
長信侯さまは
その子を
秦王さまの
後継ぎに
しようとなされて
おりまする。

32

それが嘘で
あればそちは
死罪じゃ。
はい、
よくお調べ
下さいませ。

よし、事実が判明するまでこの男は捕えておけ。
はっ。

……


事は一大事だ。あの男の申したことを徹底的に調べよ。母がからんでいるだけに秘密裏にいたせ。
ははっ。

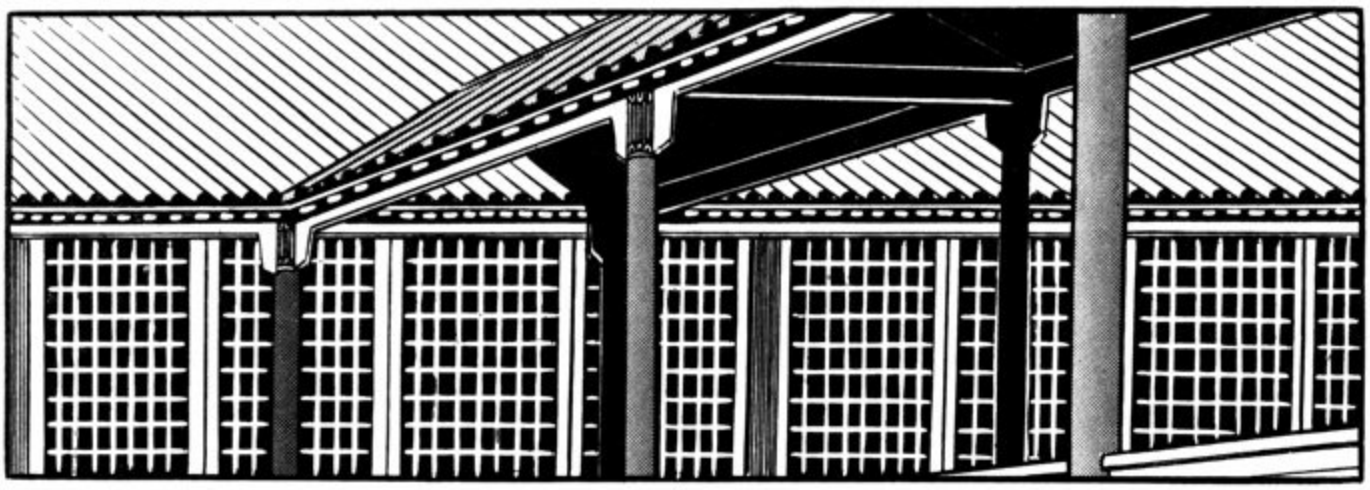
33

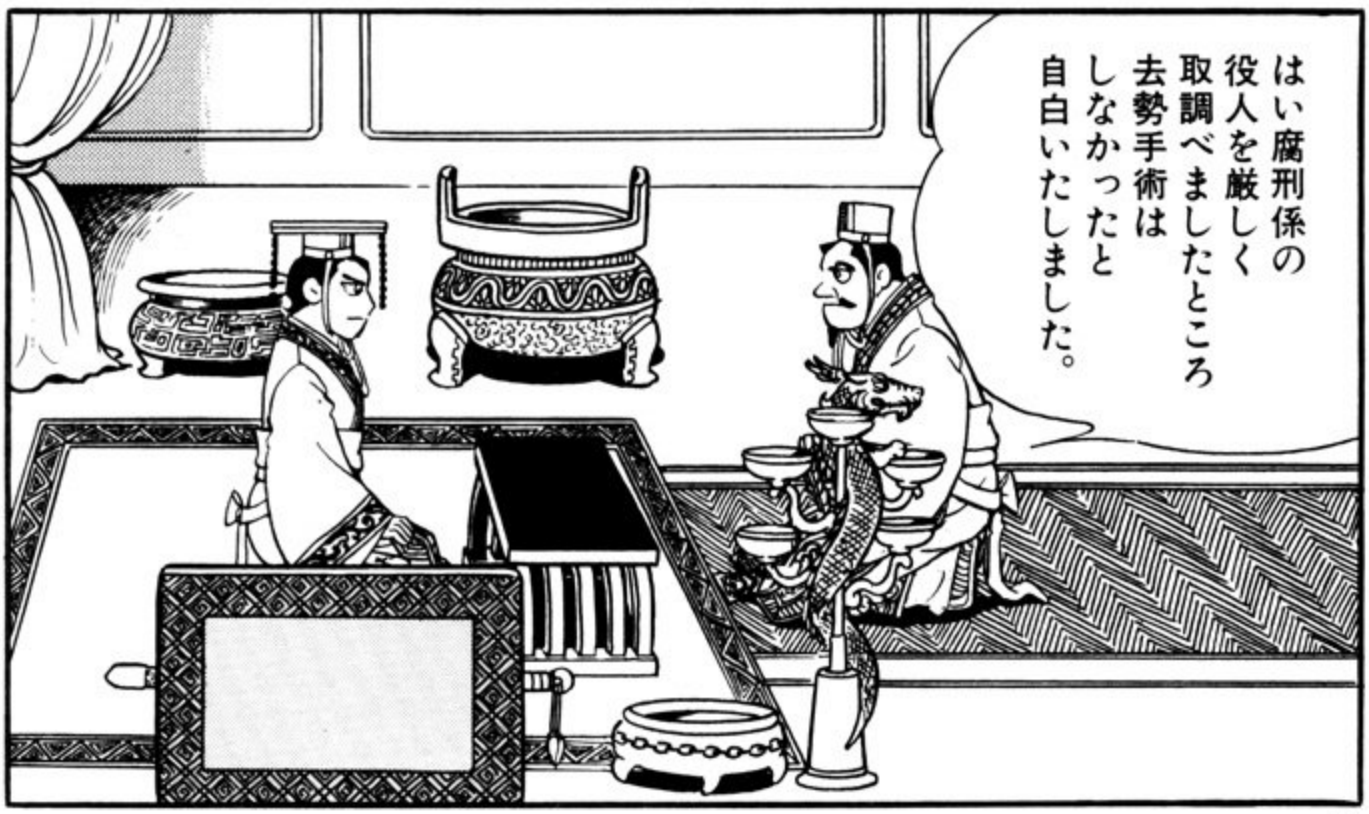
こうして
秘かに調べが始まった。
腐刑係の役人から
……

嫪毐がどうして
母太后に近づいたのか
……

34

二人の子供が
本当に存在するのかどうか……

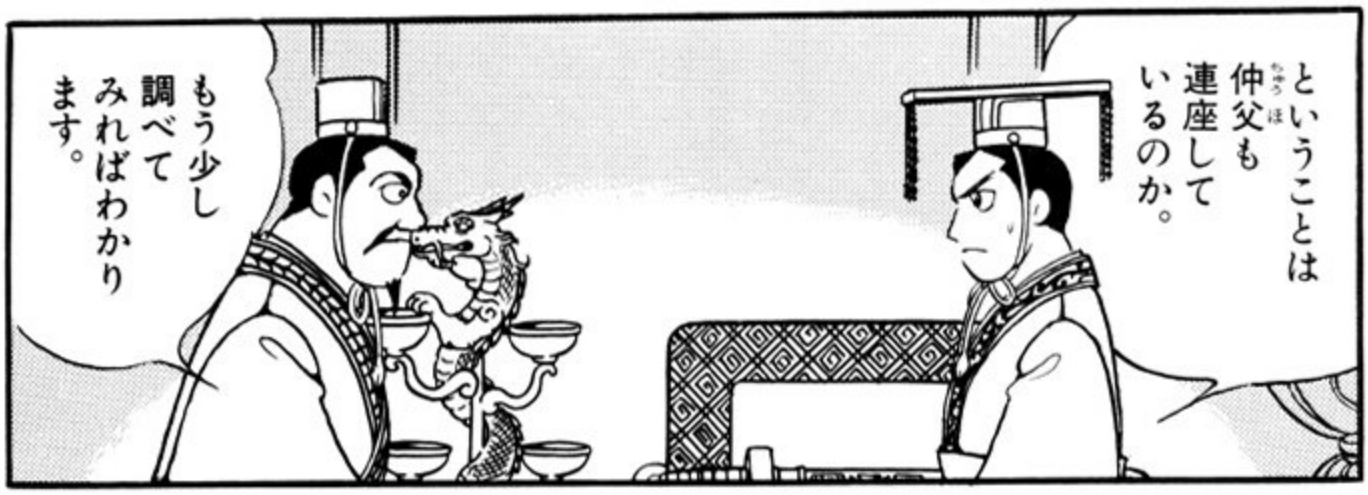



はい腐刑係の役人を厳しく取調べましたところ去勢手術はしなかったと自白いたしました。

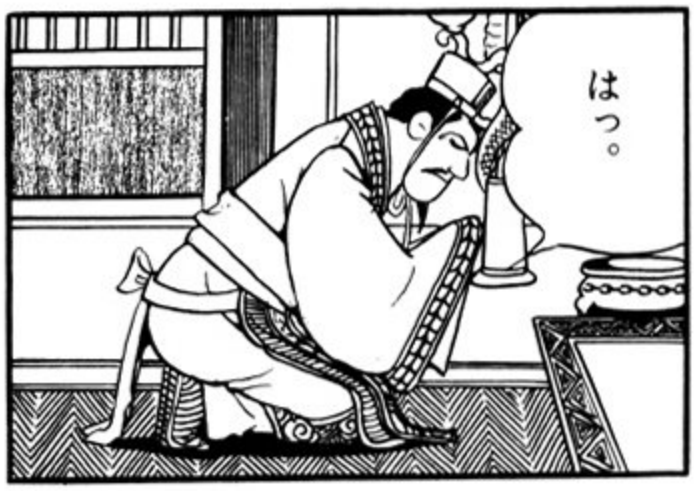
35

それに嫪毐は母太后さまに仕える前は相国さまの屋敷にいたそうでございます。

仲父の！


ということは仲父も連座しているのか。
もう少し調べてみればわかります。

よし退ってよい。


はっ。

36

呂不韋は仲父と呼ばれ、相国として権力をふるい、今嫪毐と母が次の世継ぎまで決めようとしている。これでは秦王としてのわたしの存在はどこにある。
もうわたしは子供ではない。秦の国王がわたしであることを国中に示さねばならぬ。

母といえどもやらねばなるまい。

嫪家。

なにっ、王さまがわしの身辺をさぐっていると。

はい、探りましたところ、だいぶ調べは進んでいるようです。

37

腐刑係の役人もきびしく取調べられ白状し、母太后さまの二人のお子のこともすでに知っておられるとか！

そうかそこまで調べが行っていたか……

どうなされます、他国に亡命なされますか。

ふん、みな秦王の力を恐れ受け入れてくれるものか。

こうなればやるしかない。わしらには母太后がついておられるし、相国もわれらに味方せねば連座で罰せられよう。
やるとは……

四月に秦王は雍で戴冠帯剣の儀式をとりおこなうことになっている。秦王も成人になられたということだ。

そこを襲い、秦王を討ち取り母太后さまが産まれたお子を秦王に即位させるのじゃ。
はっ。

四月、秦王・政は
儀式のために
雍へ向かった。

秦
秦

39

もちろん
嫪毐も供をした。
心の中では
いつ兵を起こすか
考えていた。

儀式は無事終えた。

その間に嫪毐(ろうあい)は母太后の印璽(いんじ)を使って…

40

県卒、衛卒、官騎などを秘かに雍の離宮に集めた。

そして反乱の兵をあげた。嫪毐は後宮べったりだったので、若い政が用心深い性格であることを知らず甘く見ていたのである。

41

42

嫪毐討伐軍は
ただちに出撃した。
用心深い秦王・政は
充分な備えを
していたのである。

43

嫪毐軍は蹴散らされ、
敗走をはじめた。

秦王・政は
嫪毐を捕えた者には、
銭百万、殺した者には
銭五十万を懸賞と
して出した。

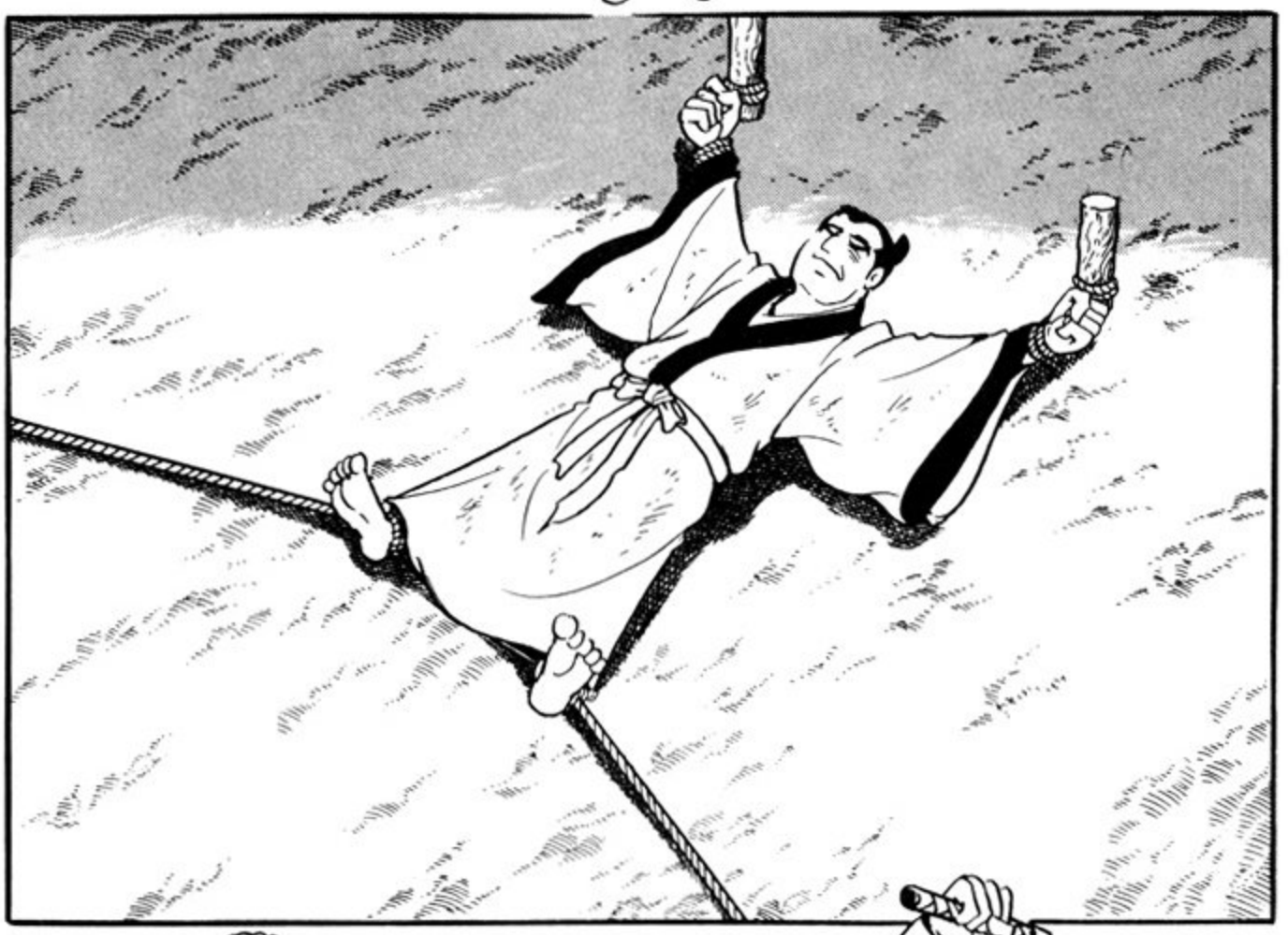
44

兵士たちばかりでなく、
農民までが
嫪毐の姿を求めた。

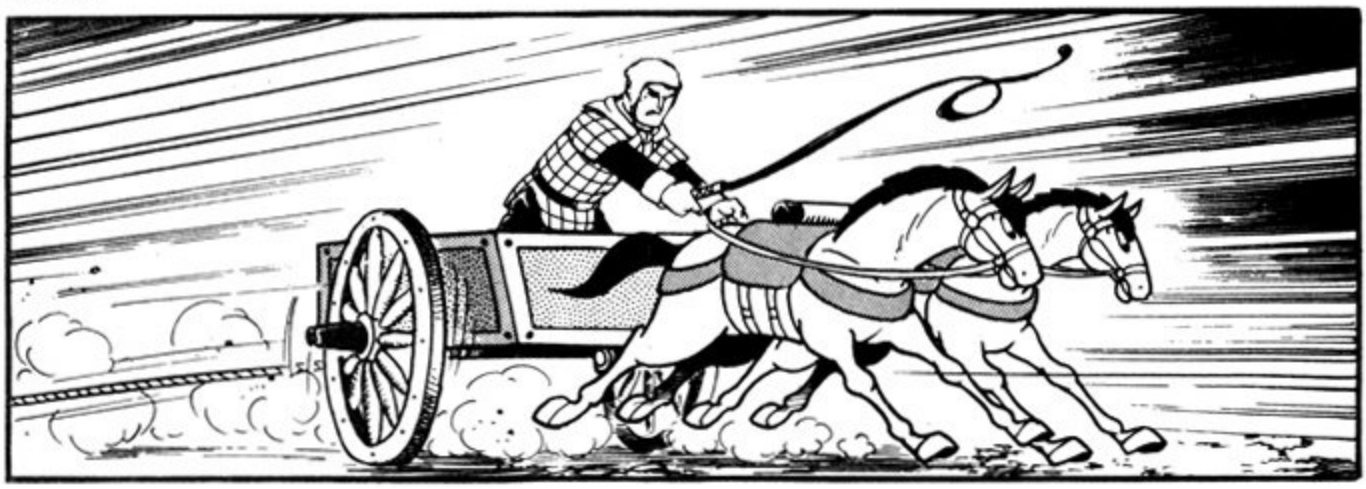
こうして
嫪毐一族は
一網打尽となった。

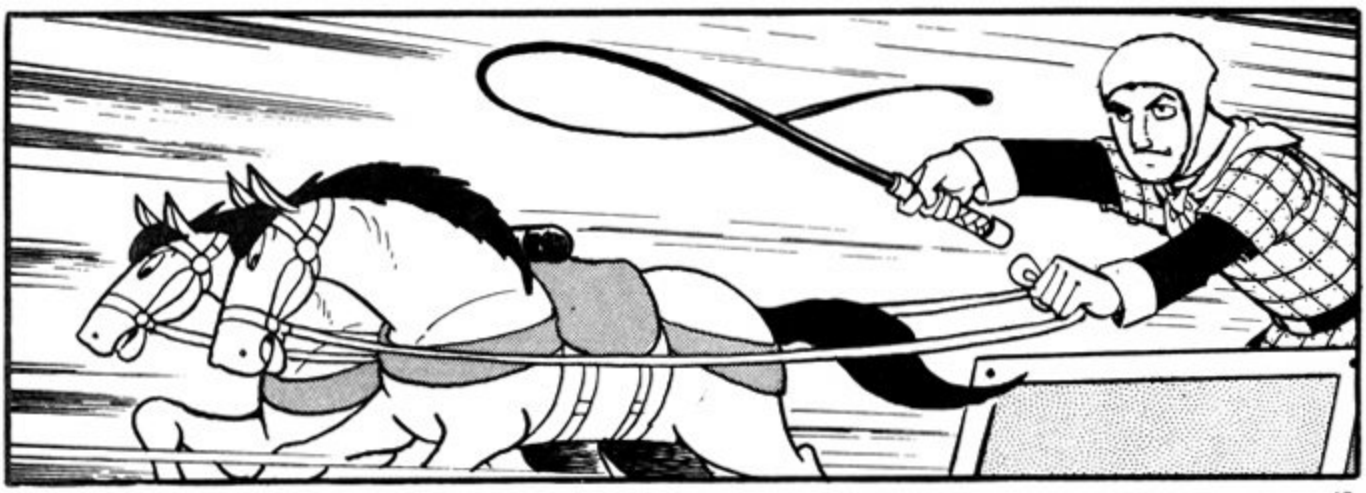
45

その方達
おもだった者二十名は
車裂きの刑とし
さらし首とする。

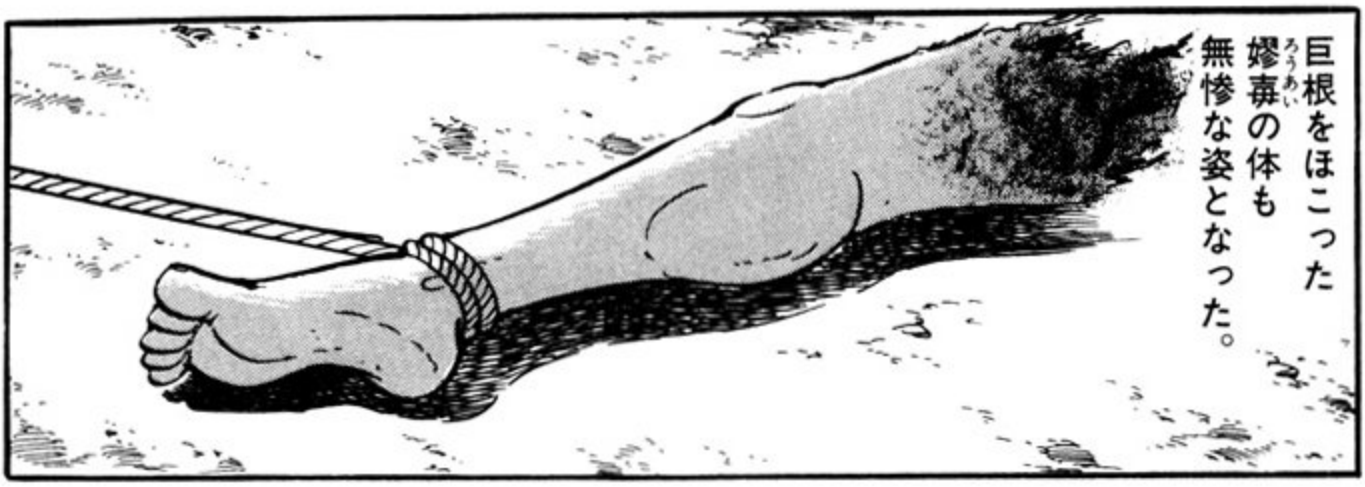


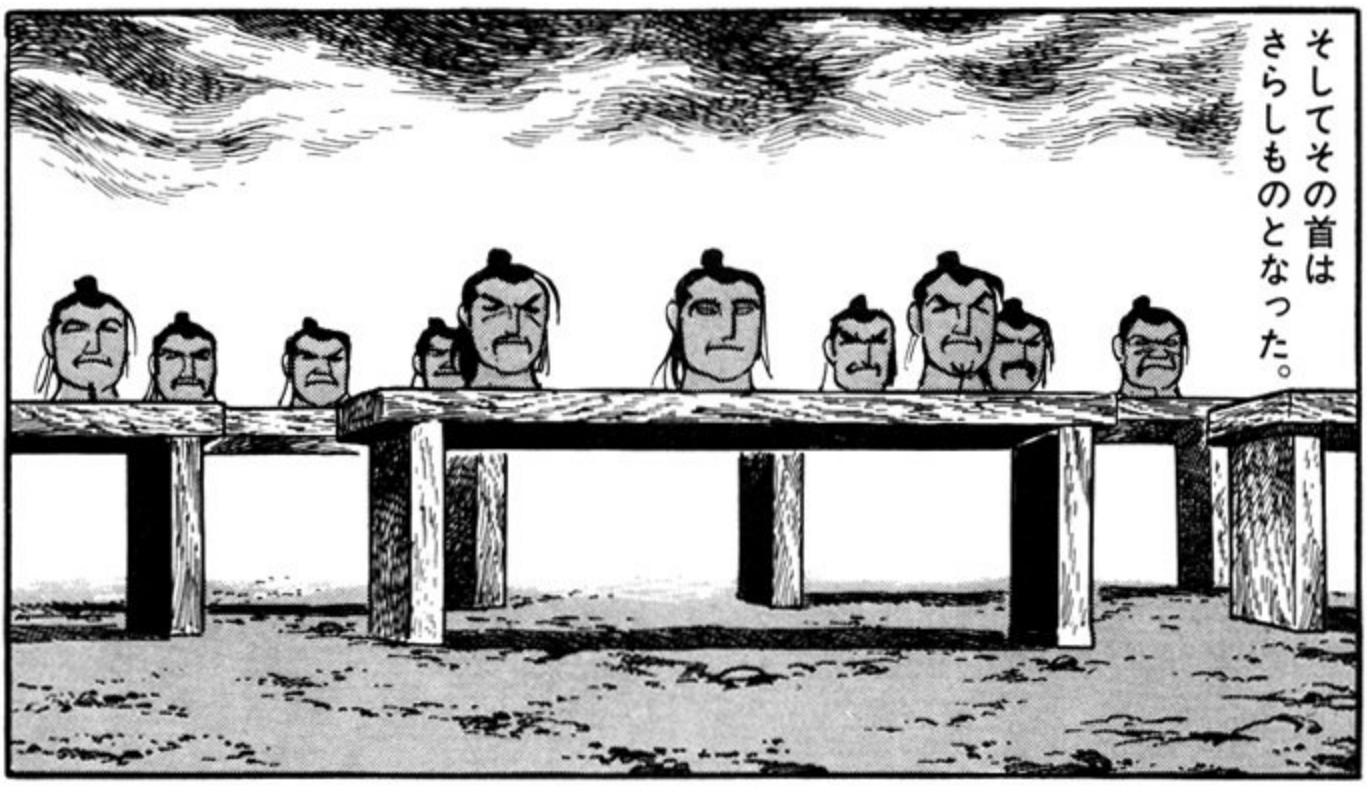
46





47


巨根をほこった
嫪毐の体も
無惨な姿となった。


そしてその首は
さらしものとなった。

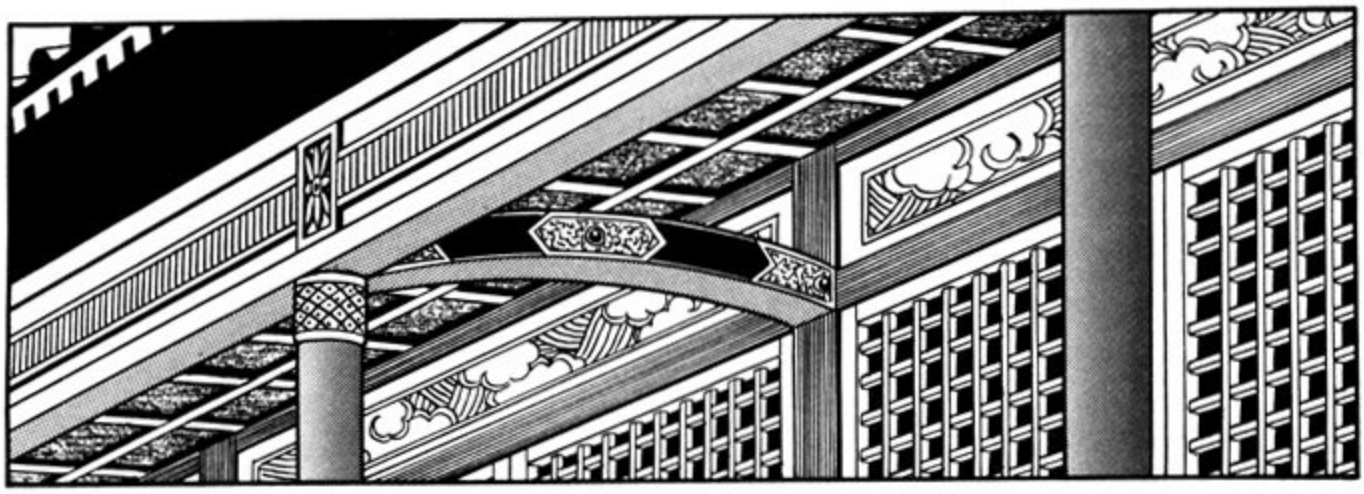
48

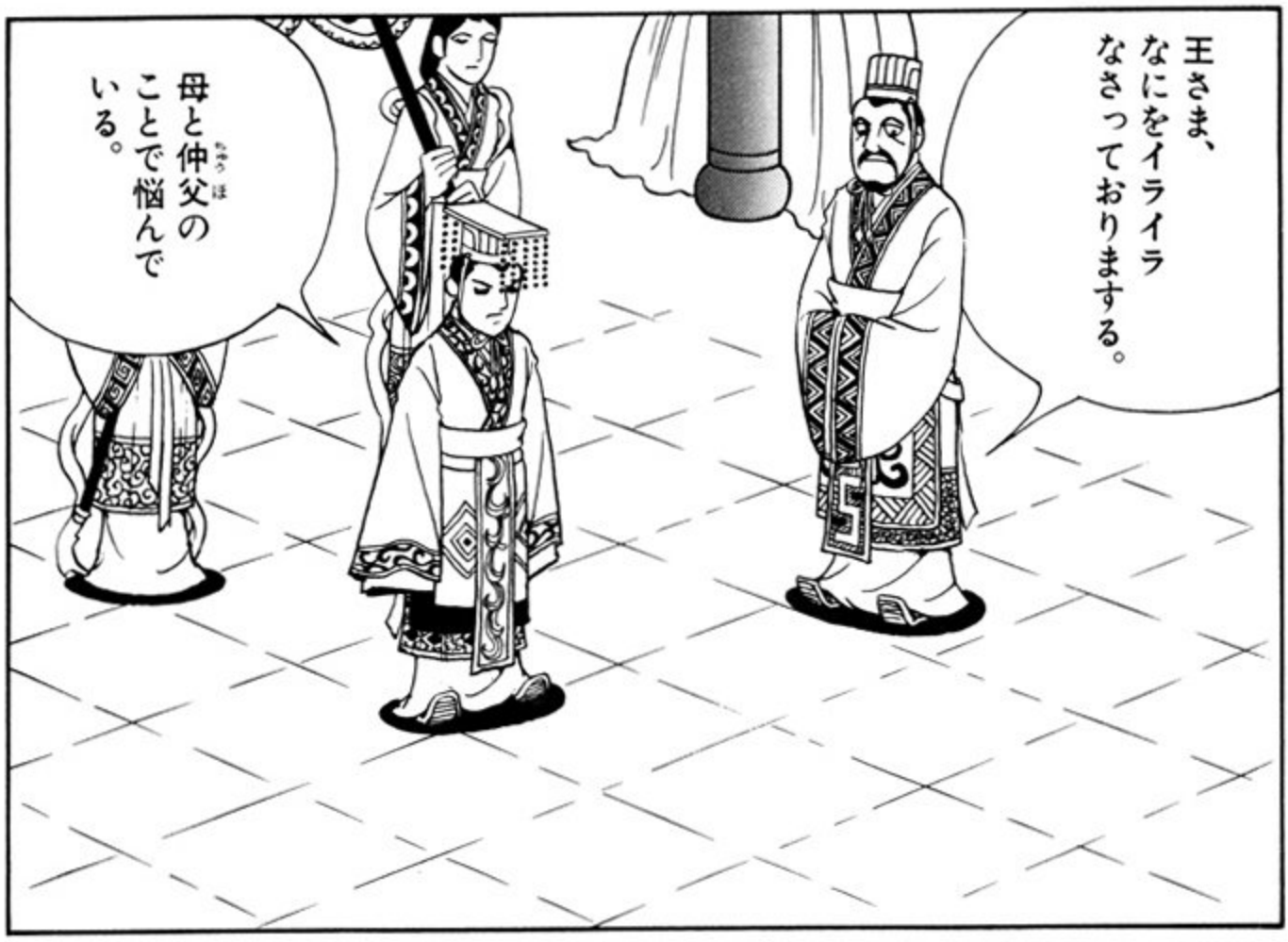
母太后と嫪毐との間に
出来た二人の子も処刑された。

そして罪の軽い者は
蜀に送られた。
蜀は険峻な山々に
とりかこまれ、人も
通わぬという僻地で
あった。

49

後の世に劉邦が絶壁に
桟道を作って咸陽に
攻め入ったのは有名な話である。




王さま、なにをイライラなさっておりまする。
母と仲父のことで悩んでいる。

50

だが仲父がわが父にしてくれた功績は大きい。わしが今日、秦王になれたのも仲父のおかげだ。

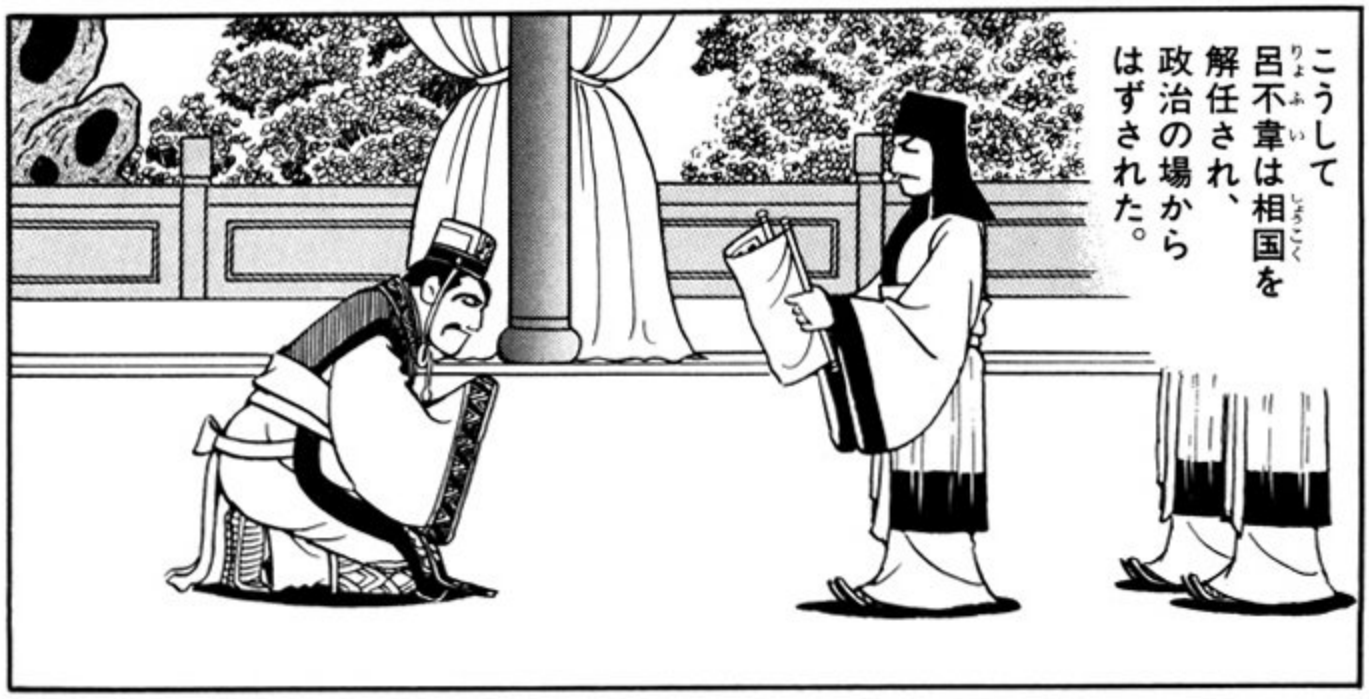
本来ならば連座制により母も仲父も死刑にせねばならぬ。

それだけではない、仲父の抱える学者（食客）たちが連日のように仲父の命乞いに来る。
まただらしない母といえども母は母じゃ。それを考えるとどう裁こうかと悩むのじゃ。

お気持ちお察しいたします。

いかがでございましょう。仲父は相国を解任し、自分の領地で暮らすようにし、母太后も他の国で暮らすようにいたしますれば。
なるほど。

51


こうして呂不韋は相国を解任され、政治の場からはずされた。

その年の十月
斉と趙の使者が
秦を訪れた。

52

政は使者の労を
ねぎらうために
宴を開いた。

秦王さま、
それがし、秦に来る
途中で変な噂を
耳にいたしました。

なにかな
？

母太后を追放
するという噂です。

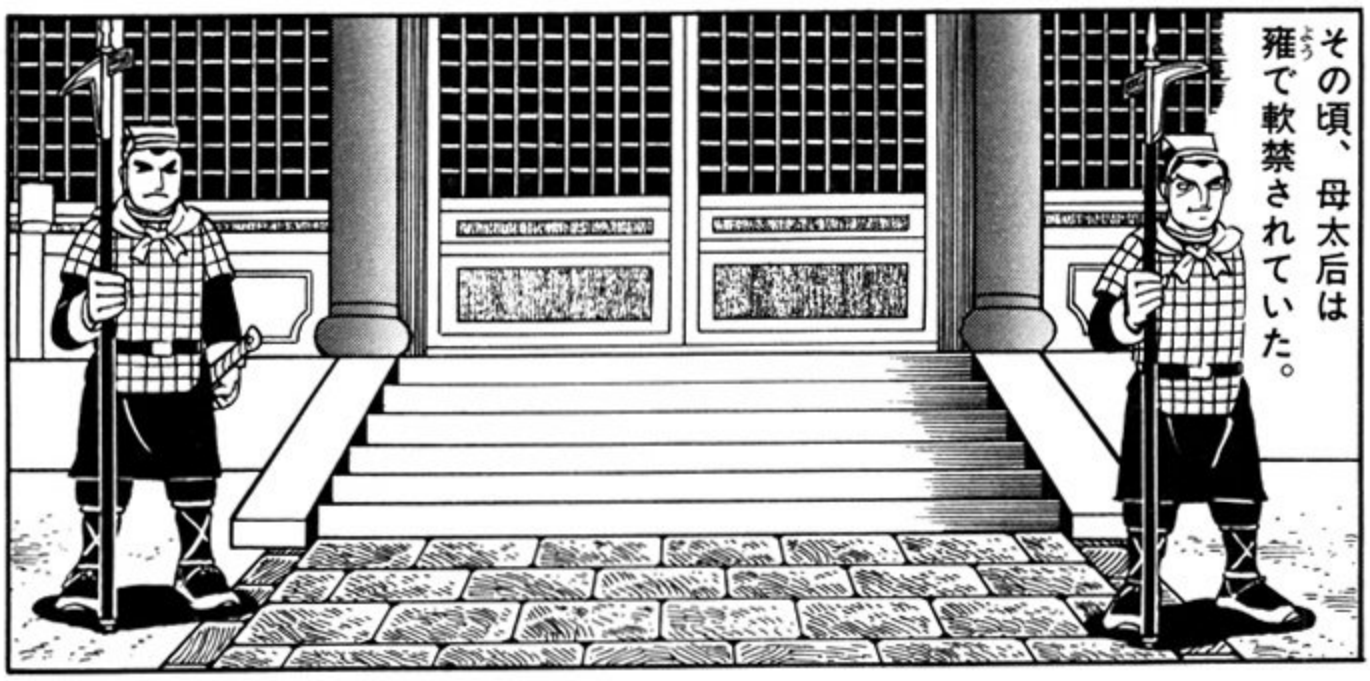
大王さまは
いずれ天下に
号令なされる
お方です。
だが人の道を
踏みはずすような
事をなされば、
諸侯の中から
秦に背くものが
出てくるかも
しれませぬ。

ははははは、
それは悪い噂だ。

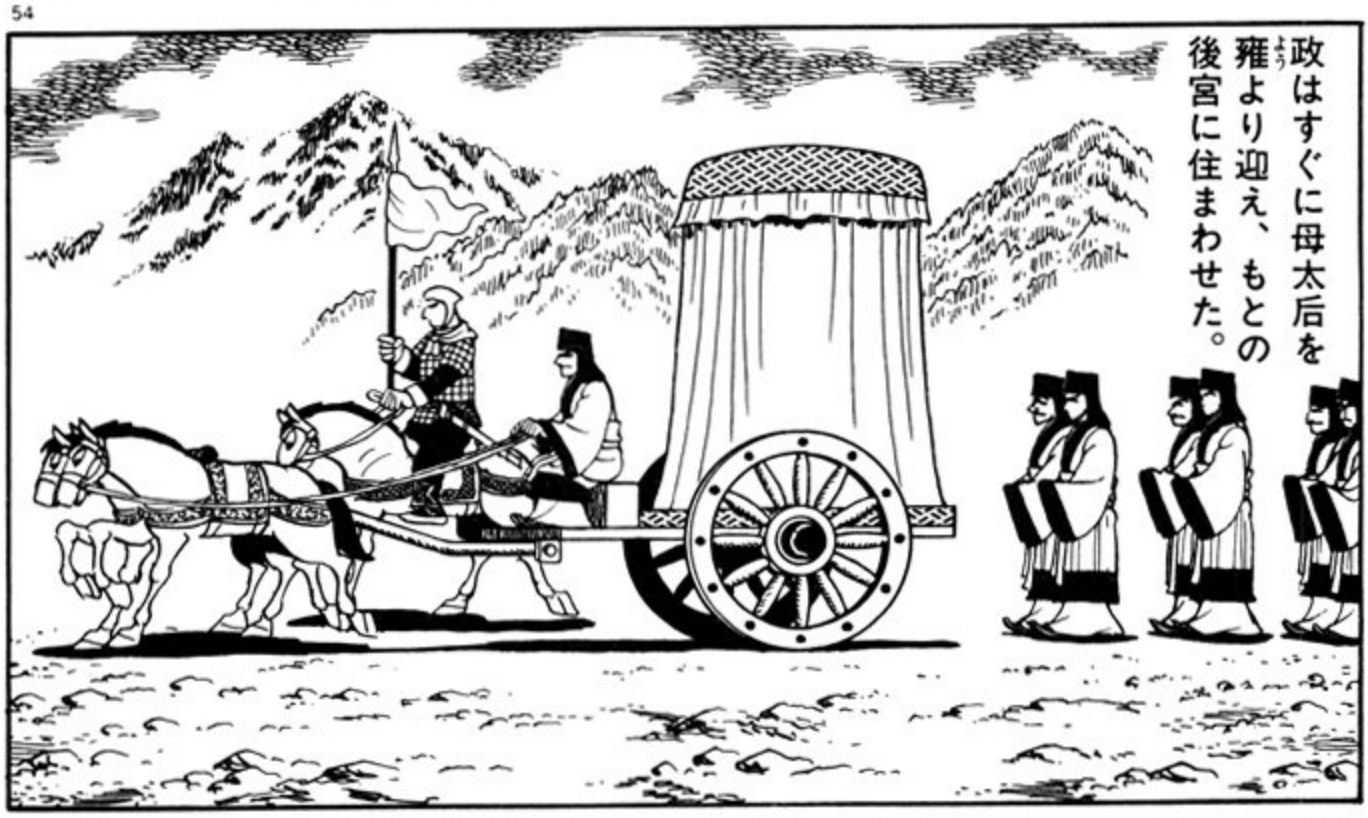
先祖の霊をうやまい、
父母を大切にする
ことは当然ではないか。
そのようなことを
するわけがなかろう。

それを聞いて
安心いたしました。
天下人はそう
あらねばなりませぬ。

ははは、
そのような噂が
あるとは知らなんだ。
その噂は早々に
消さねばならぬのう。


その頃、母太后は
雍で軟禁されていた。

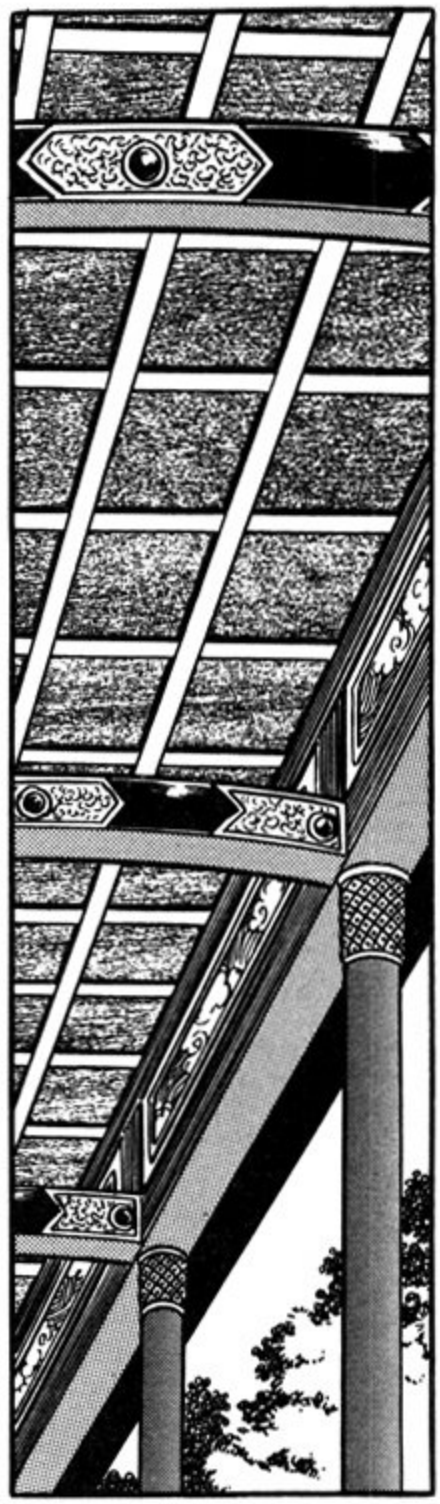
54


政はすぐに母太后を
雍より迎え、もとの
後宮に住まわせた。

一方、相国を解任され
河南の領地で暮らす
ようになった
呂不韋だが、その
声望はおとろえて
いなかった。

55

連日、諸侯の賓客や
使者が面会を求めて
河南を訪れていた。



呂不韋のもとへはあいもかわらず諸侯の使者がおとずれているのか。
はい、道に列をなすありさまとか。

まずいな。
は…？

56

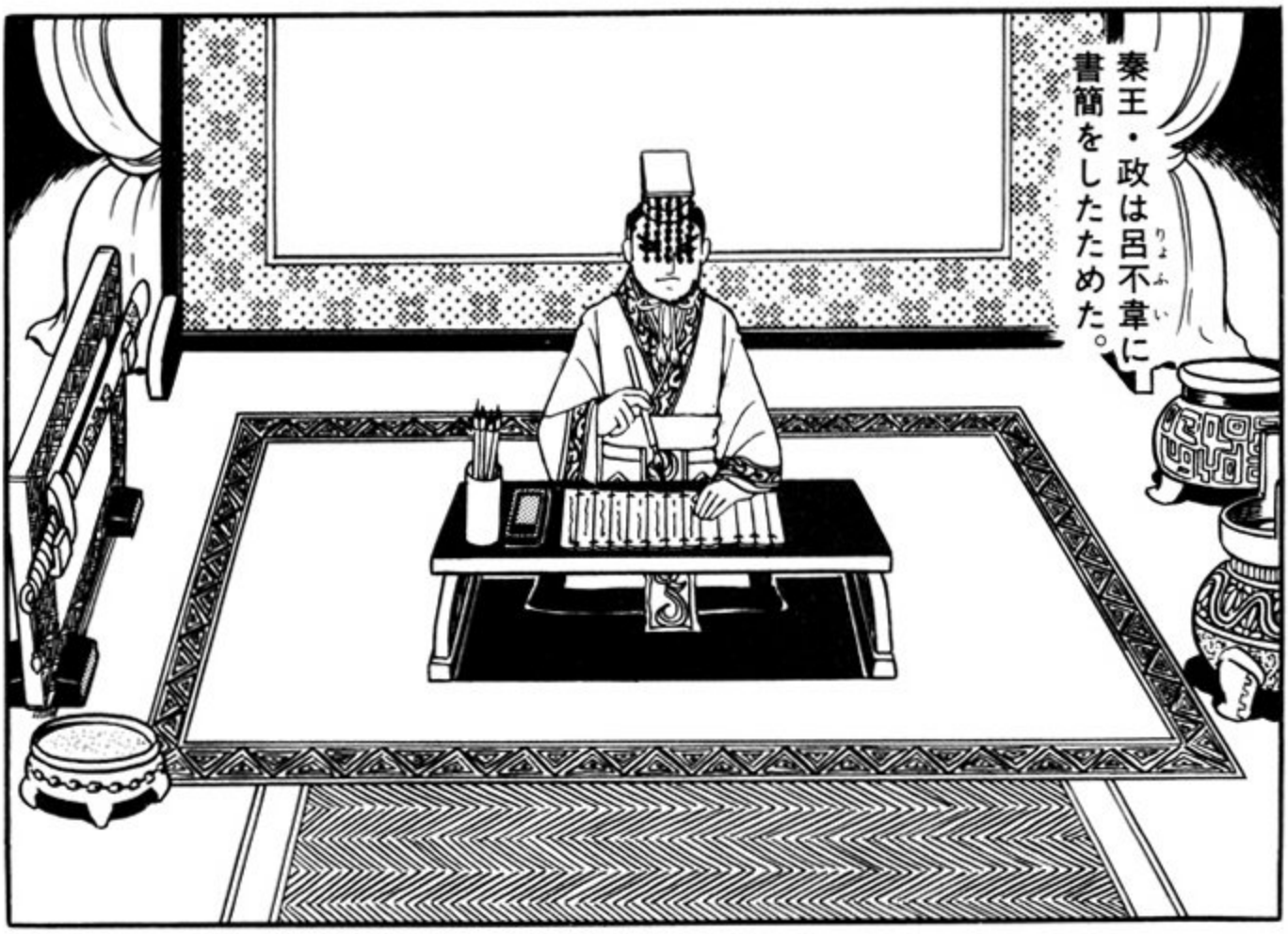
いや、なんでもない。退ってよい。

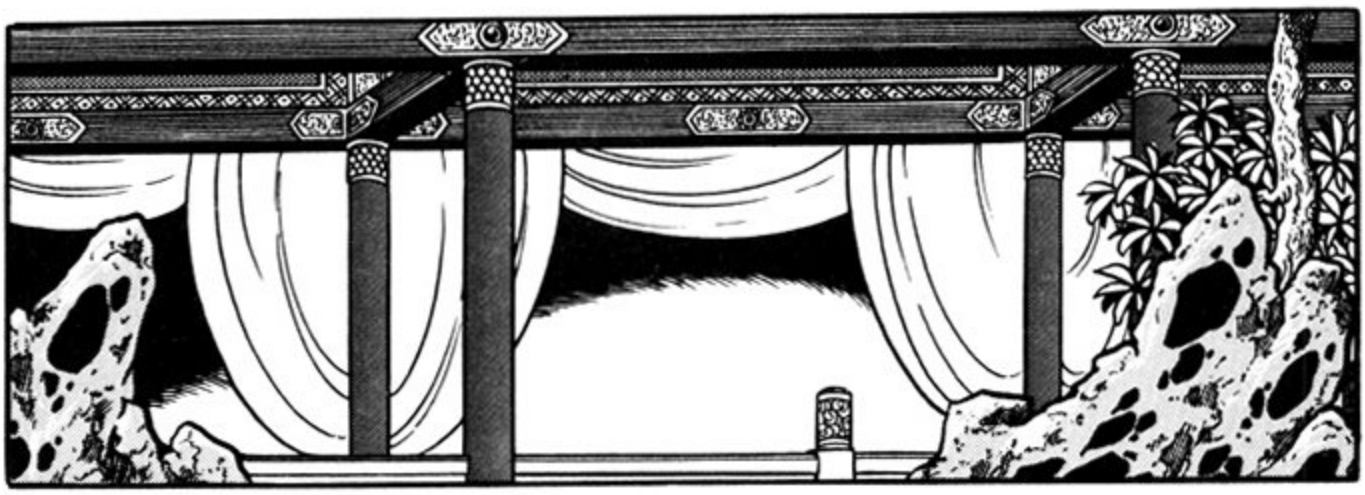
はっ。

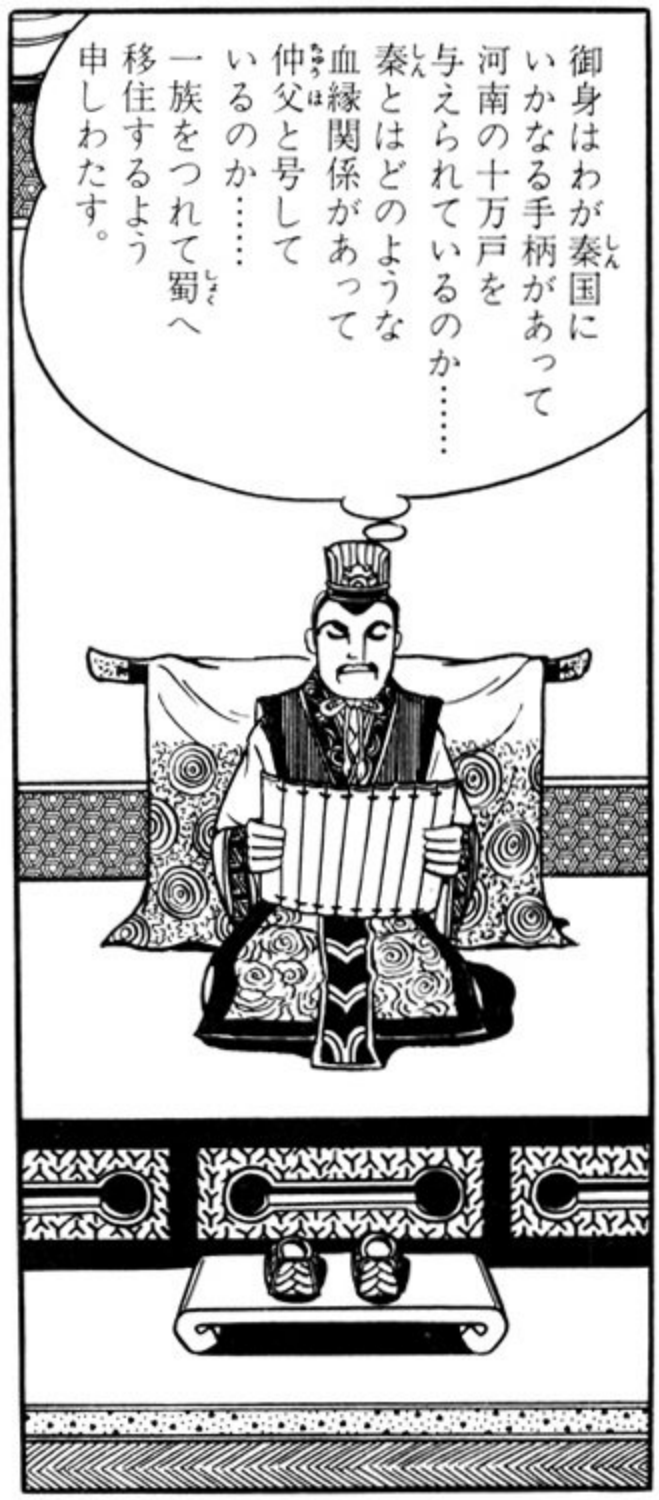
呂不韋が謀反を企めば嫪毐のようなわけにはいくまい。
すぐれた食客を三千人も抱え、諸侯に人気もあるとなれば呂不韋に味方する諸侯もあらわれよう。

呂不韋の力をそいでおくのは早いほうがよい。
猜疑心の強い政は呂不韋の謀反を恐れていたのである。

57


秦王・政は呂不韋に書簡をしたためた。




御身はわが秦国にいかなる手柄があって河南の十万戸を与えられているのか……秦とはどのような血縁関係があって仲父と号しているのか……一族をつれて蜀へ移住するよう申しわたす。

ご主人さま、秦王さまから何をいって参ったのでございますか。

今になって血縁関係もないのになぜ仲父と称しているのかと言って参った。その罪により蜀へ行けとのことだ。

58

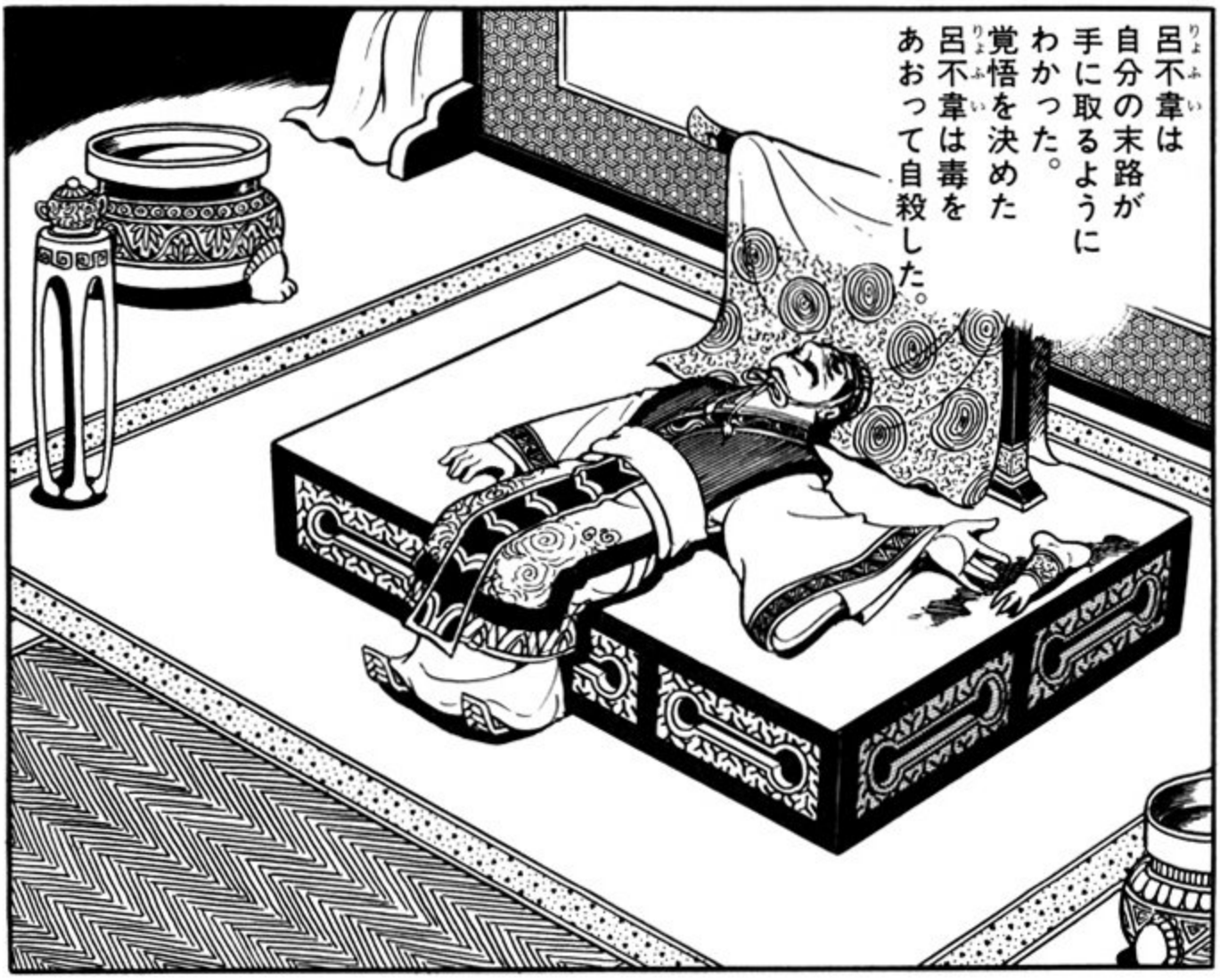
ええっ、今頃になってどういうことにございます。

王は嫪毐の乱の時、
わたしも連座で
処刑したかったのじゃ。
だが荘襄王への
恩を思うと処刑
できなかった。

今頃になって
こんなことを
言いだすとは、
秦王はまだ
わたしを許してないと
いうことじゃ。

こうして権力を
奪っていき
いずれ誅殺する
つもりであろう。

59


呂不韋は
自分の末路が
手に取るように
わかった。
覚悟を決めた
呂不韋は毒を
あおって自殺した。

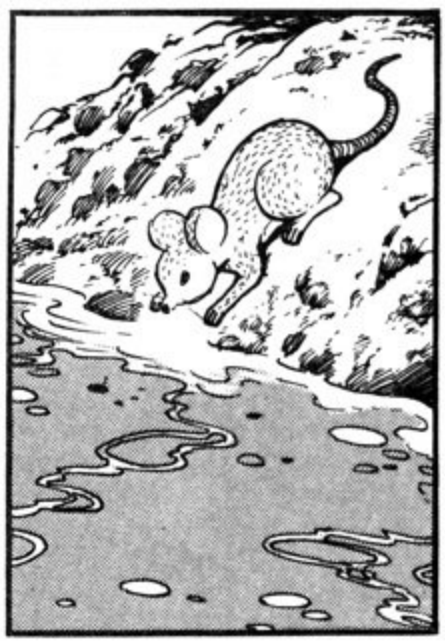
一人の女性の好色に
よってこの悲劇は
起こった。若い政は
これで国の実権を
握り、始皇帝と
しての道を進み
はじめるのである。

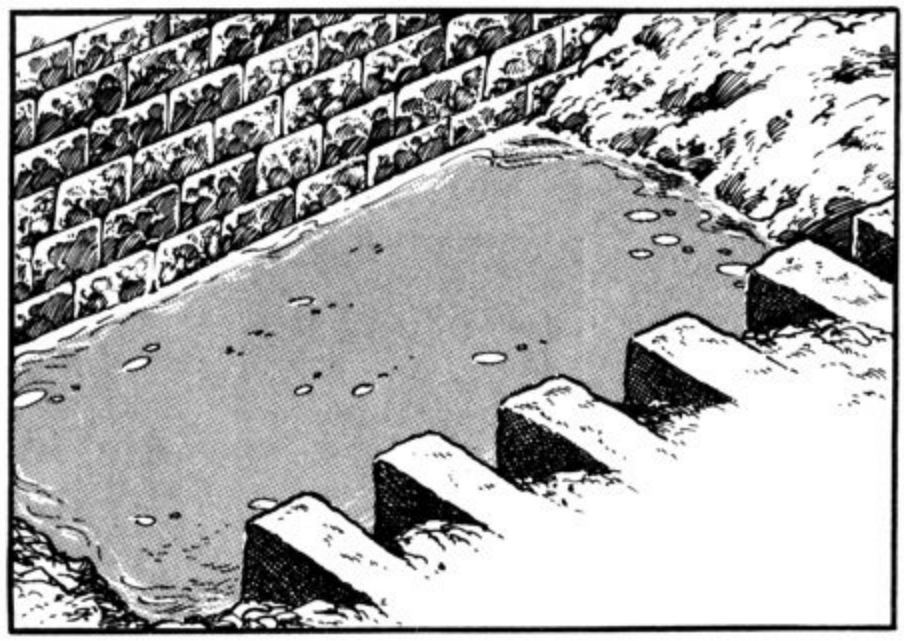
60

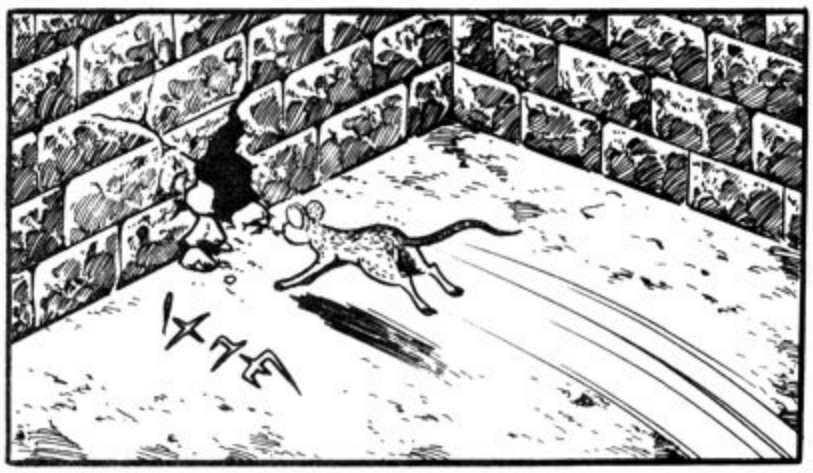
第2話 我れ鳥獣にあらず

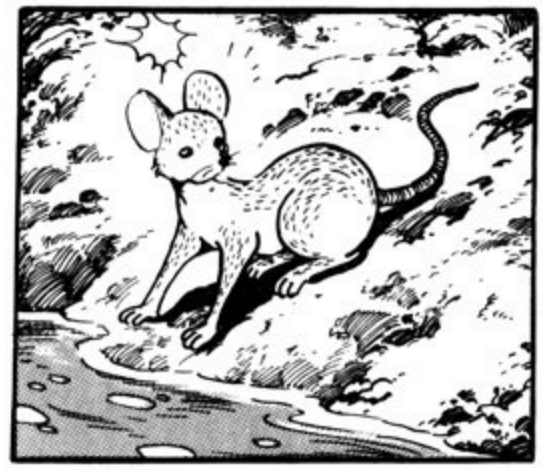
李斯(りし)は楚(そ)の人で、郷里の役場につとめる貧乏な小役人(こやくにん)であった。

2





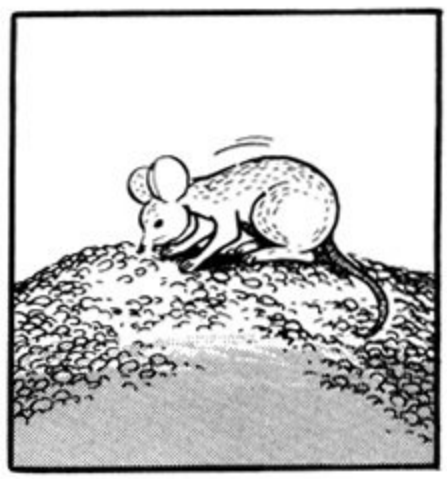


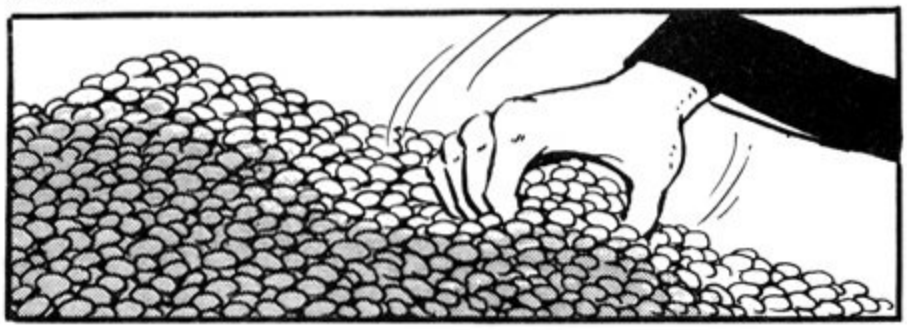


3

李斯、こちらの食糧の量は計算は終わった。そちらを数えてくれ。
はい。

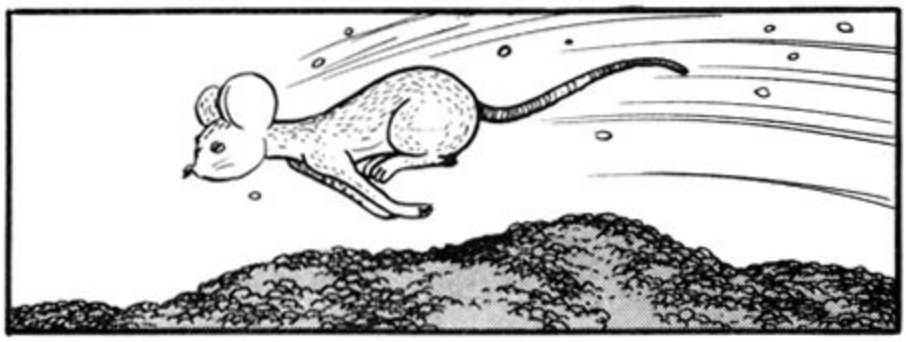
ポリポリ



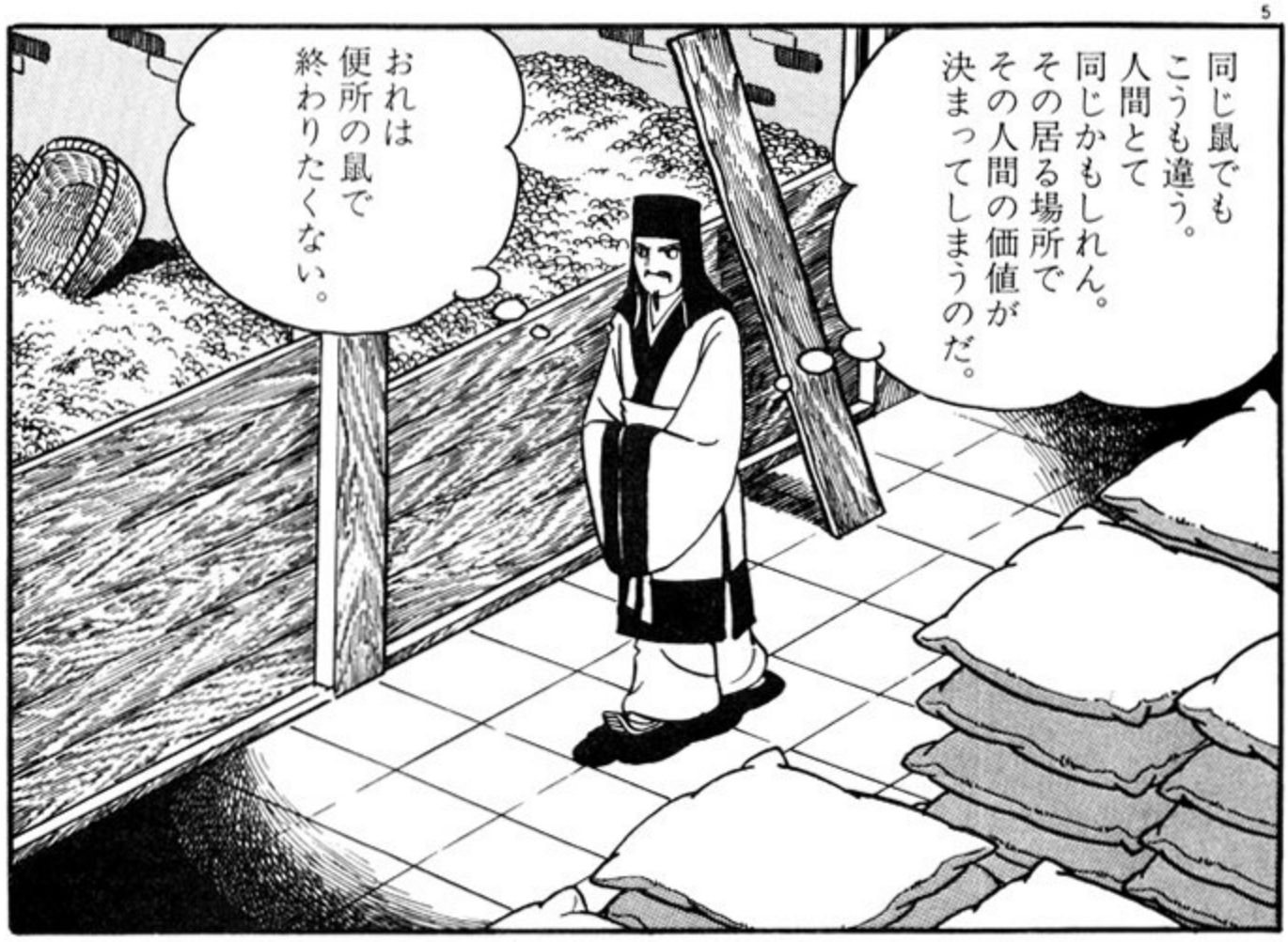


便所の鼠は
人の姿にびくびく
しながら汚物を食べ、
食糧庫の鼠は
大きな家に住みつき
食べるものにも
こと欠かずゆうゆうと
生きている。

こらっ、
少しは
遠慮しろ。



5


同じ鼠でも
こうも違う。
人間とて
同じかもしれん。
その居る場所で
その人間の価値が
決まってしまうのだ。
おれは
便所の鼠で
終わりたくない。

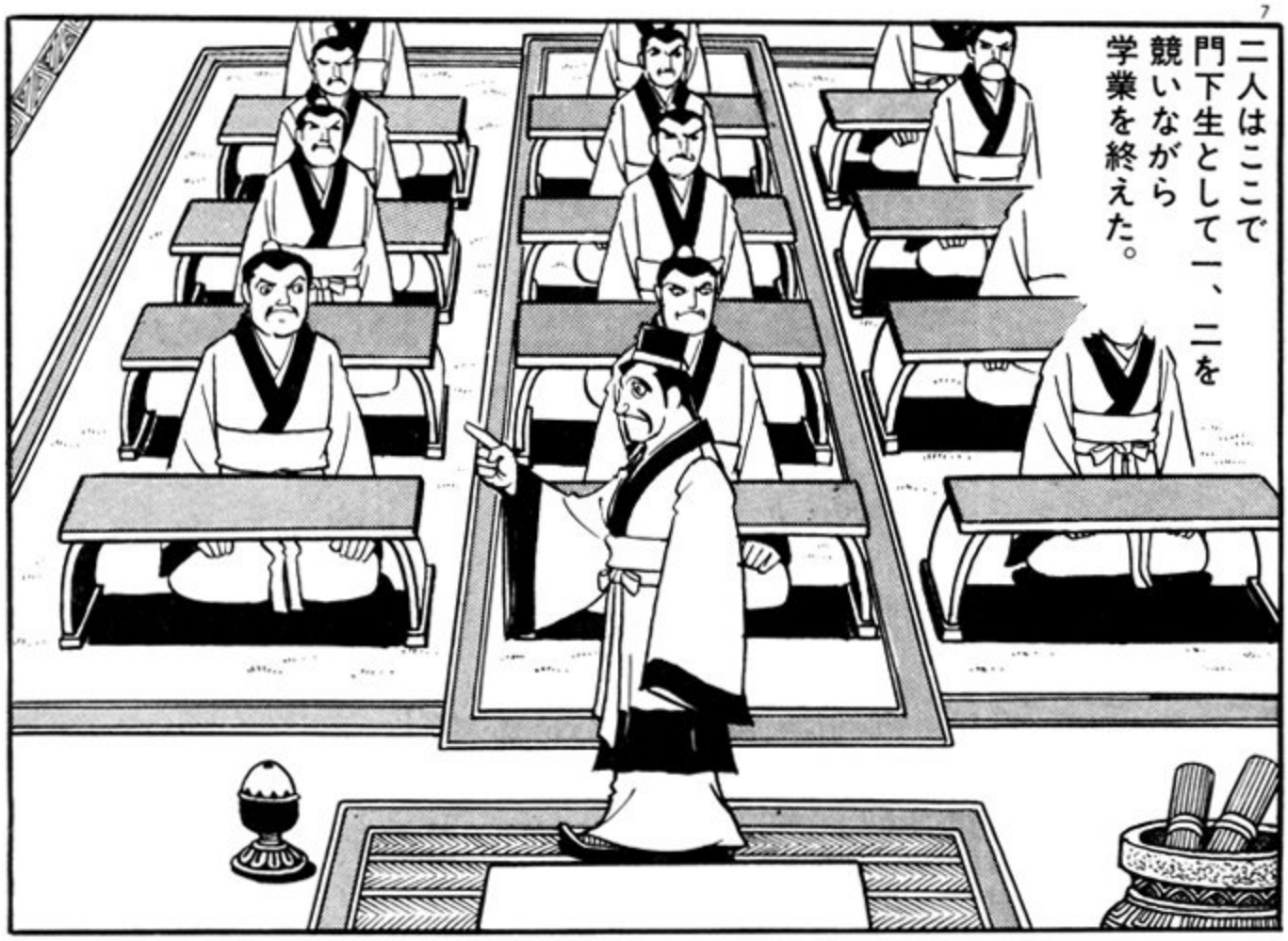
二匹の鼠の姿を見て
一念発起した李斯は
荀卿（荀子）のもとで
学問を身につけようと
考えた。

6

孟子が「性善説」を
となえたのに反し、
荀子は「性悪説」を
となえた学者である。
人間の本性は悪である、
だから礼法による
秩序維持が必要で
あると説いた。

李斯はここで
帝王政治学を
学んだ。

同門に、
のちに「孤憤」「五蠹」
「内外儲」「説林」「説難」を
書いた韓の公子
韓非(韓子)がいた。


二人はここで
門下生として一、二を
競いながら
学業を終えた。

先生、長い間お教えいただきありがとうございました。

いや、貴公もよく学ばれた。

ところでこれからどうなさる。

8

はい、「時機をつかめばゆるがせにするなかれ」ということがございます。

いま天下は抗争の時代です。遊説の士が重きをなす時代です。

いま天下の動きを見ますると、もっとも優勢なのは秦で秦王は天下を併呑し帝と称して統治せんと望んでおりまする。これこそ遊説の士の絶好の出番なのです。

地位もなく財もなき身でありながらこの機会をつかもうとしない者は、目の前のえさを喰うことしかできぬ鳥獣と同じです。
人間として出世する機会があるのに出世の努力もせず貧乏に甘んじ、世間に背を向けて富貴を憎み、うぬぼれて高潔とおさまっているのは人間の本性に反するものです。

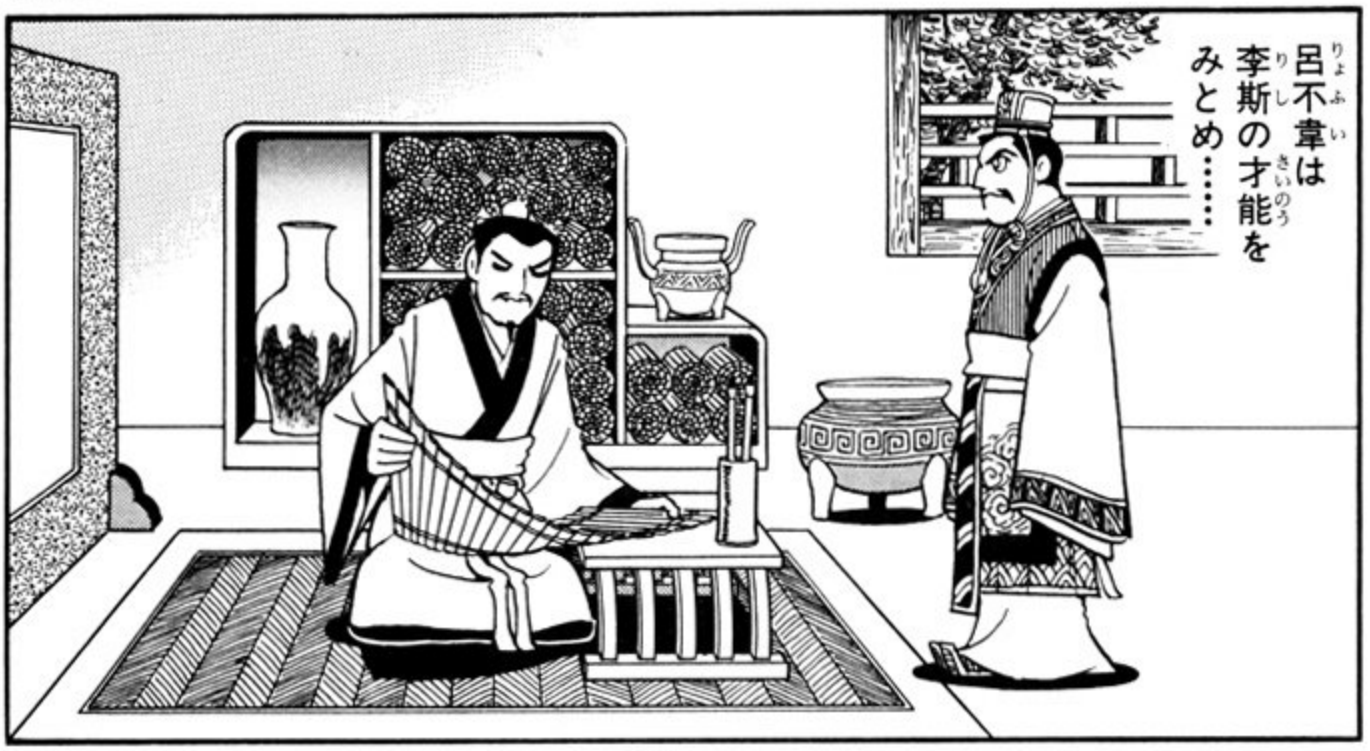
それがしはここで学んだ学問を生かし、秦王を説いてみようと思います。
そうか、人それぞれ進む道があろう。頑張りなされ。

9
こうして李斯は秦へ向かった。

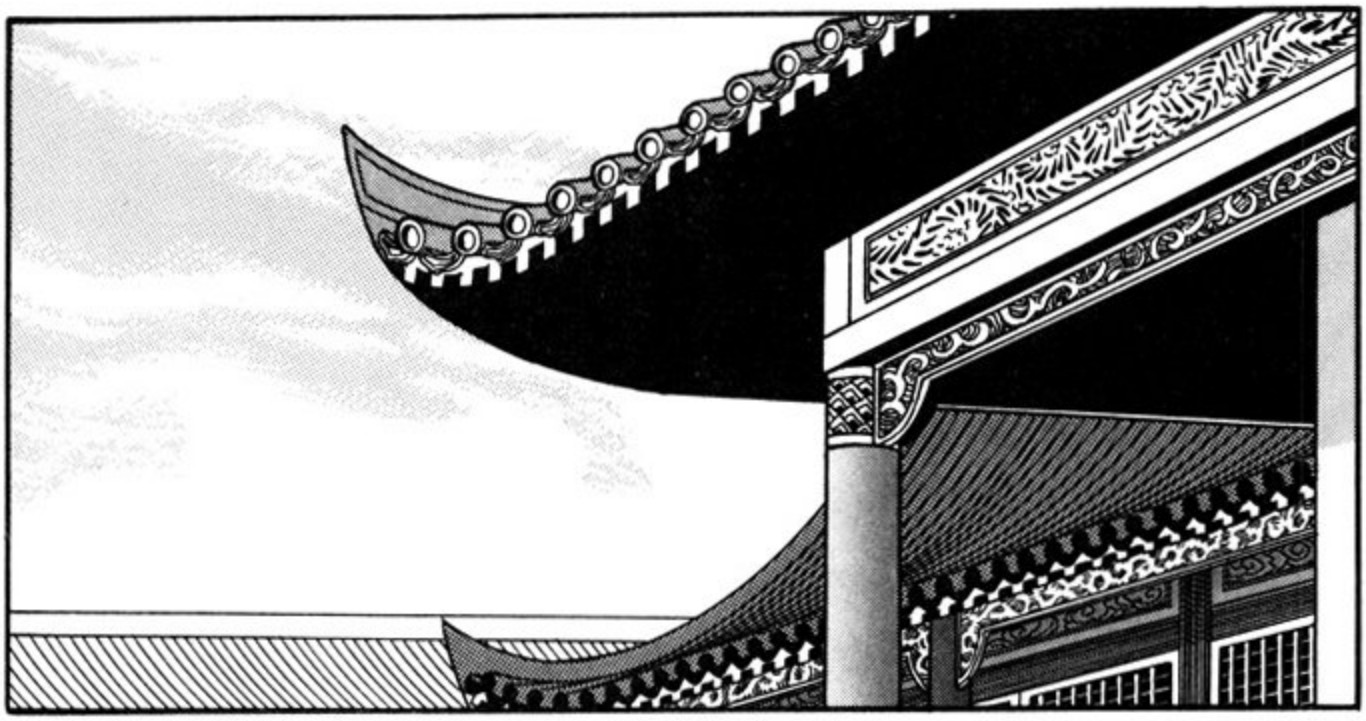
李斯が秦に
着いたのは、
十三歳の若き秦王政が
即位したばかりの
時であった。

10

李斯は秦の実力者
丞相の呂不韋の
門をたたき
食客となった。



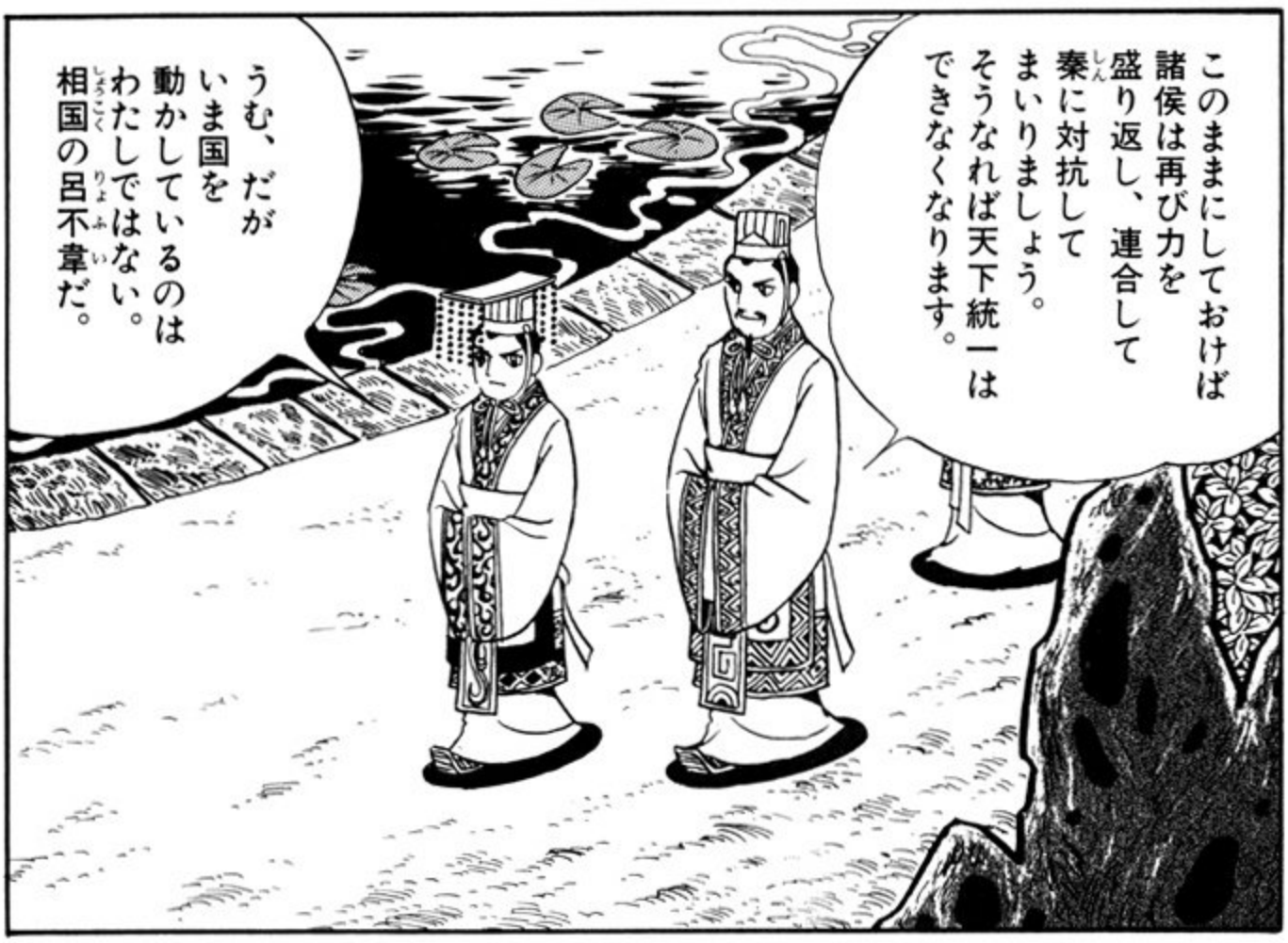
11



12

秦王さま、
大事をなすには
他人の過失をぼんやりと
待っていてはなりません。
他人の過失につけこみ
容赦なく叩くことなのです。
凡人はその機会が
わからないので
絶好の好機を
逃してしまうのです。

いま諸侯はすっかり秦の威光に屈し臣下も同然です。いまこそ一気に平定してしまうべき時なのです。
うむ。


このままにしておけば諸侯は再び力を盛り返し、連合して秦に対抗してまいりましょう。そうなれば天下統一はできなくなります。
うむ、だがいま国を動かしているのはわたしではない。相国の呂不韋だ。

わたしが国の実権を握ったらそれをやろう。そちの言葉は覚えておく。

ははっ。
これが李斯の最初の進言であった。

だが若い秦王が国の実権を握る時は意外と早く来た。「嫪毐の乱」が起こり、

14

その関連で実力者呂不韋は権限を剝奪され自殺をしたからである。

李斯よ、そろそろ天下統一をめざそうと思うがどうすればよい。

まず内から乱して外から撃つことです。

15

内から乱す。

はい君臣の仲を離間させることです。

それがしも李斯どのと同じ考えです。
ほう尉繚もか……
尉繚は政に兵法を教えている人物である。

はい、この際金に糸目をつけず諸侯の重臣にばらまき、足並を乱してしまうのです。おそらく三十万金(三百万両)もあれば充分かと存じます。

しかし金に動かぬ者もいよう?

その者は刺客を放って殺してしまうのです。

16

よし、李斯、その策を実行にうつせ。
はっ。

李斯はさっそく
金銀財宝を密使に
もたせて諸国に
送り出した。

17

そして諸国の
重臣達を
…

次々と買収
していった。

そして金に
転ばぬ者は
刺客が襲った。
「内を乱す策」は
成功したのである。

18

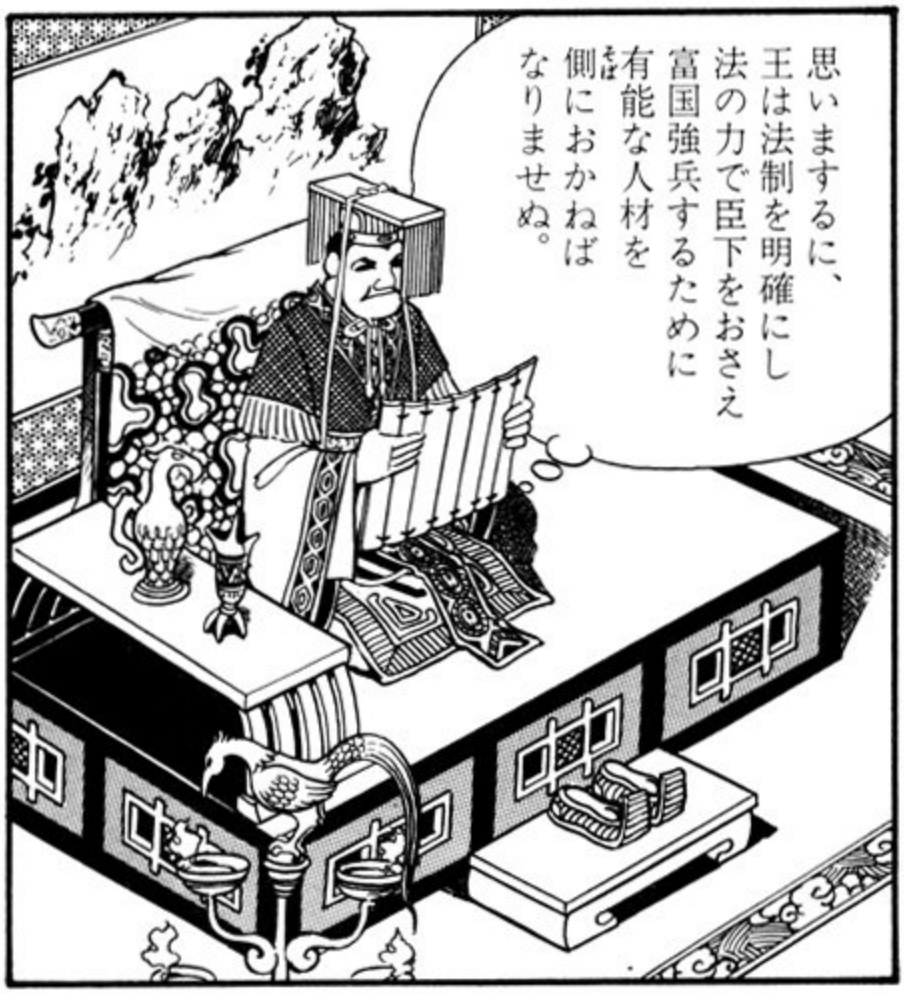
李斯(りし)はこの功により
客卿(かくけい)(他国出身の大臣)
となった。

一方、韓は秦に次々と領土を奪られ、青息吐息の状態であった。

19

李斯と同門であった韓の公子・韓非は、たびたび意見書を提出して韓王をいさめていた。

韓王さま、儒者は文で世を乱し（礼の煩雑さをいう）、侠者は武力で禁を犯しています。日々平穏な時には有名な人物を大切にしいざ戦さとなると兵士にたよります。
名だけで登用した者はいざという時には役に立たず、実際に役に立つ者は平時には重用しておりませぬ。


思いまするに、王は法制を明確にし法の力で臣下をおさえ富国強兵するために有能な人材を側におかねばなりませぬ。

ふん韓非め、すこし学問が出来るからといって賢人ぶりおって。

20

これではわしのまわりは愚かな者ばかりといっているようなものではないか。
韓非は公子といっても側室の子であり、韓王は韓非をきらっていたのである。

だが秦の威圧は日増しに強くなっていった。

21

のう皆の者、このままでは韓の運命は風前の灯じゃ。何か生き残れる良い方法はないか。

秦の目を他の事に向けさせなければなりますまい。

その通り……宮殿造営に力をそそがせるとか、浪費をさせて国力を削ぐのです。

そのような見えすいた手に乗ってくるかのう。

国益となることなら乗って参りましょう。

韓非よ、なにか意見があるなら申してみよ。

22

秦は土地も広く兵も多うございますが、ただ一つ弱点がございます。

秦に弱点があると…？

秦の土地は貧しく
楚の十分の一も
作物がとれませぬ。
食糧問題が秦の
弱点なのです。
ここで大規模な
灌漑工事などを
すすめれば
話に乗ってくると
思われます。

しかし
それでは秦は
ますます大国と
なっていくでは
ないか。

その大工事が
長くかかれば
かかるだけ、
韓の寿命も
のびまする。
その間に韓は
生き残れる道を
探すべきです。

ふむう。

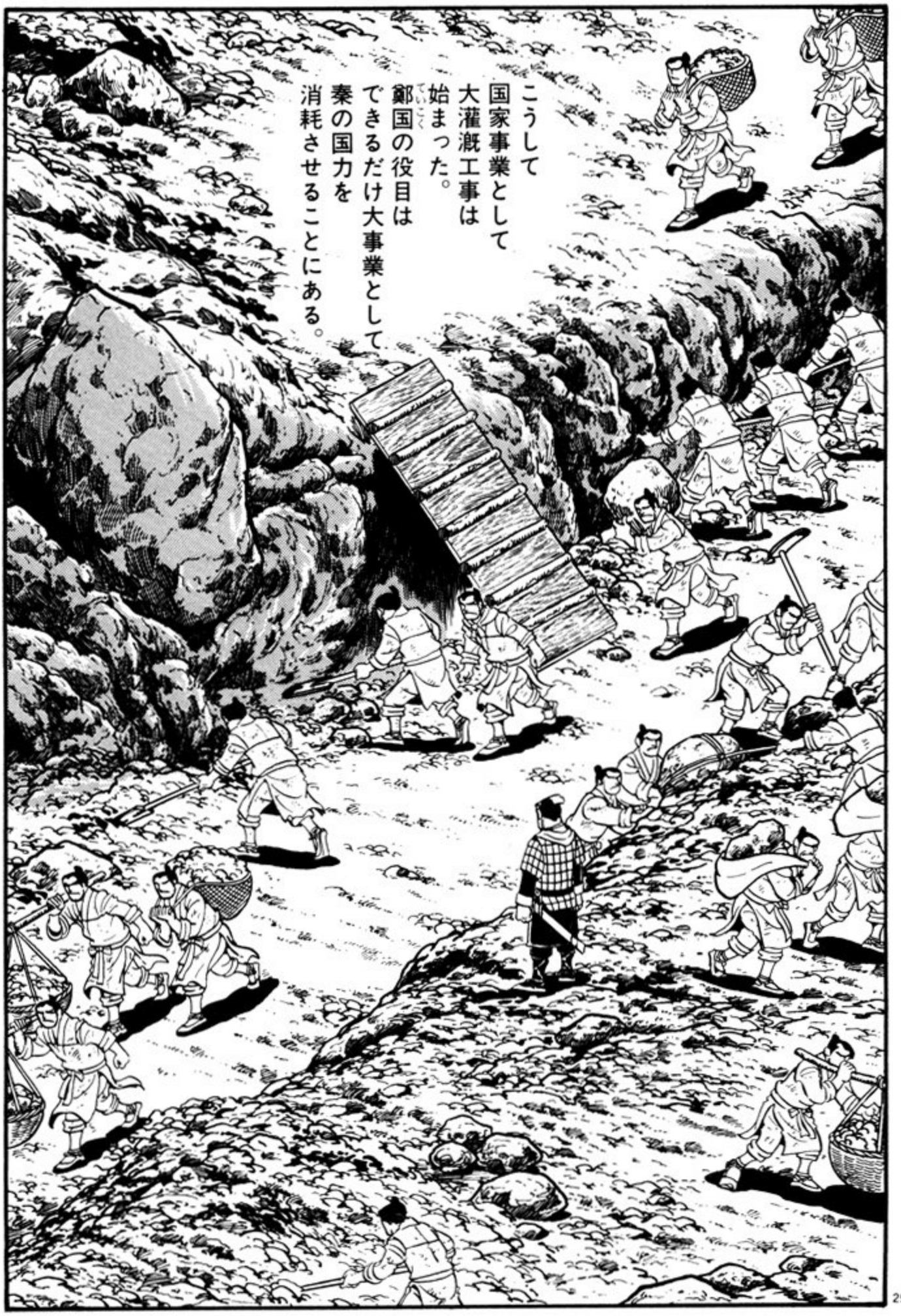
よし
それでいこう。

評議は一決した。

選ばれたのは
水利工事の技術者
鄭国であった。

24

鄭国は灌漑工事の利を
秦王に説いた。
秦王も食料の安定を考え、
それを認めた。


こうして
国家事業として
大灌漑工事は
始まった。
鄭国の役目は
できるだけ大事業として
秦の国力を
消耗させることにある。

25

ある年
韓非の著書
「孤憤」「五蠹」を
写して秦王に
献上した者がいた。

26

それはどのような
書なのだ。

はい、これは
韓非という学者が
書いたもので、
王が法であり
臣下はその法に
従わせよと、
国家のあり方を
説いたものに
ございます。

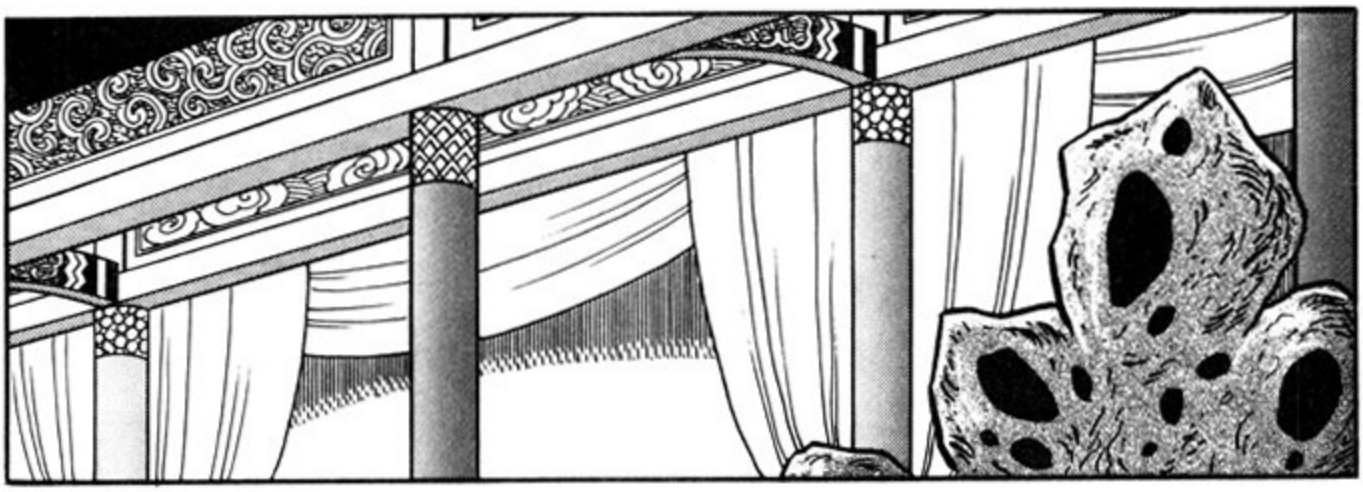
王が法……

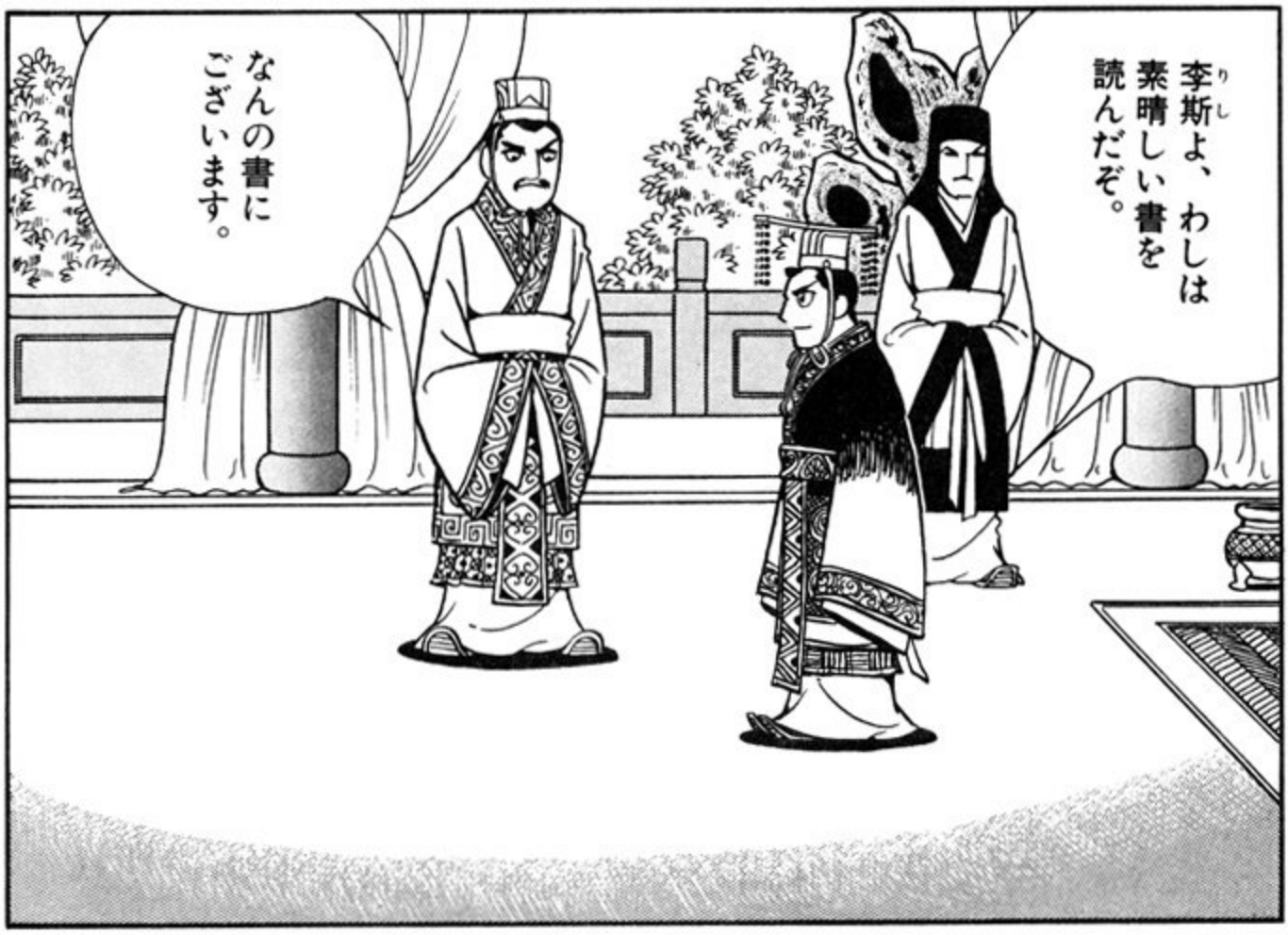
いまでこそ国の実権を握ったものの王族や貴族に気をつかっている政にとっては、どきりとする言葉であった。

政は興味を持って読みはじめたが、読むにつれて次第に興奮をおぼえていった。

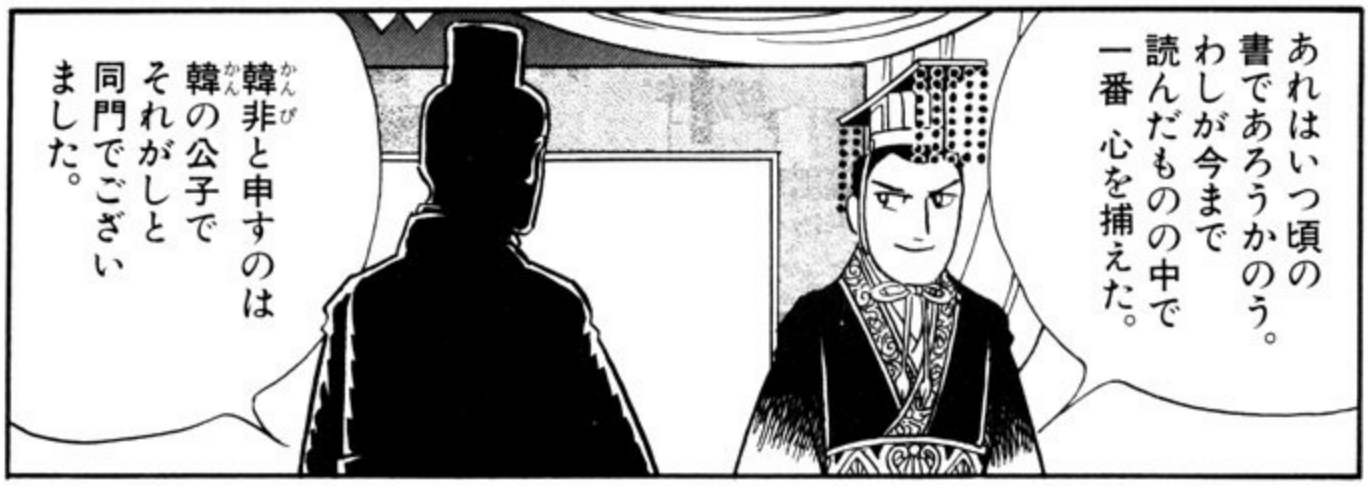
27

それは韓非が韓の国のために王のあるべき姿を説いたものであった。





28


あれはいつ頃の書であろうかのう。わしが今まで読んだものの中で一番 心を捕えた。
韓非と申すのは韓の公子でそれがしと同門でございました。

なにっ、韓非というのはまだ生きている学者なのか。

はい。

生きているならばわしの側に置きもっと教えを乞いたい。
しかし韓非は韓の公子です。韓のためには働きましょうが秦のために働くとは思えませぬが……

29
ならば力ずくでも連れて参れ。わしは韓非の法治国家の理論をもっと知りたい。

はっ。

秦は韓非を
得るために
軍勢を出した。

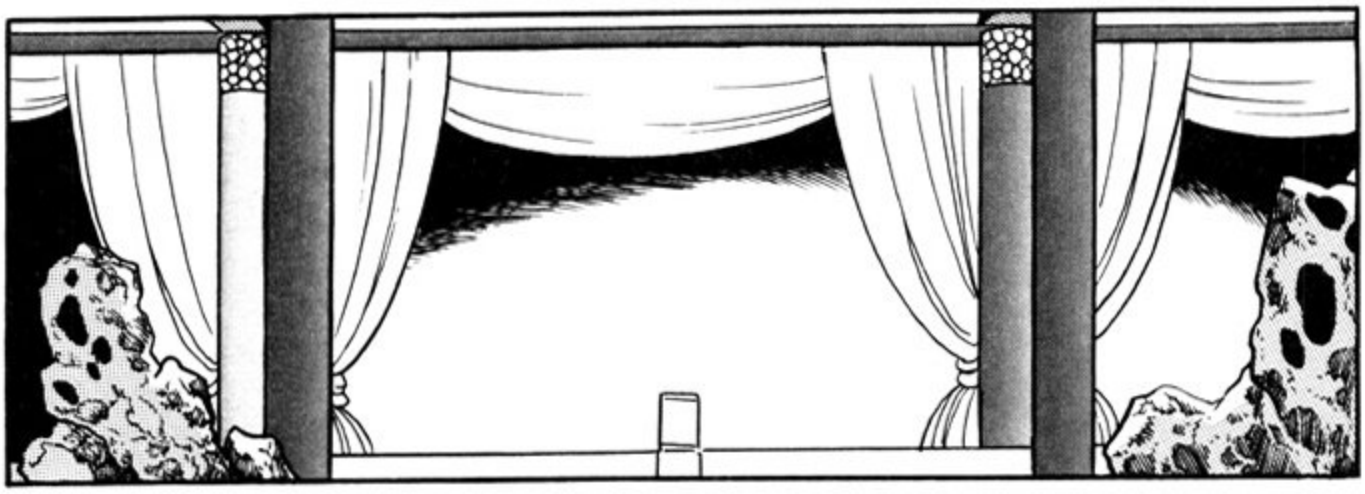
30

韓王は驚いて
韓非を和平の
使者として差し出した。

秦王は韓非から
絶対君主制を学んだ。
政が天下統一し
「始皇帝」となった時、
この学問が
大きく生かされた。

31

しかし
人間不信の
塊のような秦王は
韓非を信用
しているわけでは
なかった。



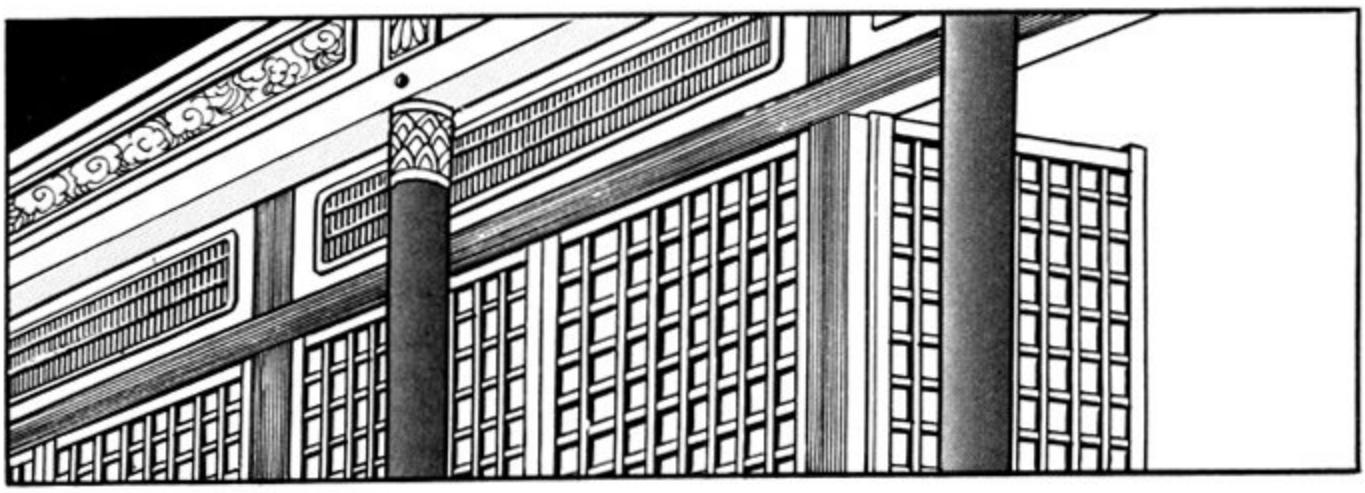
なにっ、鄭国は韓のまわし者だと申すのか。
はい、秦の国力を消耗させるために寄こされた男にございます。

32

はい、買収してある重臣から得た情報にございます。間違いありませぬ。

それはまことであろうな。

33



鄭国よ、そなたは韓のまわし者であるとの報告を得た。

誰がそのような中傷を……

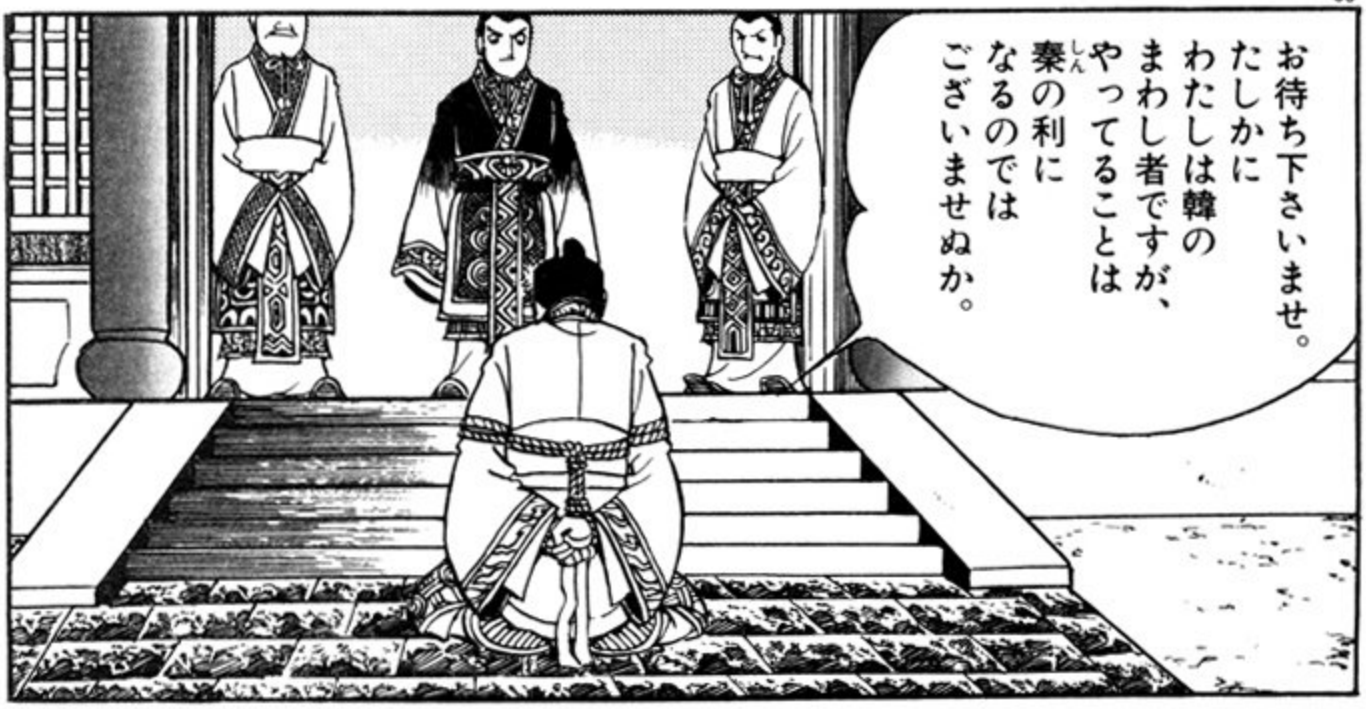
中傷ではない。わしは諸国に多くの情報源を持っているのじゃ。

素直に白状すれば
よいが、強情を
はると痛い目にあう。
秦の拷問は
きびしいぞ。

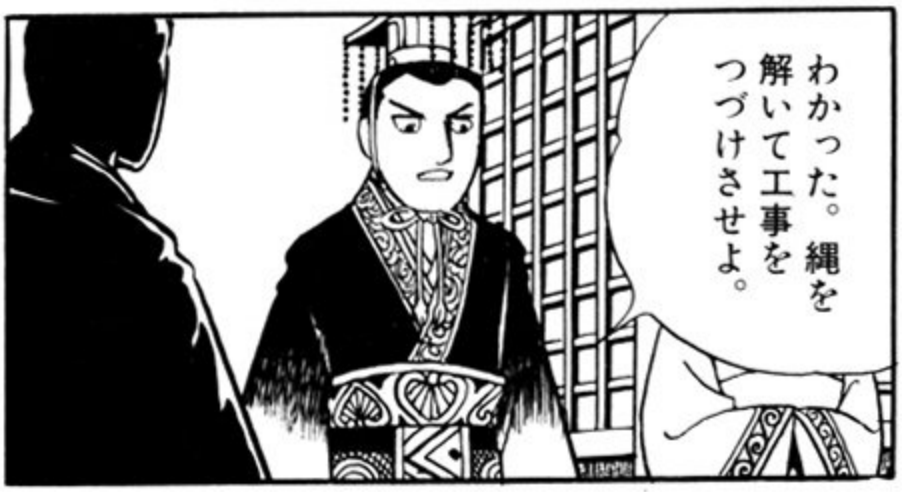
恐れ入りました。
お仰せの通りに
ございます。

よし
処刑いたせ。

35


お待ち下さいませ。
たしかに
わたしは韓の
まわし者ですが、
やってることは
秦の利に
なるのでは
ございませぬか。

秦は領土は広くとも荒地ばかり。楚ならば一年で秦の十年分の収穫を得られます。この工事をやめて秦は何の利を得られます。



36

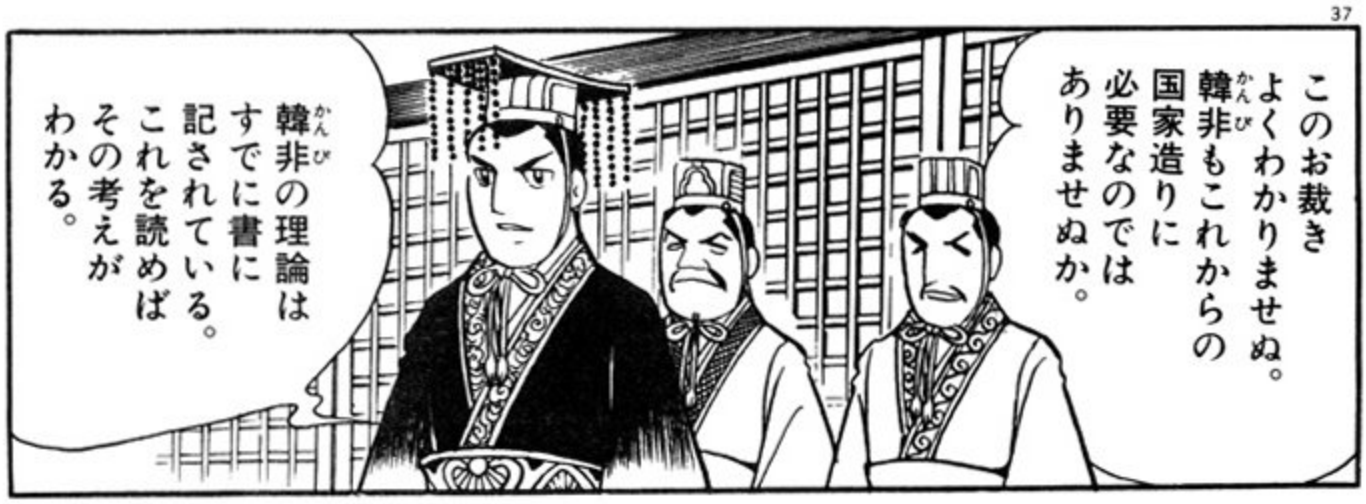
だが厳しく申し渡しておく。手を抜いたり工事を遅らせたりしたら許さぬぞ。

はっ。

秦王さま、鄭国は韓のまわし者なのです。

わかっている。だがわが国にあれだけの技術者がいるのか。

工事が完成すれば荒地も肥沃の土地と化す。わしは義理人情の話はきらいだが、合理的な話は認める。
それから韓の腹がわかった以上、韓非は獄につなげ。


このお裁きよくわかりませぬ。韓非もこれからの国家造りに必要なのではありませぬか。
韓非の理論はすでに書に記されている。これを読めばその考えがわかる。

こうして韓非は獄につながれ……

38

鄭国は灌漑工事を続けることになった。このおかげで秦は豊かな土地に変わっていくのである。

だがこれで
一件落着とは
いかなかった。

秦王さま、
鄭国をみても
おわかりと
思いますが、
他国の人間は
ほとんど間者とみて
間違い
ありませぬ。

39

その通りです。
この際 他国の
人間はすべて
追放すべきです。

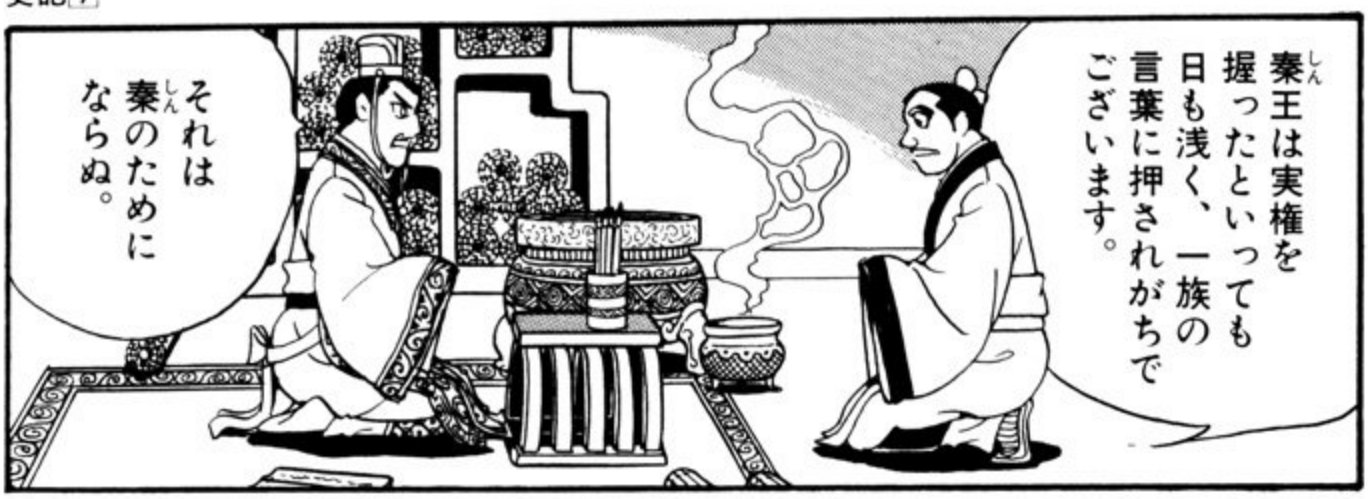
それがしも
賛成にございます。
いまの秦に他国者など
必要ありませぬ。

李新さま、他国人追放令が出るそうにございます。
なにっ。

40

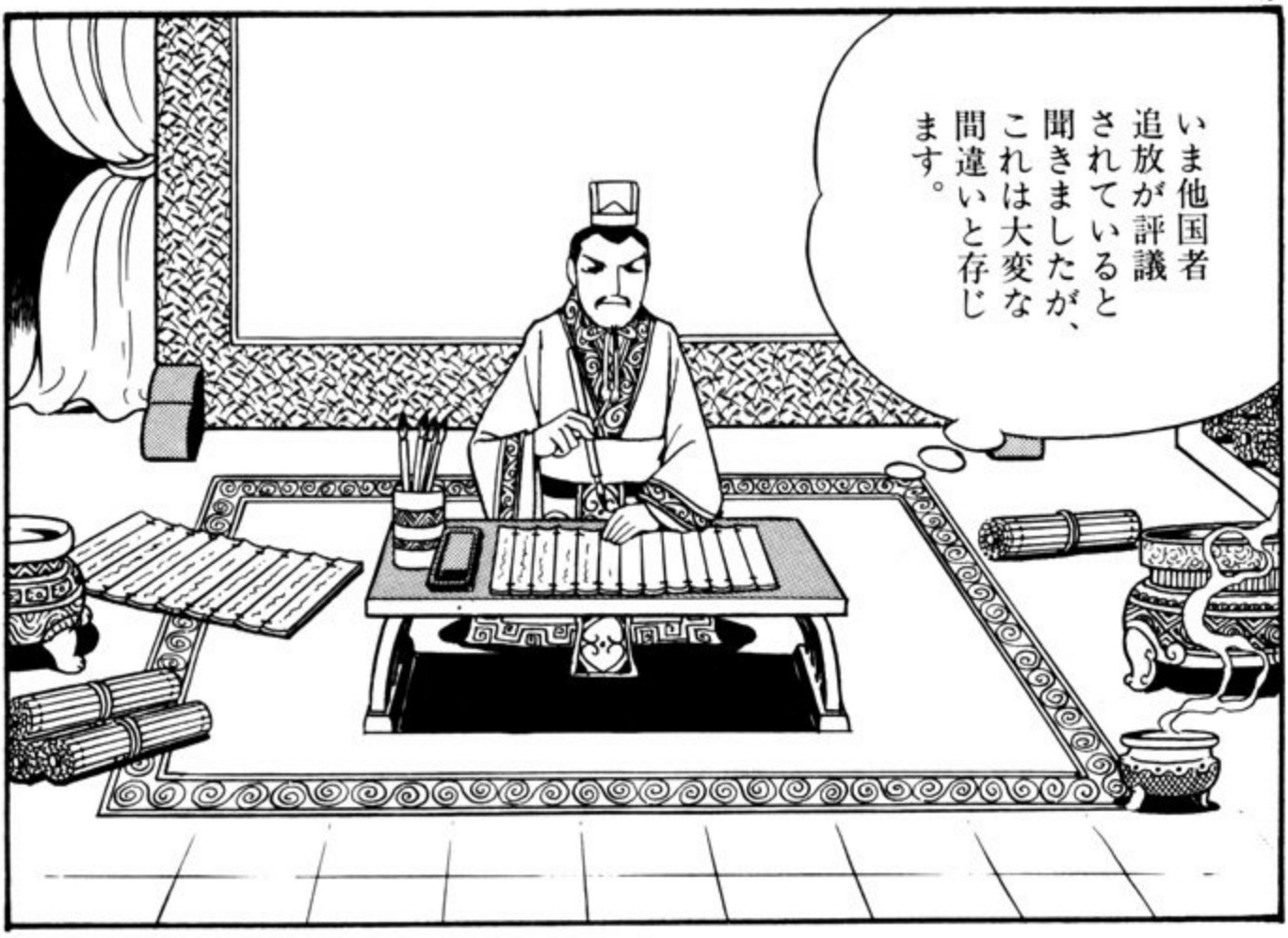
王の一族や貴族のほとんどが他国人を追放せよと奏上しております。

秦王はそれをお認めになったのか。


秦王は実権を握ったといっても日も浅く、一族の言葉に押されがちでございます。
それは秦のためにならぬ。

よし、秦王に一筆したためよう。

41


いま他国者追放が評議されていると聞きましたが、これは大変な間違いと存じます。

かつて秦の繆公は
人材を諸国から
求められました。
戎から由余、
宛から百里奚、
宋から蹇叔、
晋から丕豹と
公孫支…
これらの人の力を
かりて西方の覇者と
なられました。

42

また孝公も
他国者の商鞅の
意見をとり入れ
強国策を実行し、
秦の今日の土台を
築いたのです。

つぎに恵文王は
他国者の張儀の
策を取り入れ
韓の三川の地を抜き、
西は巴、蜀を国土とし
南は漢中を奪うなどして
さらに秦を
強国としたのです。

43

また昭王も他国者の
范雎を宰相にとりたて、
一族の穰公や
華陽君などを
退けられ、王室の
力を取り戻されたのです。

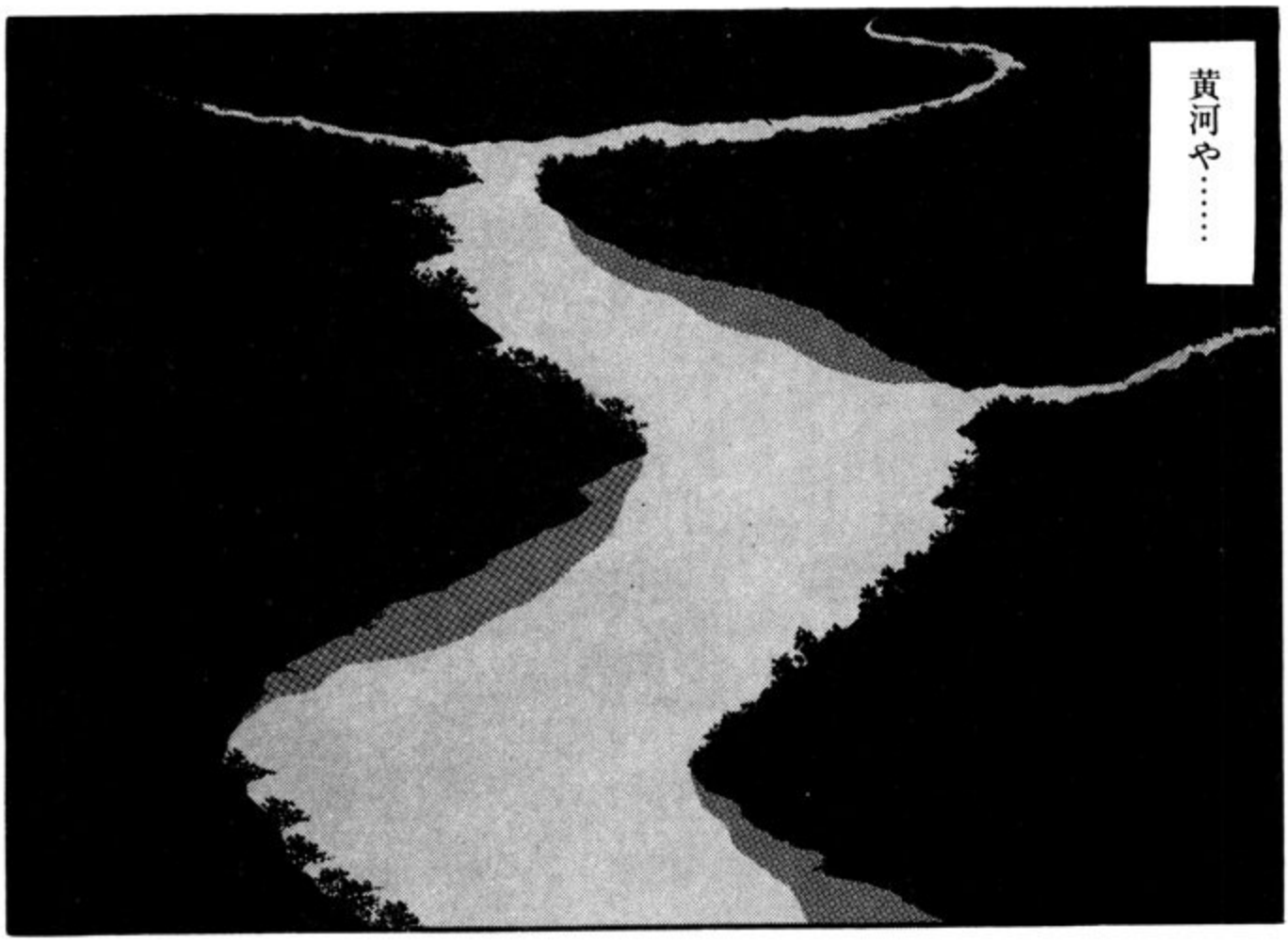
この四君はみな
他国者の功をもって
なされています。
もしこの四君が他国者を
採用していなかったならば、
今日の強国秦(しん)は
ありえなかった
でしょう。
他国者が秦(しん)に背く
という意見は
間違っております。

44

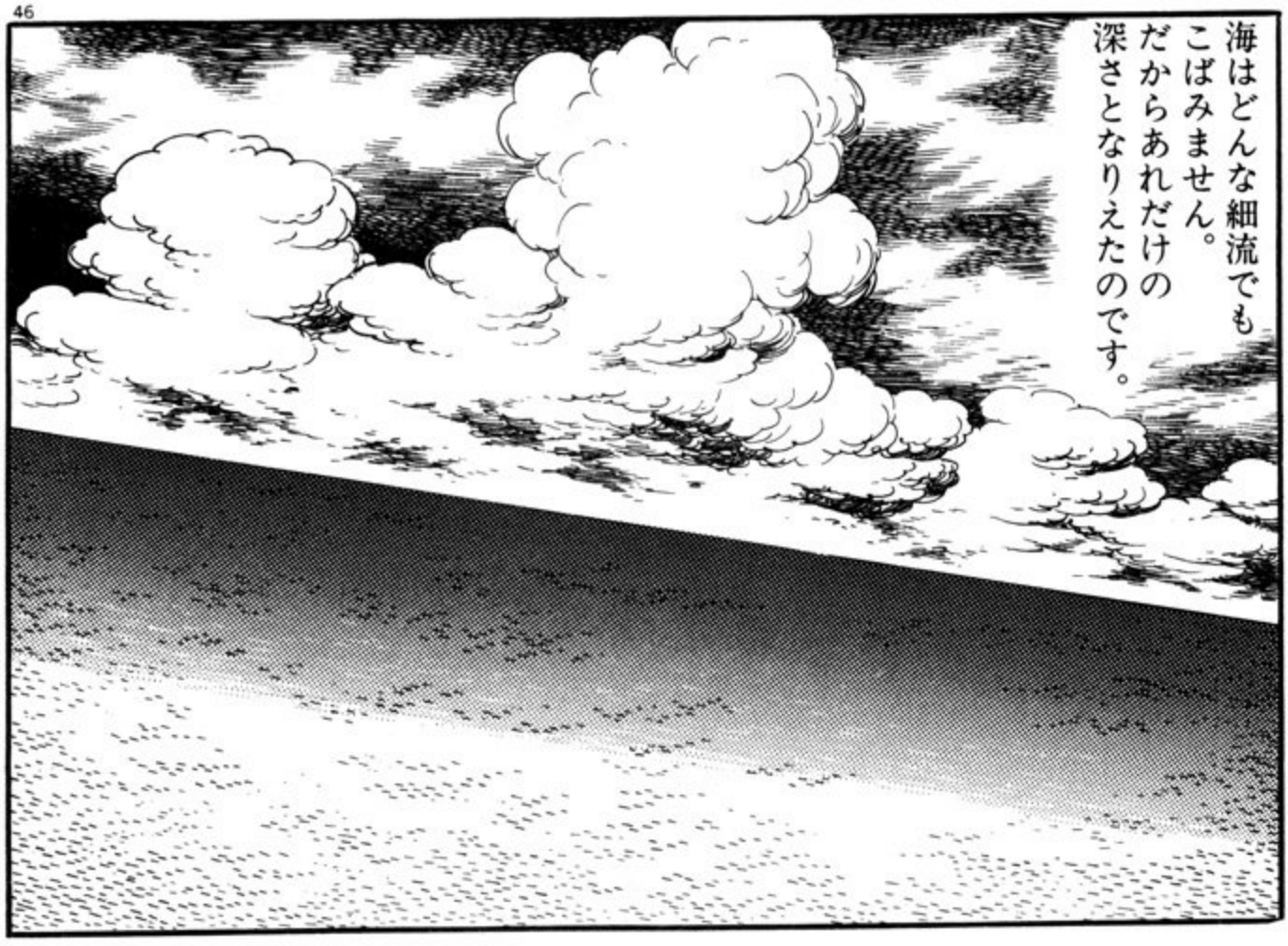
いま諸国の文化や技術は
どんどん取り入れながら、
人間だけは駄目というのは
変でございます。
天下統一の偉業を
なしとげるには、
多くの人々を包容する
度量が必要なのです。

霊峰泰山にしても
ひとかけらの
土壌をゆずらないから
あれだけの高さと
威容をいつまでも
誇っていられるのです。
(泰山に登ると仙人に
なると信じられていた)

45



46

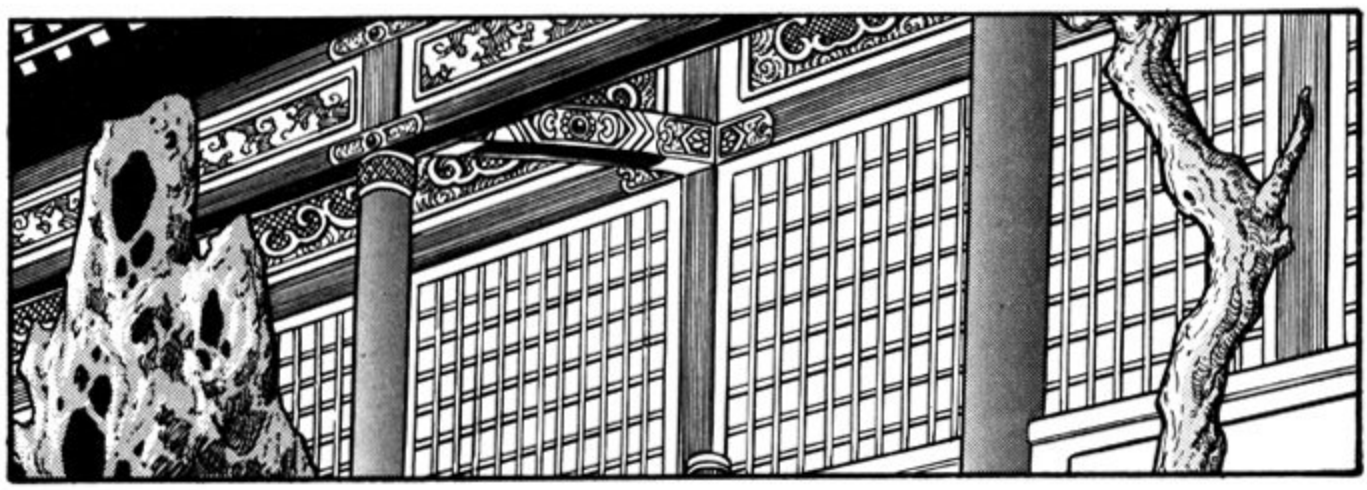


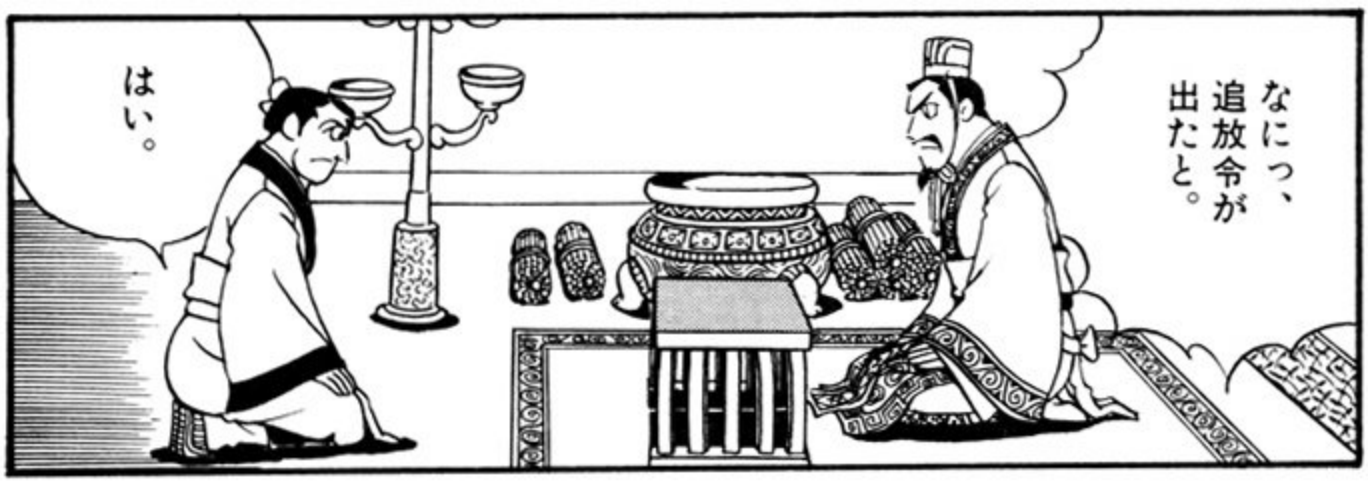
いま他国者を追放すれば、その者達は敵国に仕えてその才能を発揮いたしましょう。また賢人も二度と秦には参りますまい。それでは敵を利するだけです。

たしかに李斯の申す通りだ。

だが一族や貴族がどう出るか……一族相手の内乱となれば「嫪毐の乱」どころではあるまい。わしの身さえ危うくなる……

ここは身内との和をはかるしかあるまい。




なにっ、追放令が出たと。
はい。

48

そうか、わしの上書はとりあげられなかったか。

別れの挨拶をしたい男がいる。その男に挨拶にいってくる。旅の仕度はしておいてくれ
はい。

李斯は韓非の獄へ足を向けた。

50

秦王が他国人追放令をだされた。

わたし達が原因のようだな。

それがしは楚の貧しい小役人でした。その時、二匹の鼠を見たのです。一匹の便所の鼠は人の姿におびえながら汚物をくらい、もう一匹の鼠は食糧庫の鼠であり余る食糧の中でくらしていました。

それがし それを見て人間も住む場所によってその価値が決まるんだと考えたものです。

そして出世するならば、もっとも力のある秦へと思ってやってきたのですが、その夢もこれで終わりました。

51

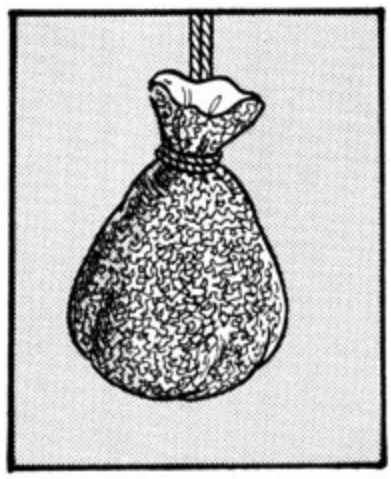
これから故郷に帰り身のふり方を考えようと思い一言挨拶に参ったのです。
さようでござったか。

わたくし共はこのまま追い出されても韓非どのはわれらと立場が違う。

よくわかっております。

秦はあなたのような賢人を韓に帰す気はありますまい。韓があなたの意見を入れて富国強兵にはげまれては困りますからな。

同門のよしみでお別れにこれを持って参りました。

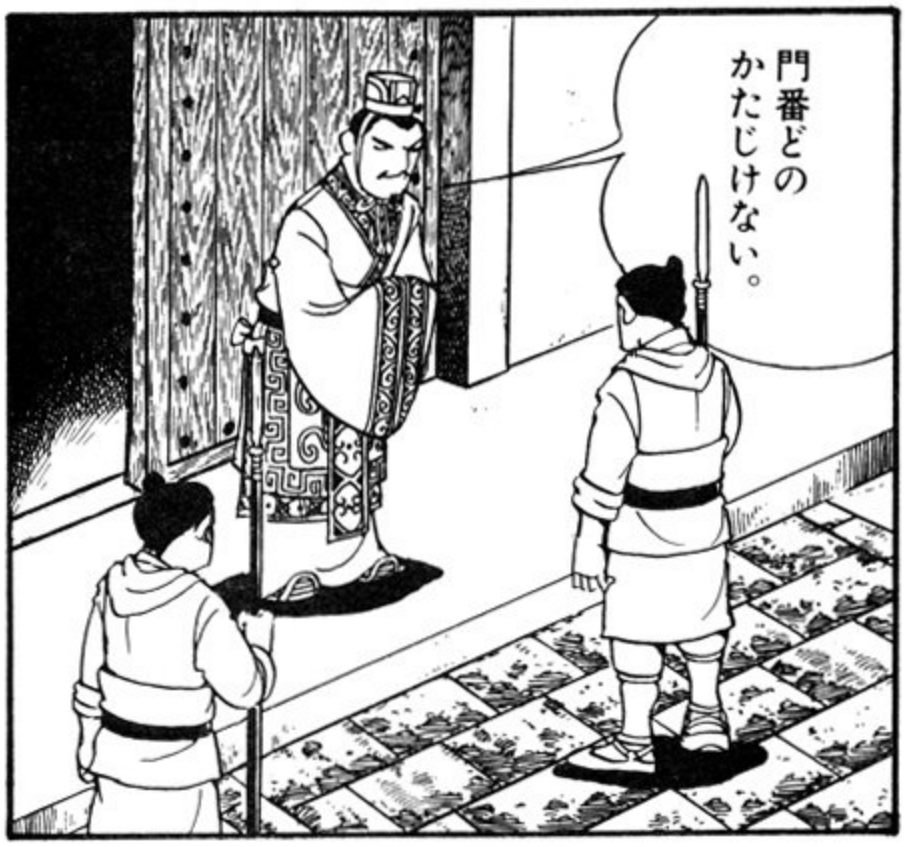


毒薬ですか。

そうです。もしひどい処刑をされるようならば、これで苦しみから逃がれなされ。

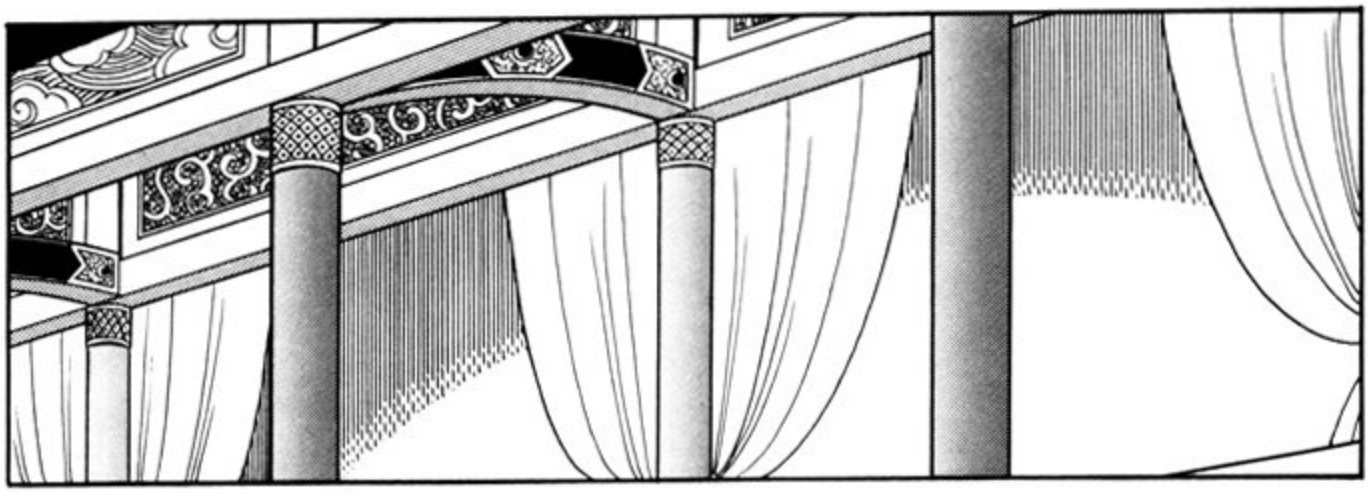
かたじけない。
わたしも韓の公子として
見苦しい死に方は
したくないと
考えておりました。

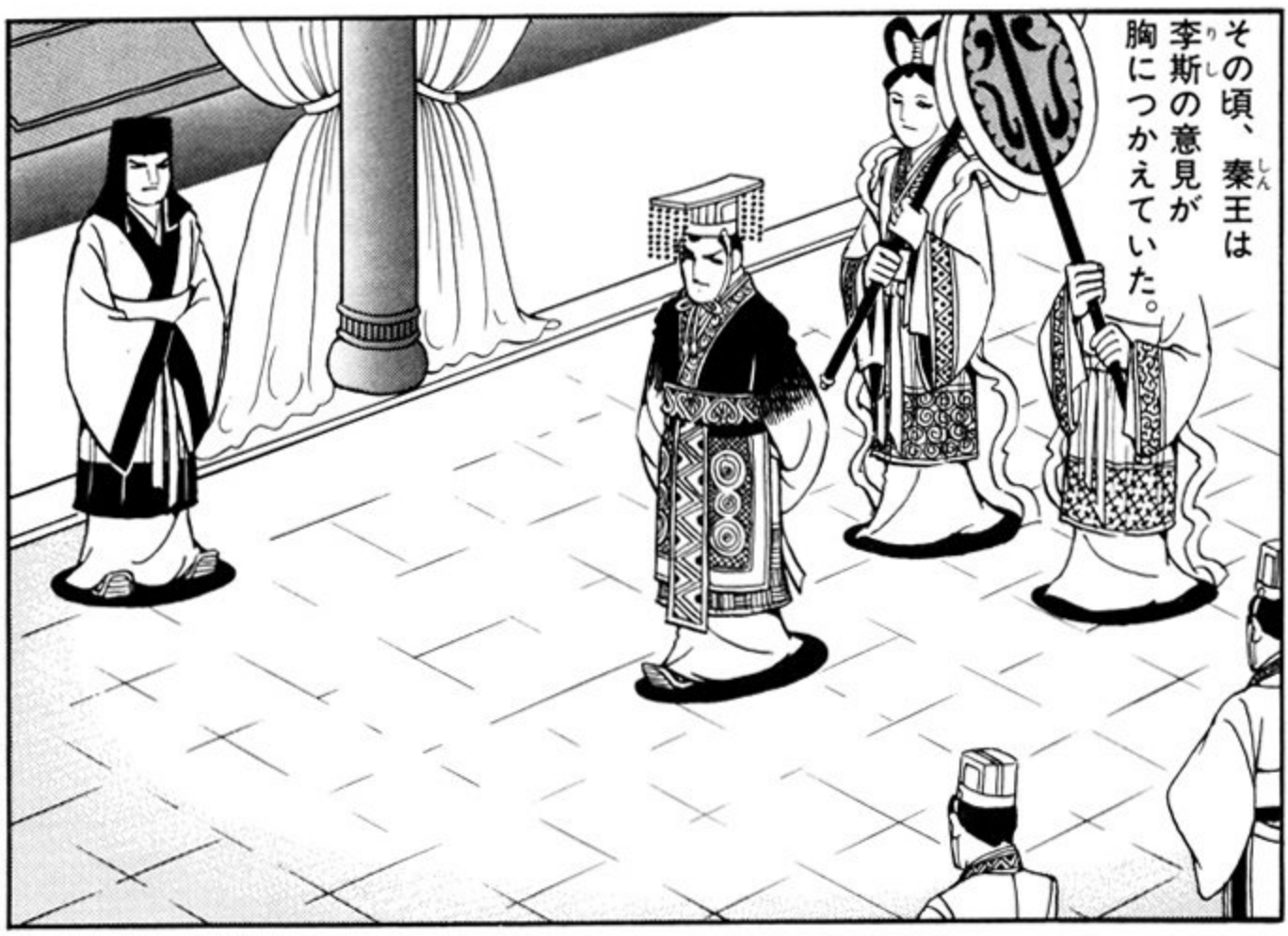
ではこれにて
……


門番どの
かたじけない。

53

こうして
李斯も秦から
出ていった。




その頃、秦王は
李斯の意見が
胸につかえていた。

54

李斯のいう通り
だれでも受け入れる
度量が王者には
必要だ。

たしかに亡き
先君は他国の
賢人を使って
今日の秦を作った。

一族のいいなりになっているようでは韓非のいう王ではない。

それに一族の反乱をおそれているようでは天下統一などとてもできぬではないか。

いまこそ王の権限をみせて臣下を統率すべきだ。

これ他国人追放令をただちに取消せ。

そして、秦から出ていった者達をすぐに呼びもどせ。
はっ。

役人達は
あわてて、秦を
去っていった
他国人を追った。

李斯さまーっ
李斯さまーっ。

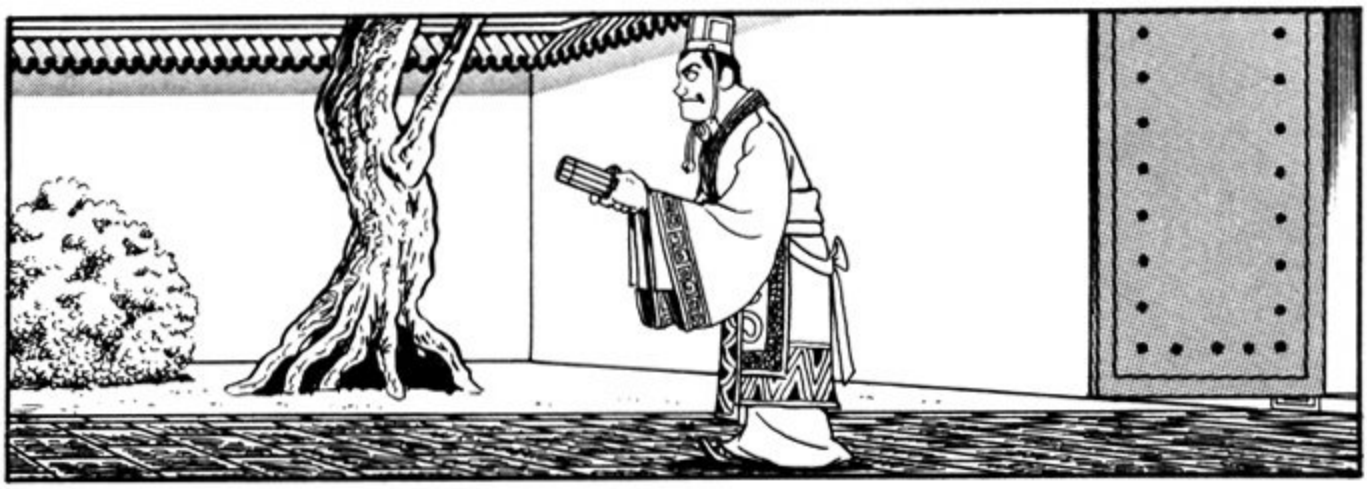
56

李斯さま、
秦王さまは
他国人追放令を
解かれました。
なにとぞ秦に
お帰り下さりませ。

なにっ、
追放令が
解かれたと。

57

李斯は再び
秦をめざした。



58

韓非さま。

これは毒薬です。
自害か。

59
韓非は韓の公子として、みじめな死に方よりいさぎよい死に方を選んだのである。前二三三年のことである。

李斯は再び秦王の信を得た。そして秦王政の片腕として天下統一に動きはじめた。
それから三年後の前二三〇年、韓滅亡。
前二二八年趙滅亡
……

60

第3話

刺客荊軻

秦の侵攻の前に
諸国は国の存亡をかけて
青息吐息であった。
燕もその一つで、
太子丹を人質に
差し出し服従の意を
示そうとした。

太子さま、秦は虎狼の国と申します。太子さまの胸中を思いますとわれらも胸が痛みまする。

なあにその心配はいらぬ。

政どのは帰国して
まもなく王位を
継がれたが、
どのような若者に
なられたか、会うのが
楽しみだ。

4

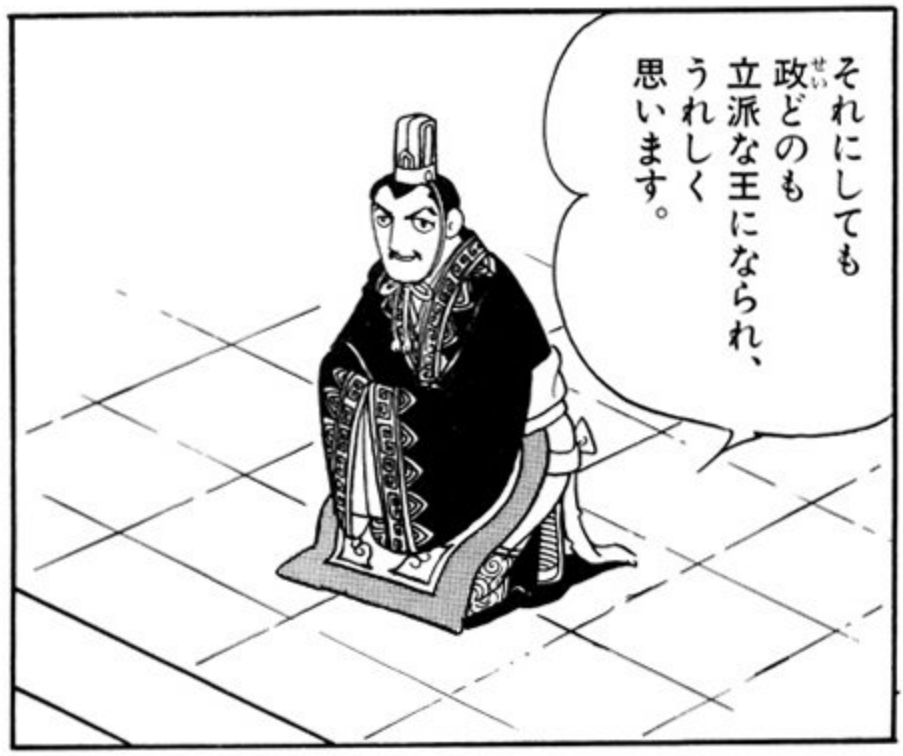
秦王政は十歳まで
趙の人質であった。
その時、燕の人質と
して来ていた丹とは
よき遊び相手で
あったのである。

秦

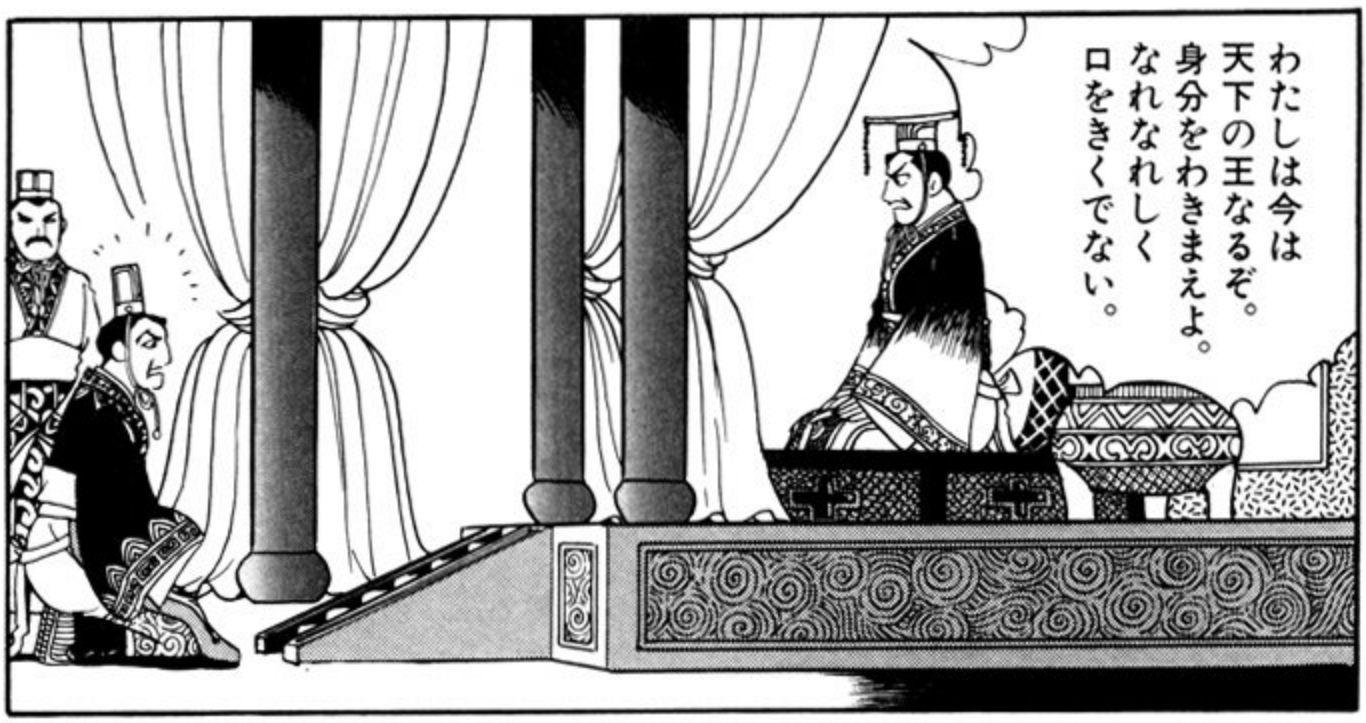
5

燕の太子丹にございます。

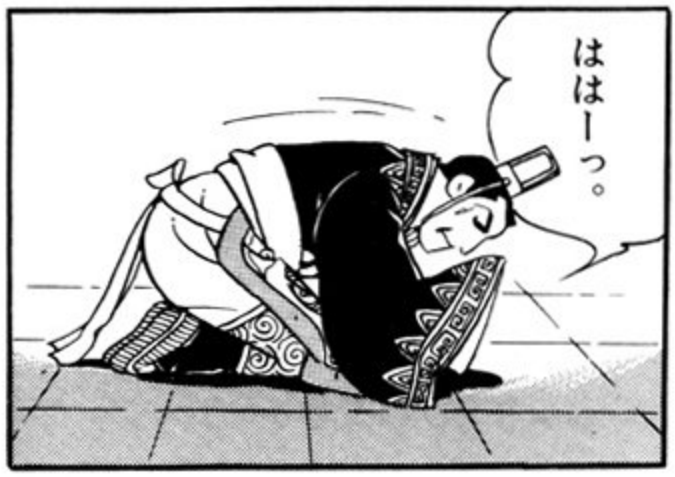
うむ。


それにしても
政どのも
立派な王になられ、
うれしく
思います。

ひかえよ
丹！


わたしは今は
天下の王なるぞ。
身分をわきまえよ。
なれなれしく
口をきくでない。

退れ。


ははーっ。

あれが政……
人質時代には
遊び相手もなく
わたしが遊び相手に
なってやったのに…
それにわたしは
かりにも燕の太子だ、
失礼ではないか。

丹は一国の人質と
して冷遇された
少年時代に
友であっただけに、
余計 屈辱感に
とりつかれ、どうにも
我慢がならなかった。

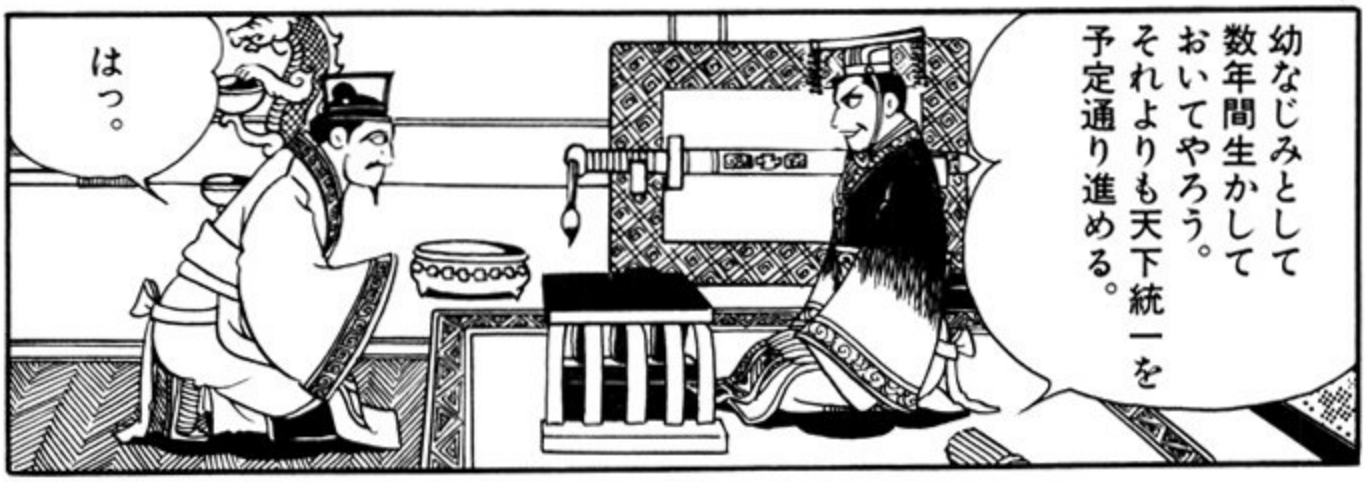
そして前二三二年、丹は隙をみて
秦から脱出したのであった。

なにっ、丹が逃げたと申すか。
はい。

燕王に太子の首を差し出すよう求めまするか？

その必要はない。あんな太子一人帰ったからといって燕が強国になるわけでもない。

8


幼なじみとして数年間生かしておいてやろう。それよりも天下統一を予定通り進める。
はっ。

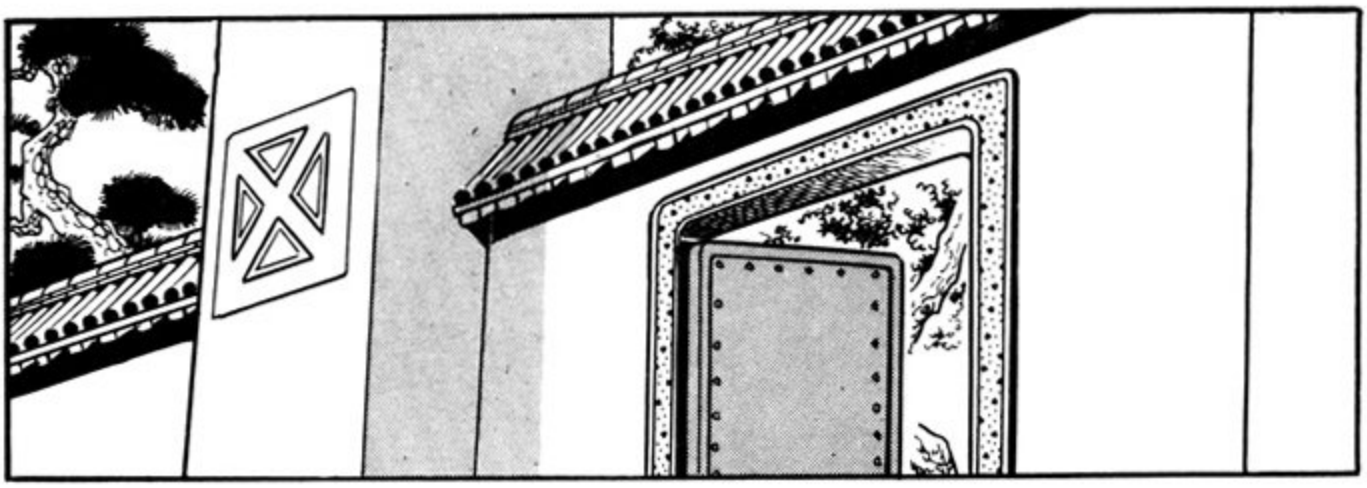
燕

なにっ、太子丹さまが秦から逃げ帰ってこられたと。

えらいことじゃぞ。秦王さまはお怒りになられているであろう。

9

燕王さまのお気持ちもわからずに無茶なことをしなさる。
秦王が怒って軍勢を差しむけられたら、燕はひとたまりもあるまい!!



鞠武よ、わたしは秦王の態度が許せなかった。昔は共に人質として苦労した仲だ。それにわたしは燕の太子だ。それなのにわたしを臣下あつかいだ。
お怒りはごもっともです。

10

わたしは秦に報復してやりたい。何か良い方法はないか。

報復などとんでもございませぬ。

太子さま、今は何事も我慢です。残念ながら燕は小国になり、人材もおりませぬ。報復しようなどと考えれば秦王の怒りをかい、あっという間に亡ぼされてしまいます。

では、何もするなと申すのか。

11

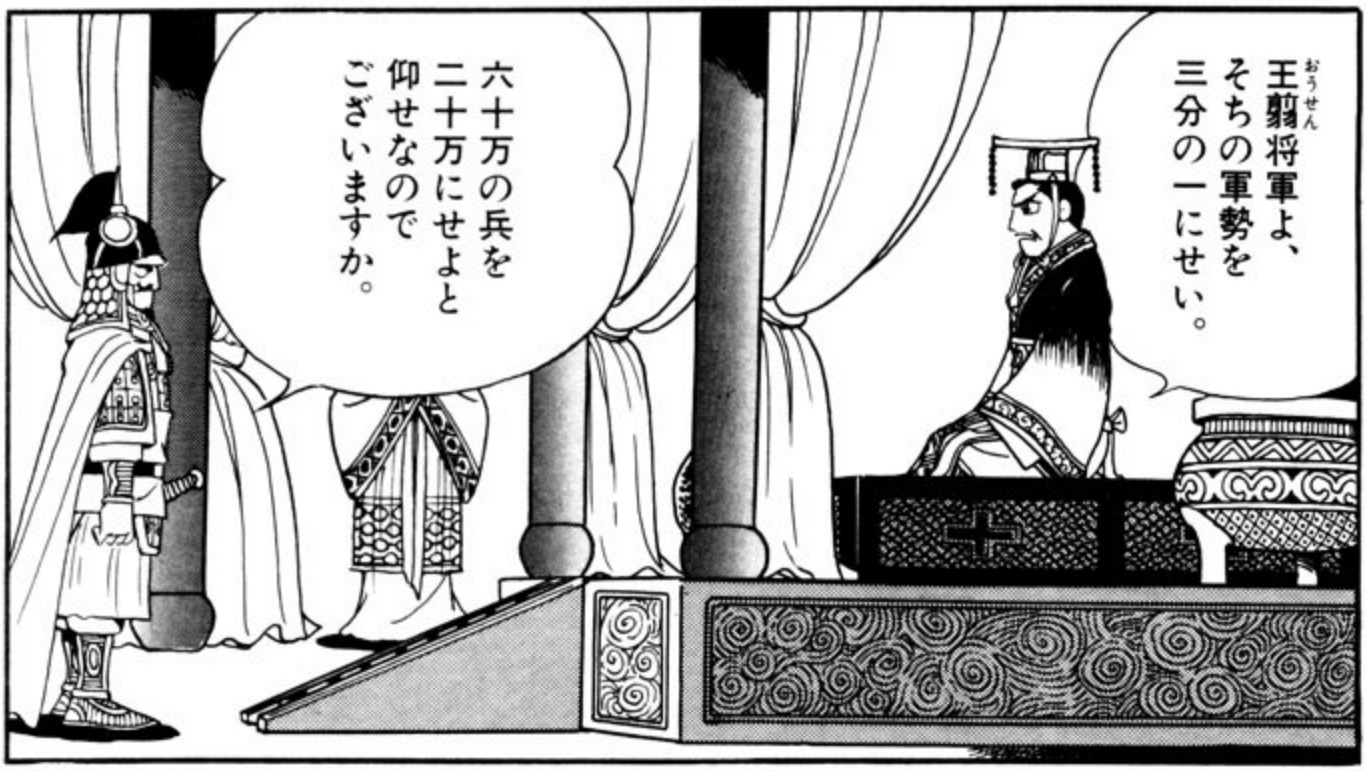
いまは意地など捨ててどうすれば燕が生き残れるか、考えるべきです。

ムムム。

一方、秦王政は丹など
歯牙にも掛けていなかった。
それよりも国内に
絶対君主制を浸透
させようと力を入れていた。

12

無用の古いしきたりを
廃止し、この路線に
反対する者は容赦なく
斬り捨てた。有能の士が
敵国に亡命すれば
敵国を利すだけだから
殺したのである。


王翦(おうせん)将軍よ、そちの軍勢を三分の一にせい。
六十万の兵を二十万にせよと仰せなのでございますか。

13

これから天下統一をなさろうというのに軍勢を減らせとはどういうことでございましょう？

わしは精鋭だけにしろと申しているのだ。

役に立たぬ者を
ぞろぞろひきつれていても
それは数だけのこと、
いざ合戦となれば
どれだけ役に立つ？
無駄めし食いはいらん。
わたしが求めるのは
天下最強の軍隊だ。

わかったら
さっそく軍を
編成しなおせ。

はっ。

14

王翦（おうせん）は秦（しん）王の
命令通り軍勢を
編成しなおした。

ところがこの精鋭がたちまち手柄を立てたのである。

15

いままで苦労してもなかなか落ちなかった趙の鄴の城と……

閼与の城を
あっという間に
落としてしまった
のである。

16

これには軍を編成した
王翦将軍さえ
驚いたのである。

だが、この急激な改革に反対する将軍が現われた。樊於期将軍である。

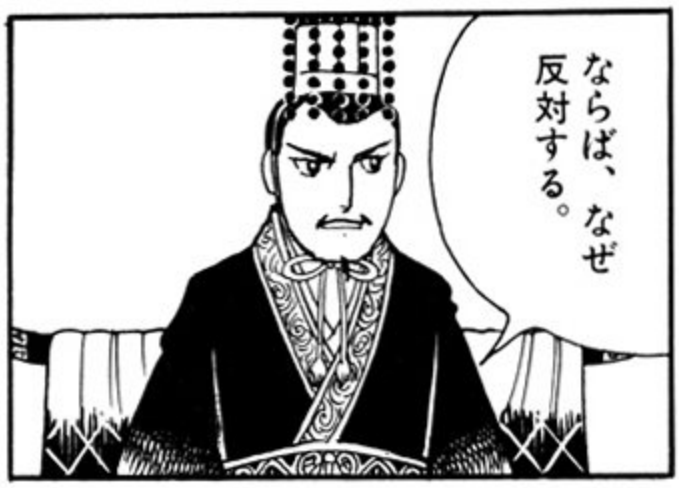
なにっ、少数精鋭に反対と申すのか。

いえ、反対と申しているのではなく、数を減らしていくのをもう少しゆるやかにしていただきたいと申しております。

17

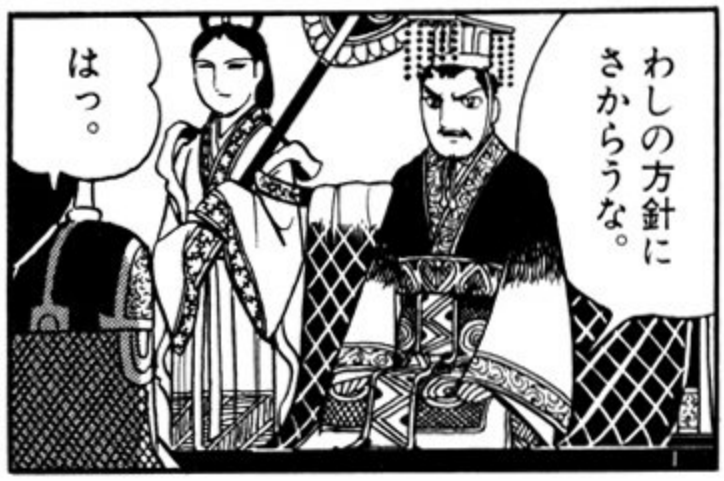
なぜじゃ、わが秦は楚に比べると収穫できる作物は十分の一じゃ。それゆえ韓のまわし者と知ってて鄭国に大灌漑工事を続けさせているのじゃ。役に立たぬ者に無駄めしを食わせていられるほどゆとりはない。

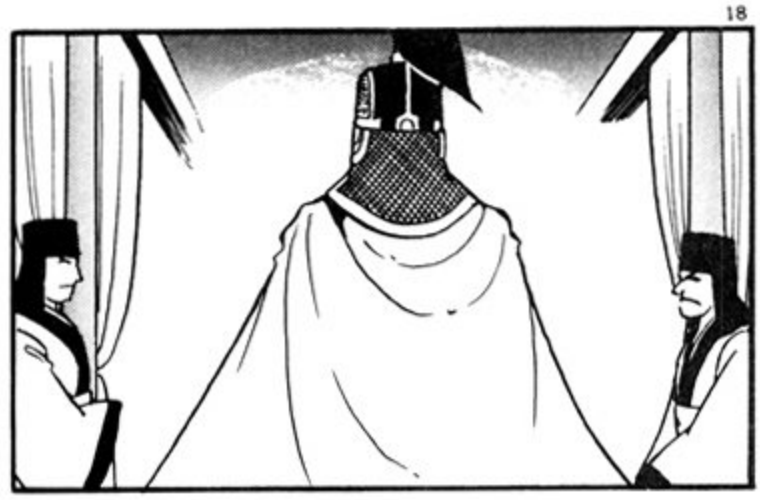
それはよく承知いたしておりまする。


ならば、なぜ反対する。

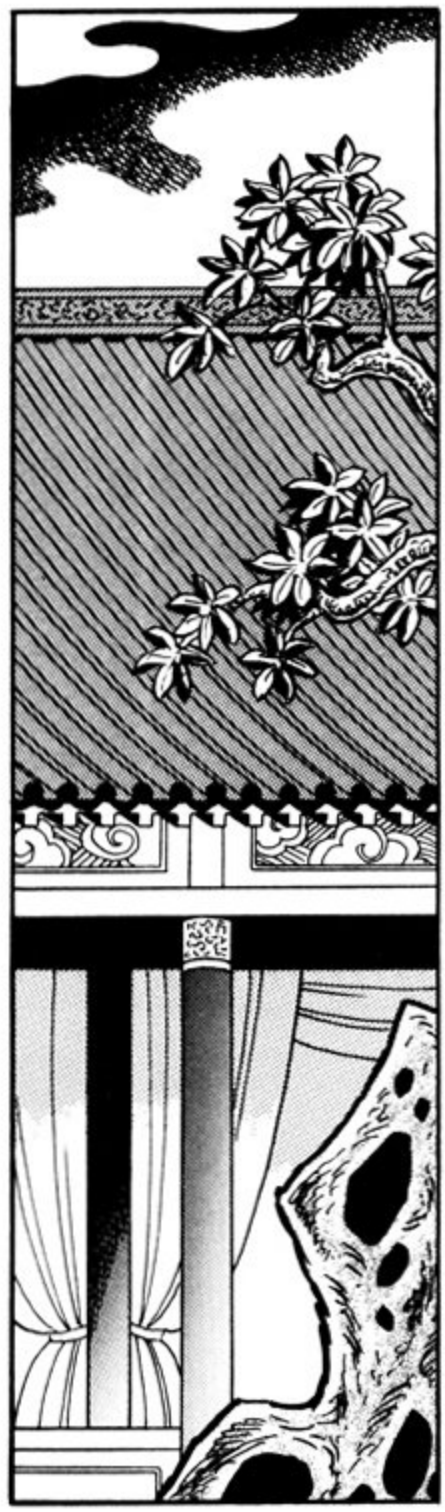
将兵は世襲です。いま急に職を解けば彼等や家族はとたんに路頭に迷います。他国に走る者も出るやも知れませぬ。それゆえ、もっとゆるやかにと申しあげているのです。

先祖の功の禄にたよって無為に生きてる者などわしには必要ない。役に立つ者には恩賞を厚くし役に立たぬ者からは取り上げる。


わしの方針にさからうな。
はっ。



……



樊於期を捕え処刑いたせ。
えっ。

もしよろしければその理由をお教えいただけませぬか。
理由を聞かねばわしの命令に従えぬのか。

19

いいいえとんでもない。

後学のために教えてやろう。

今、解雇された将兵は不満をつのらせていよう。その者達は樊於期の考えに賛成し樊於期を頼みとするであろう。そうなれば秦にもう一つの軍勢が出来上がる。

わしの考えを推し進めるためにも反乱を防ぐためにも樊於期を処刑するのじゃ。

人間性悪説を信じる政に容赦はなかった。

よくわかりました。

20

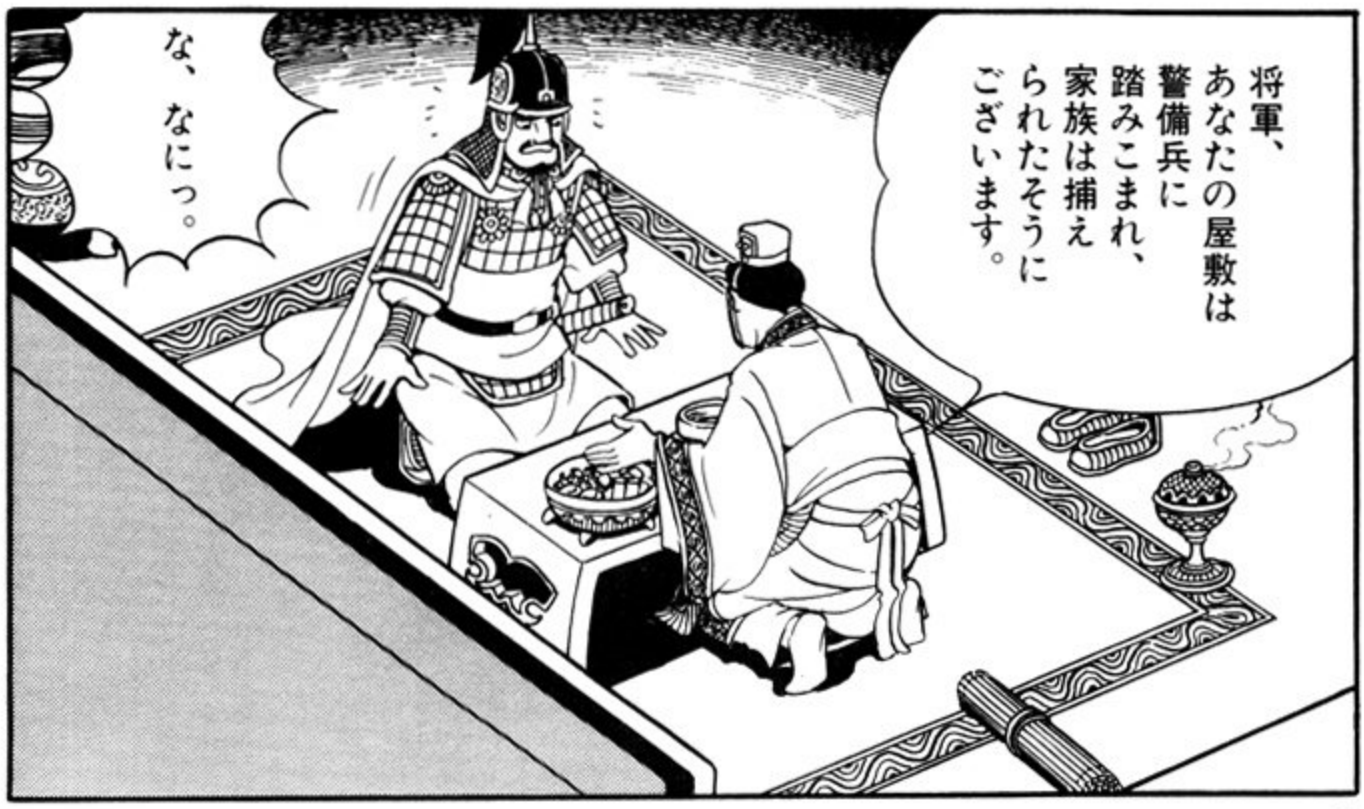
兵は樊於期の屋敷を急襲した。

だが屋敷には樊於期はおらず、両親や家族が捕えられた。

21

樊於期は退廷後、愚痴をこぼしに友の家に行っていたのである。

ヒソ
ヒソ。
なにっ。


将軍、
あなたの屋敷は
警備兵に
踏みこまれ、
家族は捕え
られたそうに
ございます。
な、なにっ。

22

おそらくあなたの
進言が秦王の
逆鱗に解れたので
ござろう。
身を隠された
ほうがよい。

ムム……

樊於期は山に身を隠した。

それから間もなく家族が処刑された事を耳にした。

23

樊於期は三日三晩泣きあかし、秦王に復讐を誓った。

燕(えん)

24

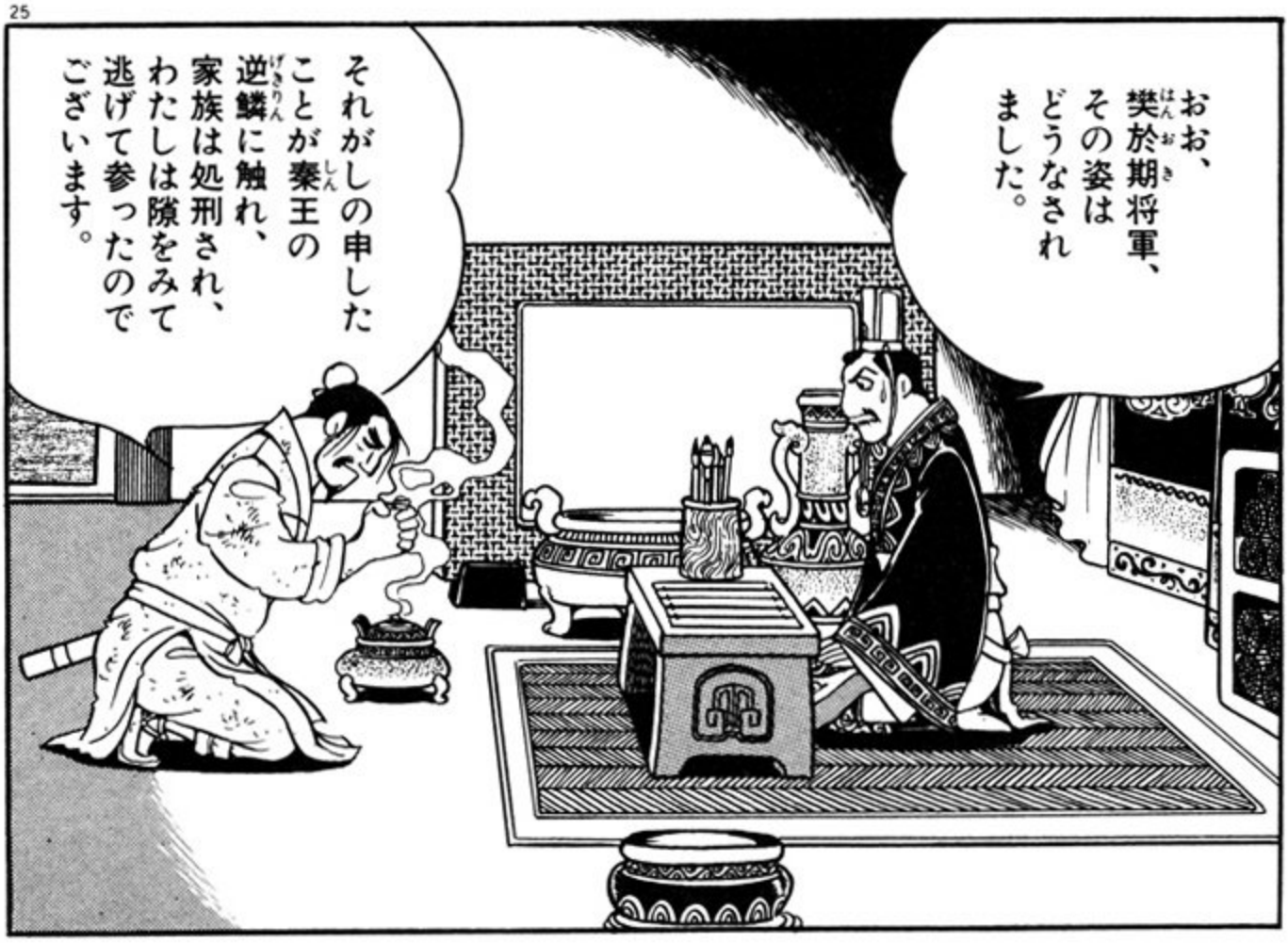
なにっ、秦の樊於期(はんおき)将軍がたずねて参ったと。

はい、それがみすぼらしい姿で参っておりまする。

ここにお通しせよ。

はっ。

25

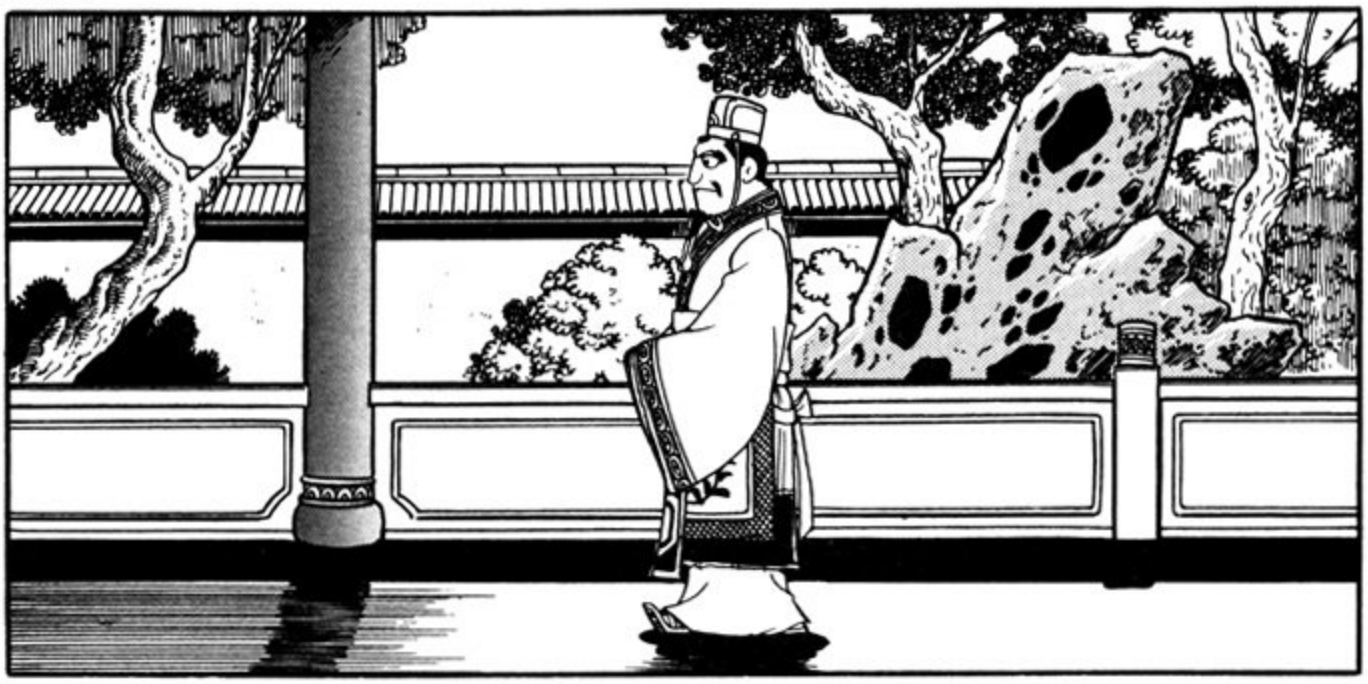

おお、樊於期将軍、その姿はどうなされました。
それがしの申したことが秦王の逆鱗に触れ、家族は処刑され、わたしは隙をみて逃げて参ったのでございます。

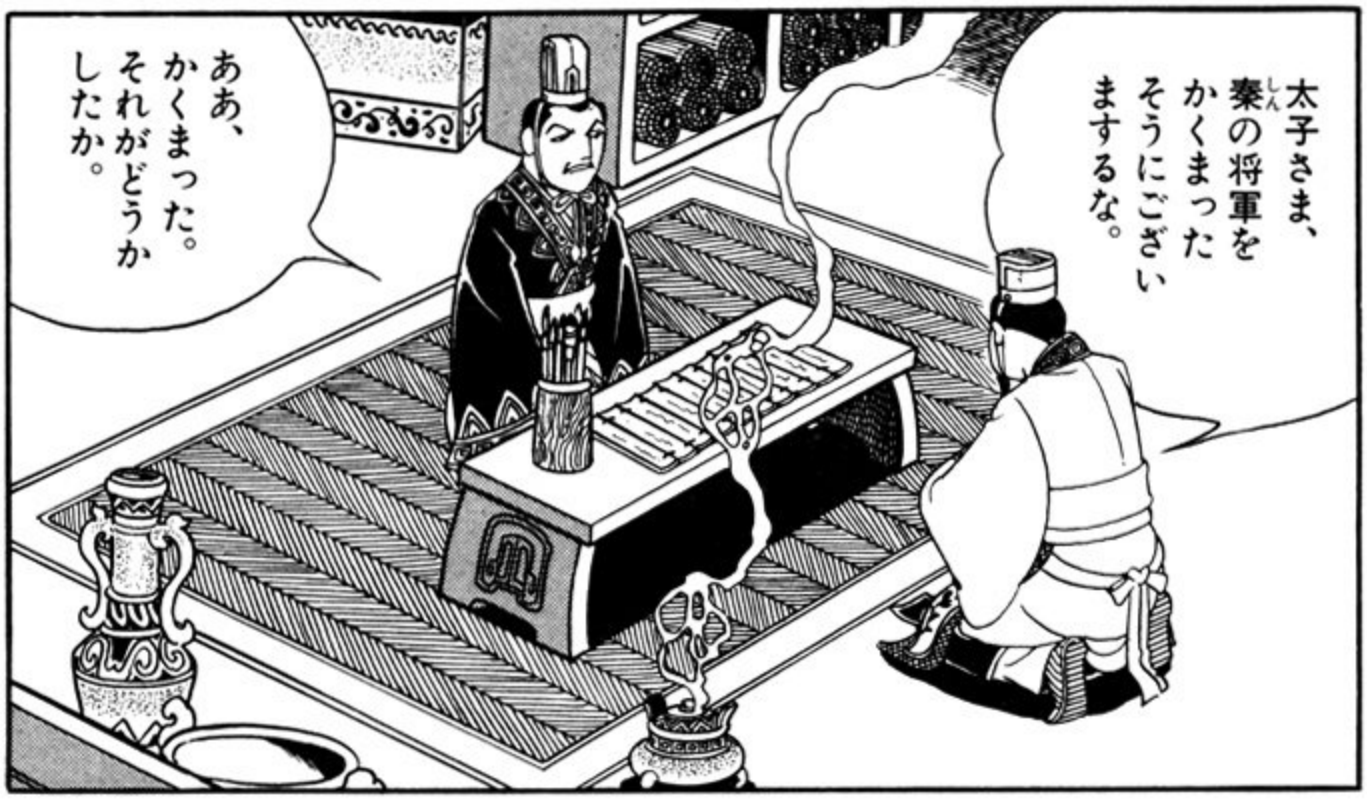
頼れるところとてなく、あつかましく太子さまをたずねて参った次第です。

さようでございましたか。わかりました、喜んでお迎えいたします。
かたじけない。

26

燕の太子丹は樊於期に屋敷を与えてひそかにかくまったのである。

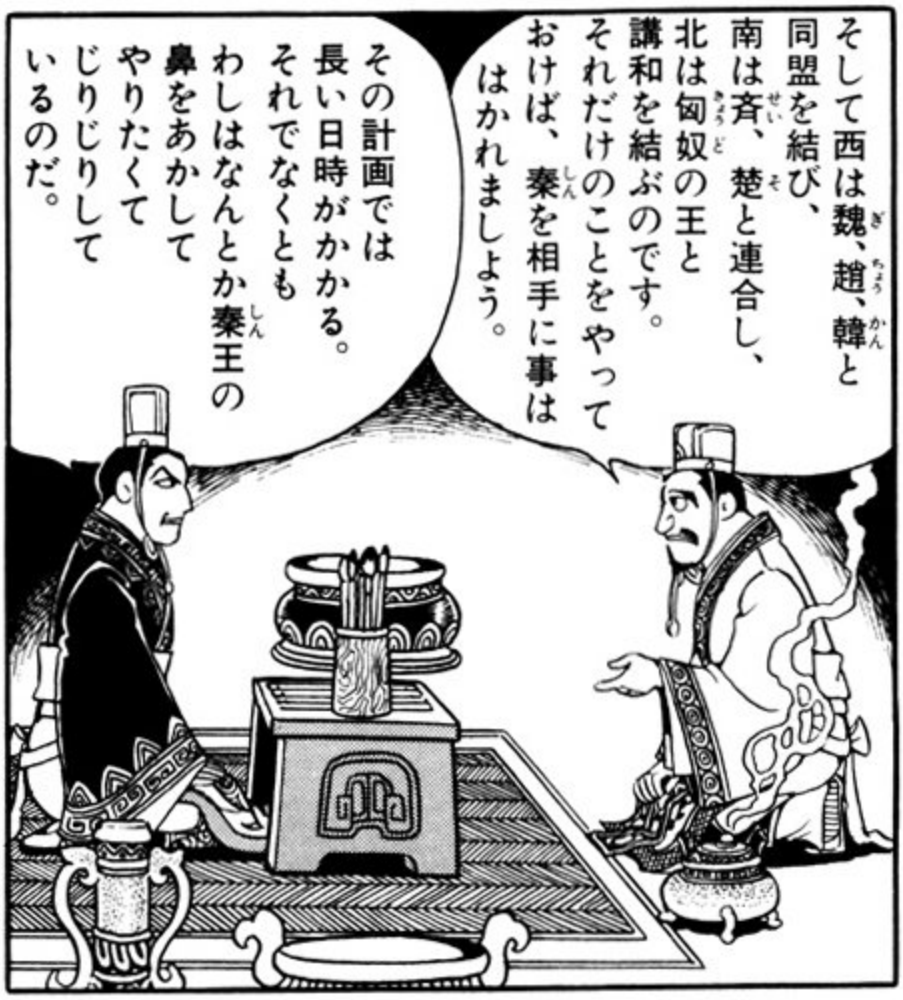



太子さま、秦の将軍をかくまったそうにございまするな。
ああ、かくまった。それがどうかしたか。

27

それはなりませぬ。太子さまが秦を脱出なされたことだけでも秦王の怒りを買っているのに、今度は秦の将軍までかくまうとは……秦王がこれを知ったら燕はどうなるでしょう。

これでは肉を積んで餓えた虎の通り道に置くようなものでございます。なにとぞ樊於期将軍を匈奴の地に送りこみ秦に口実を与えぬようにしてくださりませ。


そして西は魏、趙、韓と同盟を結び、南は斉、楚と連合し、北は匈奴の王と講和を結ぶのです。それだけのことをやっておけば、秦を相手に事ははかれましょう。
その計画では長い日時がかかる。それでなくともわしはなんとか秦王の鼻をあかしてやりたくてじりじりしているのだ。

それだけではない。樊将軍は天下にだれも手をさしのべぬ窮地にたたされやむなくわたしを頼ってきたのだ。その将軍を匈奴の地に棄てることなど男としてわたしにはできぬ。そんなことはわたしが死んだあとでやってもらいたい。

危険をまねきながら安全を求め、禍を作り出しながら幸福を求めるなど、それは浅はかな考えです。一人への新しい交際を重んじて、国家全体を危機にさらす……太子の意地のためにその危険をおかそうとなされているのです。

強大な秦にとって燕を亡ぼすことなど雁の毛一本を炉の火で燃やすより簡単なことなのです。何とぞお考えなおしを……

いいや、命にかえても将軍はかくまう。そちも秦王の鼻を明かす方法を考えよ。

そう おっしゃられては私には策がありませぬ。

そうだ、田光先生に相談なされてはいかがでございましょう。

田光先生??

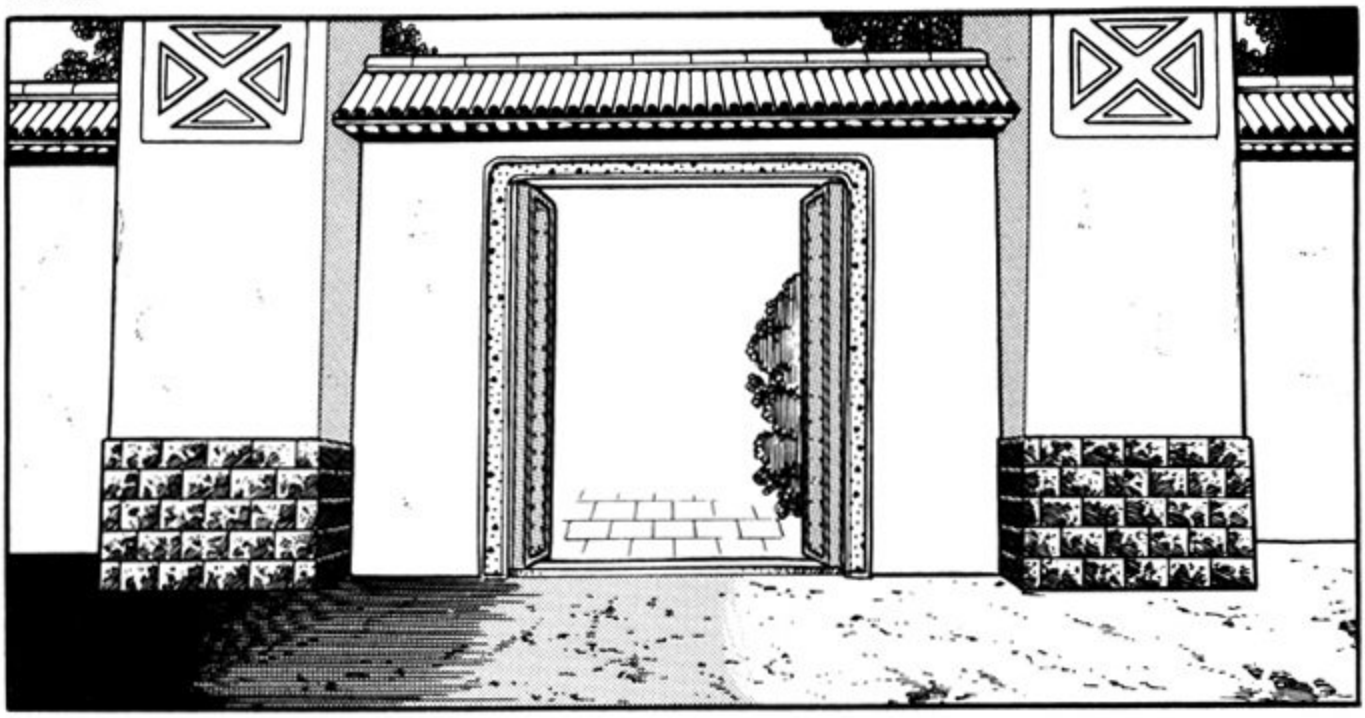
29

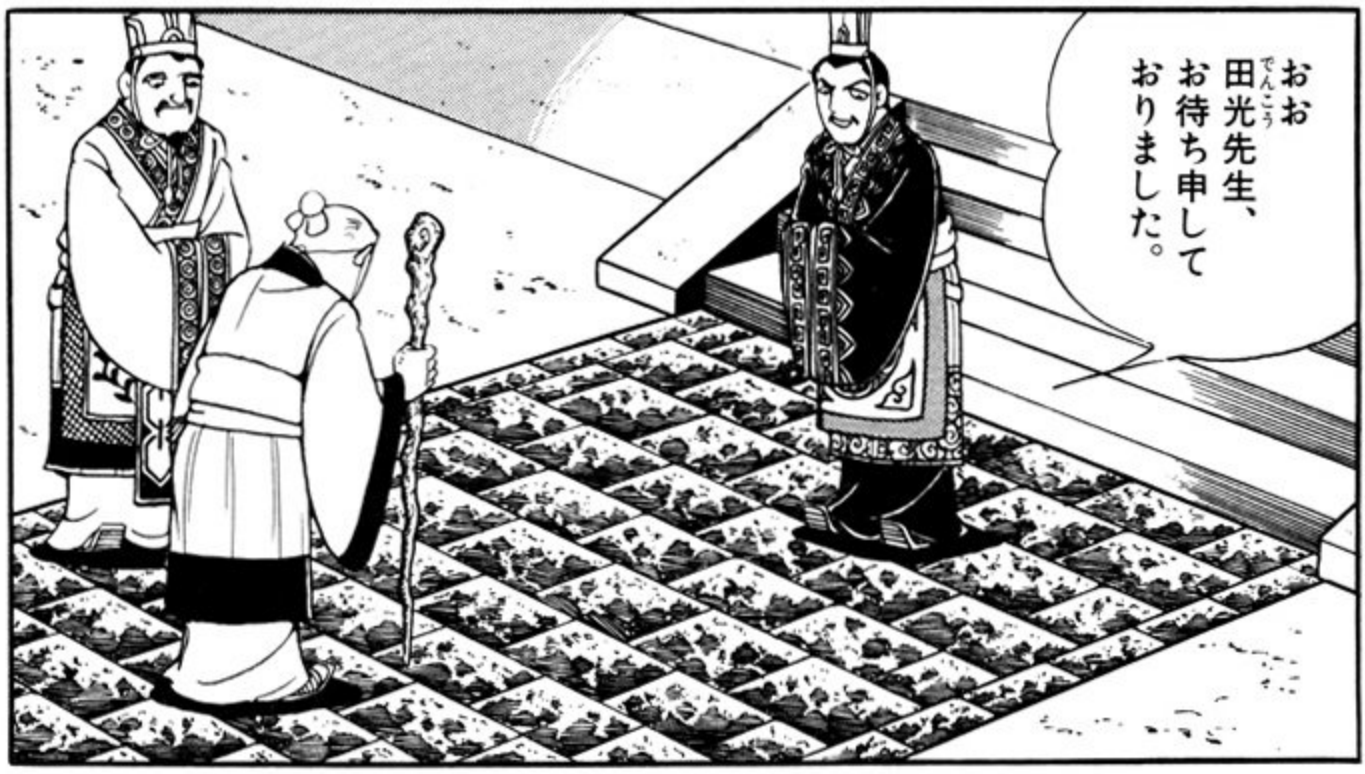
はい、なかなか思慮深く義を重んじられる立派な人物です。この先生に相談なさってはいかがでございましょう。

そうか、そんな人物がいたのか。

30

太子は鞠武の言に耳をかさなかった。鞠武は仕方なく田光のもとへ向かった。



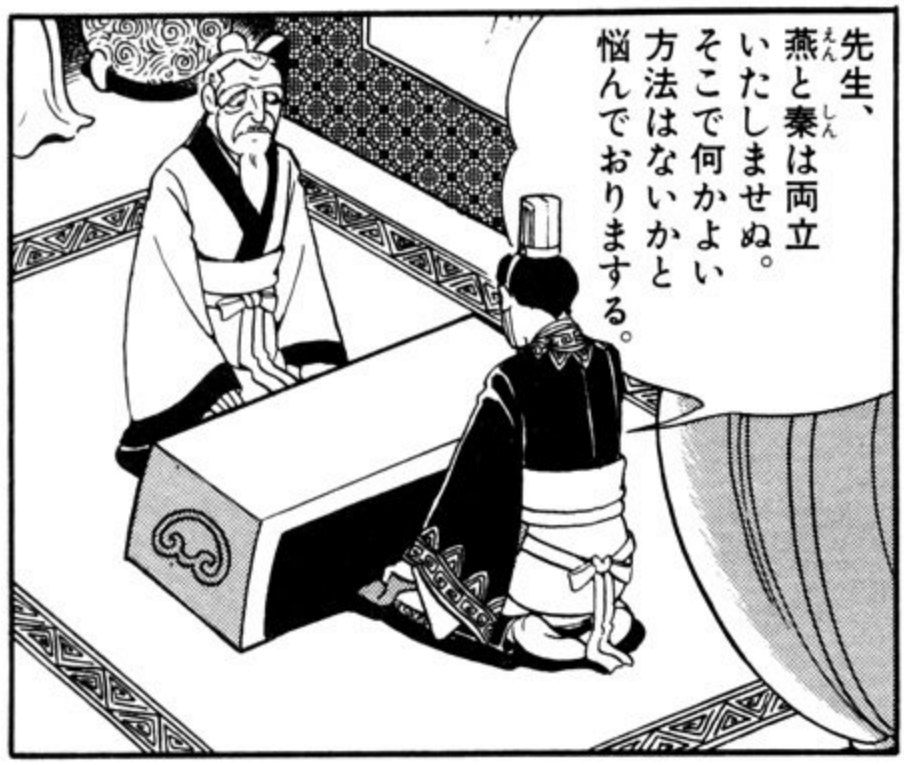


31

これ、大事な話がある。席をはずせ。
はっ。

32

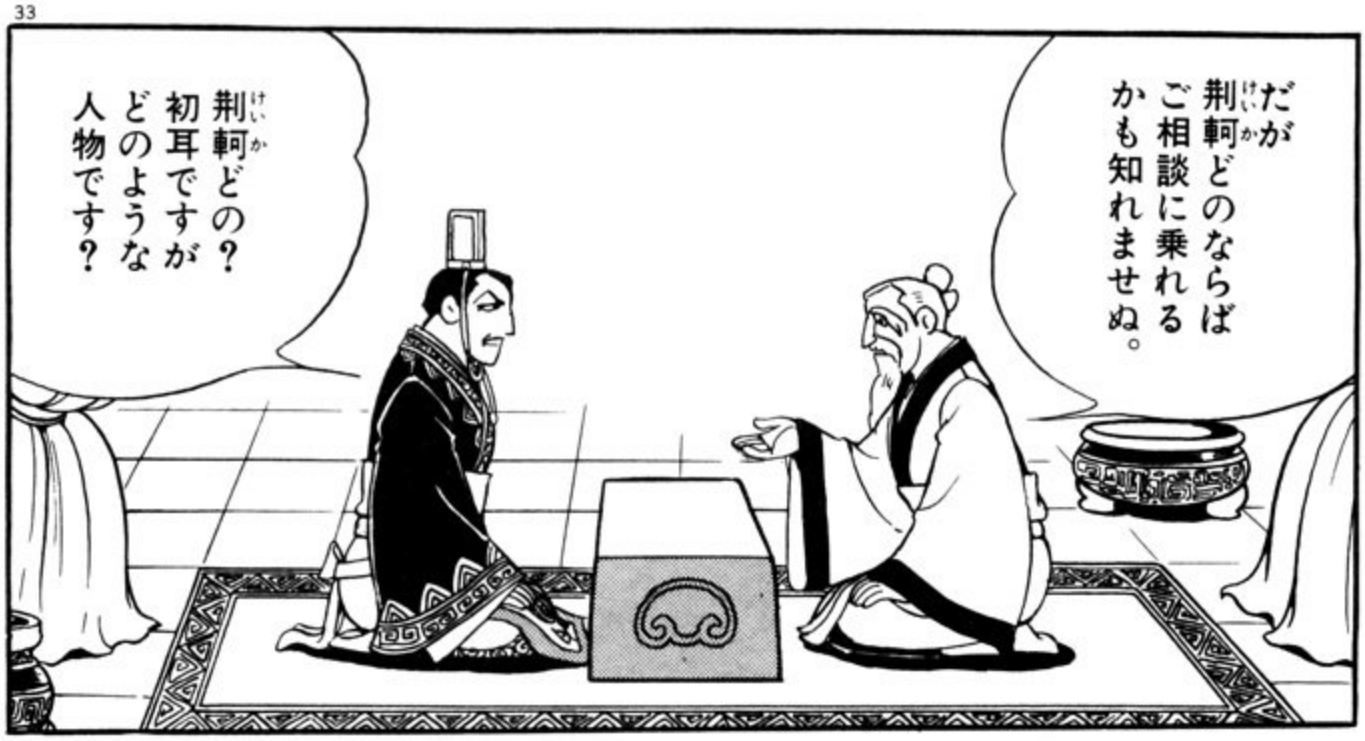
今日は先生に国事についてお教えいただきたくお越しを願った次第です。
はい。


先生、燕と秦は両立いたしませぬ。そこで何かよい方法はないかと悩んでおりまする。

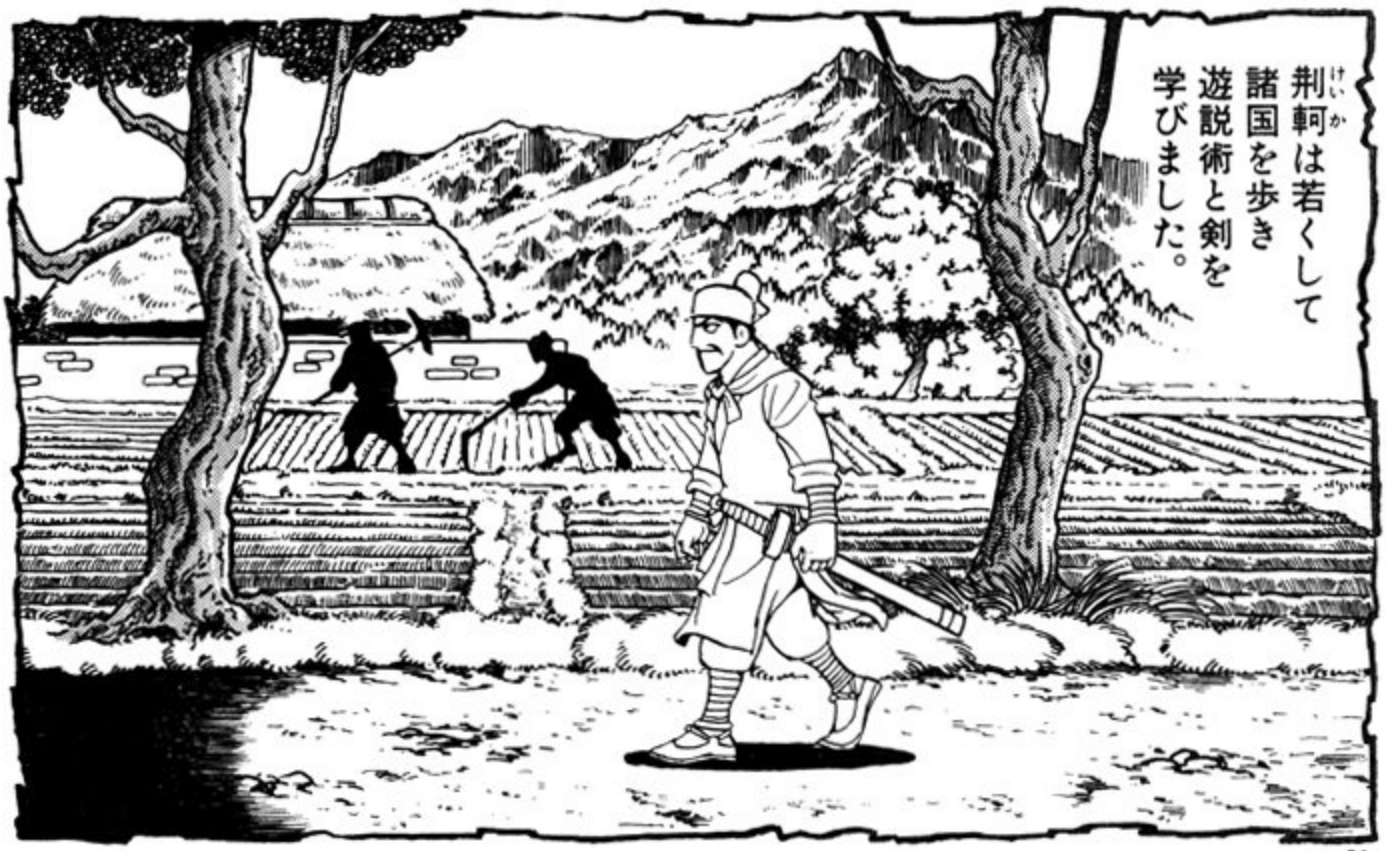
両立せぬとあらば、どちらかが亡ばねばなりませぬ。

太子さま、駿馬は若くて元気な時は千里を走りますが、老いると駄馬にもおとると申します。
愛国心がありましてもわたくしはもう駄馬にもおとる身なのです。わたしには無理な相談にございます。

33


だが荊軻どのならばご相談に乗れるかも知れませぬ。
荊軻どの？初耳ですがどのような人物です？

荆軻どのは
衛の人でございましてな、
今は遊侠の徒でございますが、
わたしは
なかなかの人物と
見ておりまする。


荆軻は若くして
諸国を歩き
遊説術と剣を
学びました。

34

そして
その理論をもって
衛の元君に進言したが
元君は用いなかったのです。

それ以後、荊軻どのは仕官をあきらめたのか、遊侠の群に身を投げました。

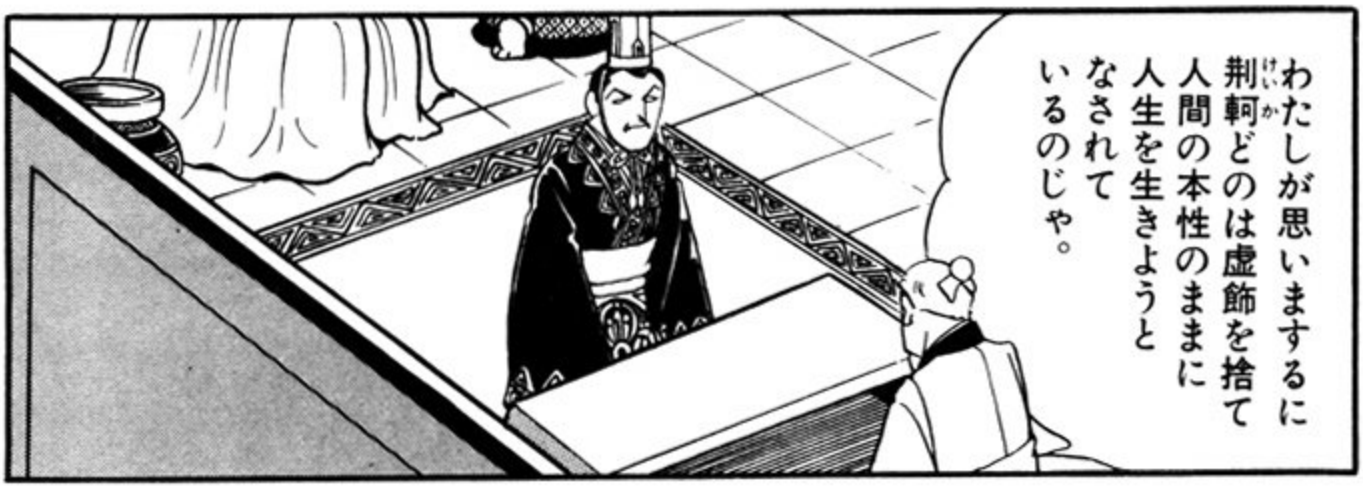
そして心許せる者と酒を飲み天下国家を語り、時には涙し時には怒りをぶっつけております。

35

わたしはこの荊軻どのを高く買っております。彼に相談なされてはいかがでございましょう。

先生、そのような遊侠の徒に秦を討つ国家の大事をまかせられましょうか？

いやいや荊軻どのは生き方を変えられたのじゃ。


わたしが思いまするに荊軻どのは虚飾を捨て人間の本性のままに人生を生きようとなされているのじゃ。

あの学識の深さ、あの冷静沈着さ、ただの遊侠の徒ではありませぬ。信頼できまする。
では先生、その荊軻どのを紹介してもらえませぬか。

36

わかりました。さっそく話してみましょう。

よろしくお願いいたします。

先生、今日はわざわざご足労願い申しわけございませんでした。

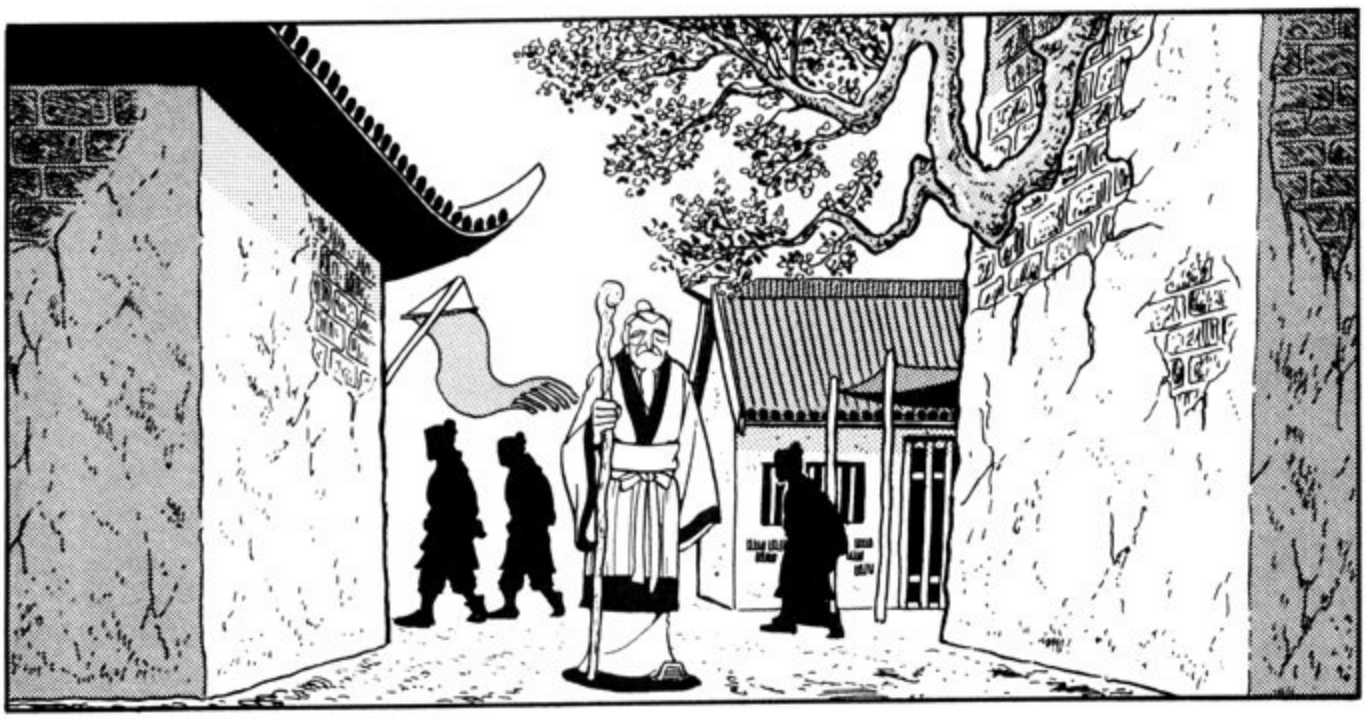
いやいや、何かお役に立てればさいわいです。

ところで今の話国の大事にかかわること、くれぐれも他言なさいませぬようお願いいたします。

ふふふ、ご心配なされますな。

37

この時すでに丹(たん)は秦王暗殺をたくらんでいたのである。



荆軻どの、おられるかの。

その声は田光先生ですな。

38

さあ、遠慮なさらずにどうぞどうぞ。
ではちょっとお邪魔いたしますぞ。

あいかわらず勉強なされておりますのう。

いやあ、退屈しのぎに書を読んでいただけです。

すぐに酒の用意をいたします。

いやいや、今日は用があってのう。

実はわしは太子に呼ばれ、燕と秦は両立しない、何かよい方法はないかと相談されてのう。

39

むずかしいご相談ですな。

その通りじゃ。

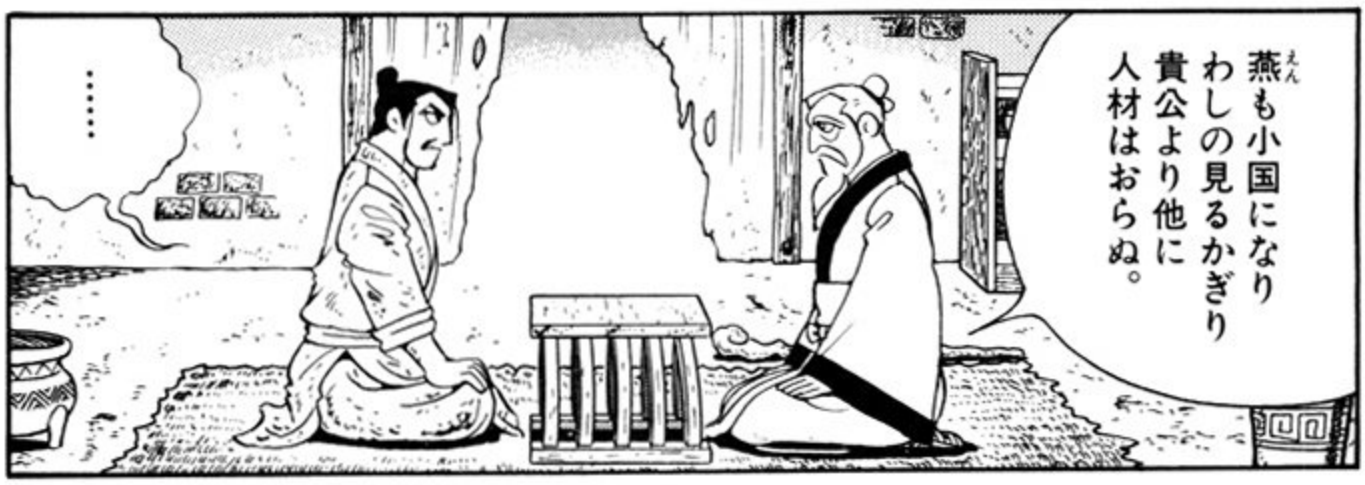
秦にとって燕は吹けば飛ぶような存在じゃ。それが両立しないといわれては秦を亡ろぼす方法を考えねばならぬ。

わしがもっと若ければ諸国をかけまわって説き、連合軍を組み秦に対抗できる勢力を作れるのだが、もうそれだけの体力はない。
……

そこで貴公を太子に推薦したのだ。

それがしを……

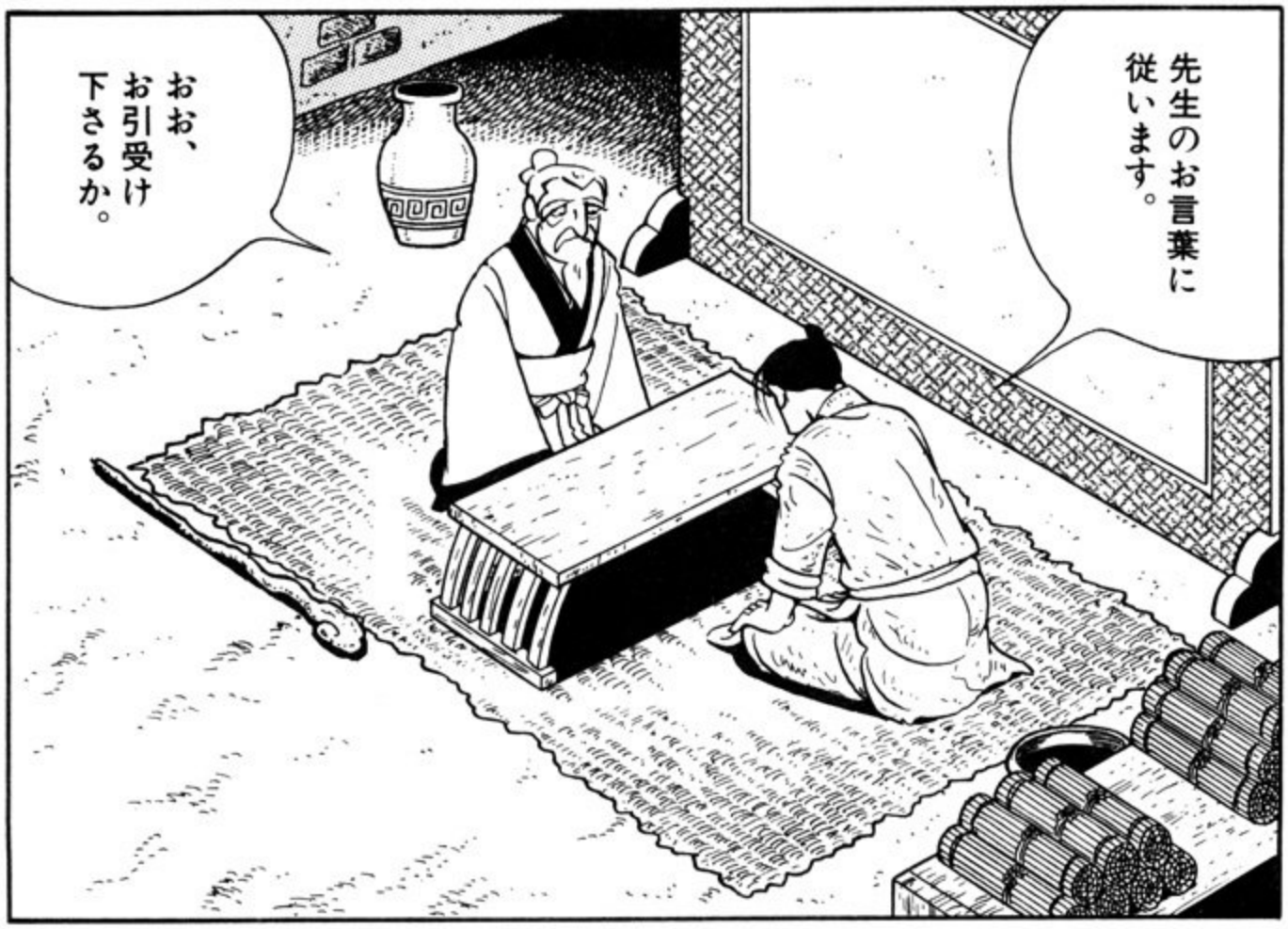
40


燕も小国になりわしの見るかぎり貴公より他に人材はおらぬ。
……

どうであろう、太子の相談相手になってくださらぬか。

わたしにとって燕は母国でもない、ただ遊侠の徒として住みついただけ、めんどうなことはやりたくない……
でもこの先生は飲んだくれのわたしをいつも高く評価し暖かく接してくれた、その信頼には応えねばなるまい。

41


先生のお言葉に従います。
おお、お引受け下さるか。

ところで太子に会ったら一言伝えてもらいたい。

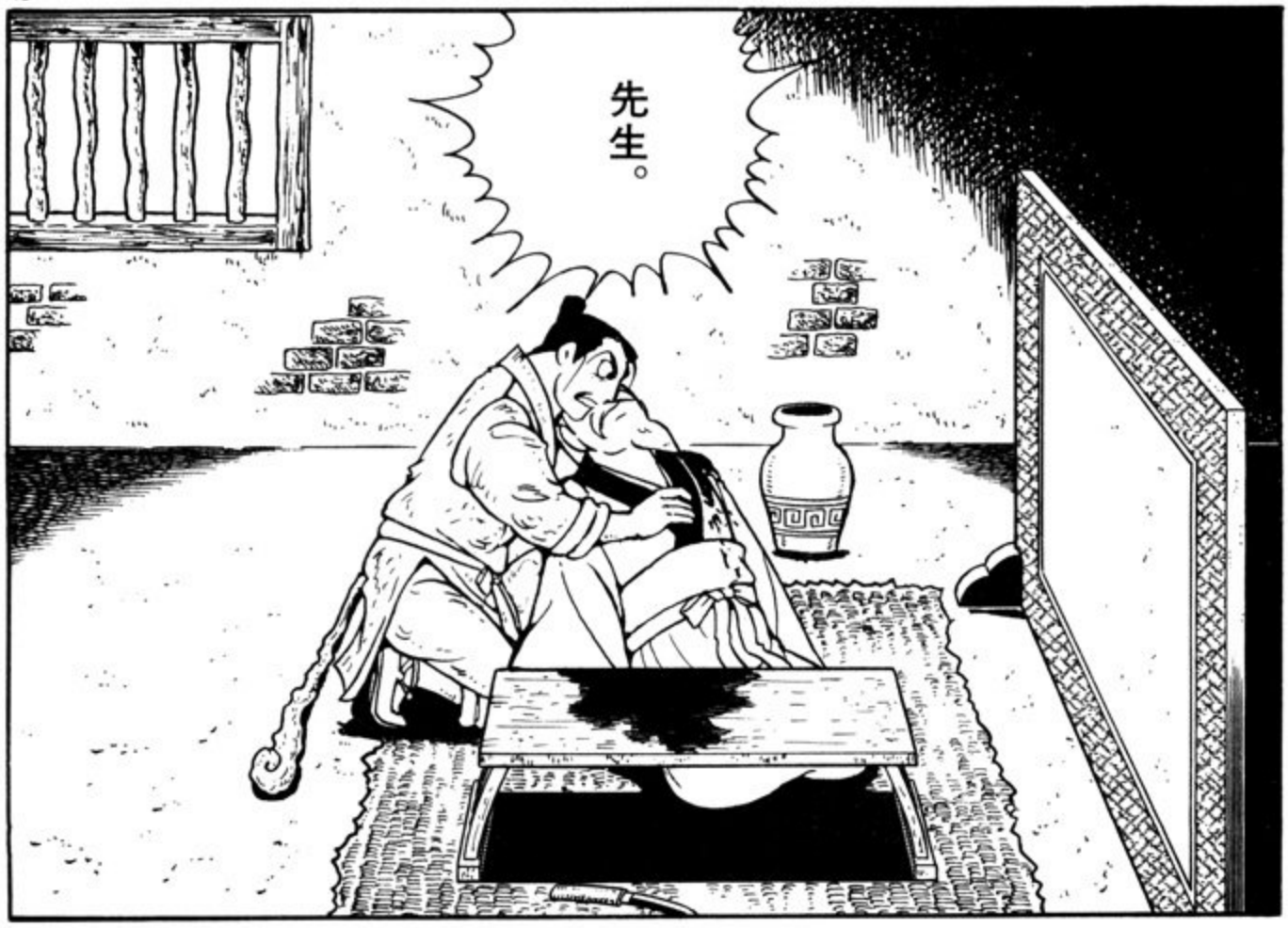
なんでしょう？

すぐれた人物は行ないをなすにあたって、人に疑いをいだかせずという……

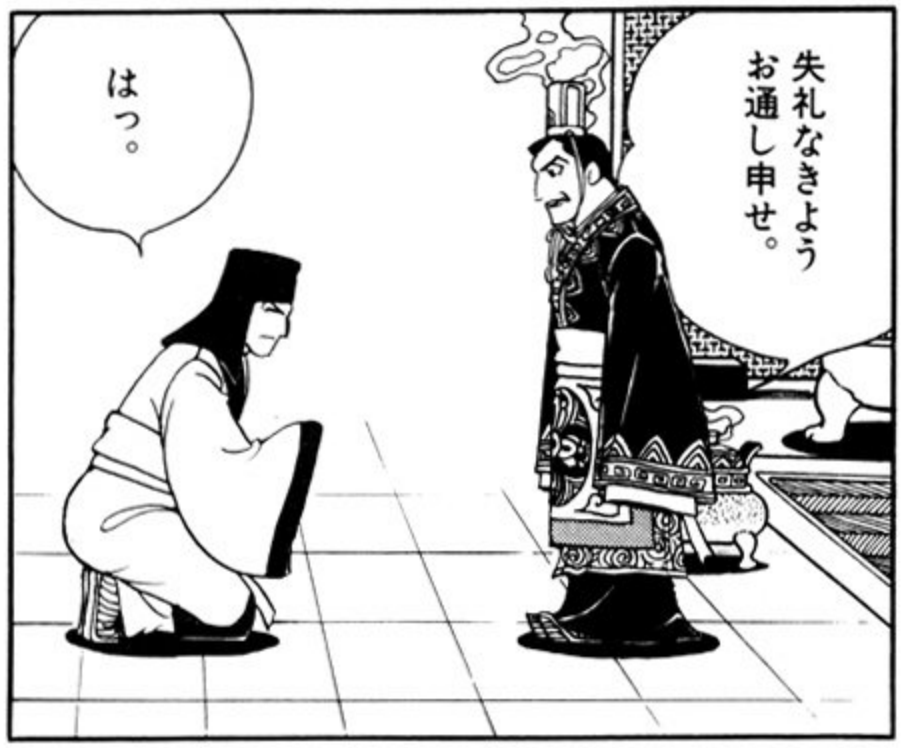
わたしは太子さまの御殿を出る時に「国の大事にかかわることゆえ他言なさらぬように」といわれた。これはわたしを疑っておいでだということじゃ。
人に疑いをいだかせるようでは義侠の男ではなくなったのじゃ。

42

43

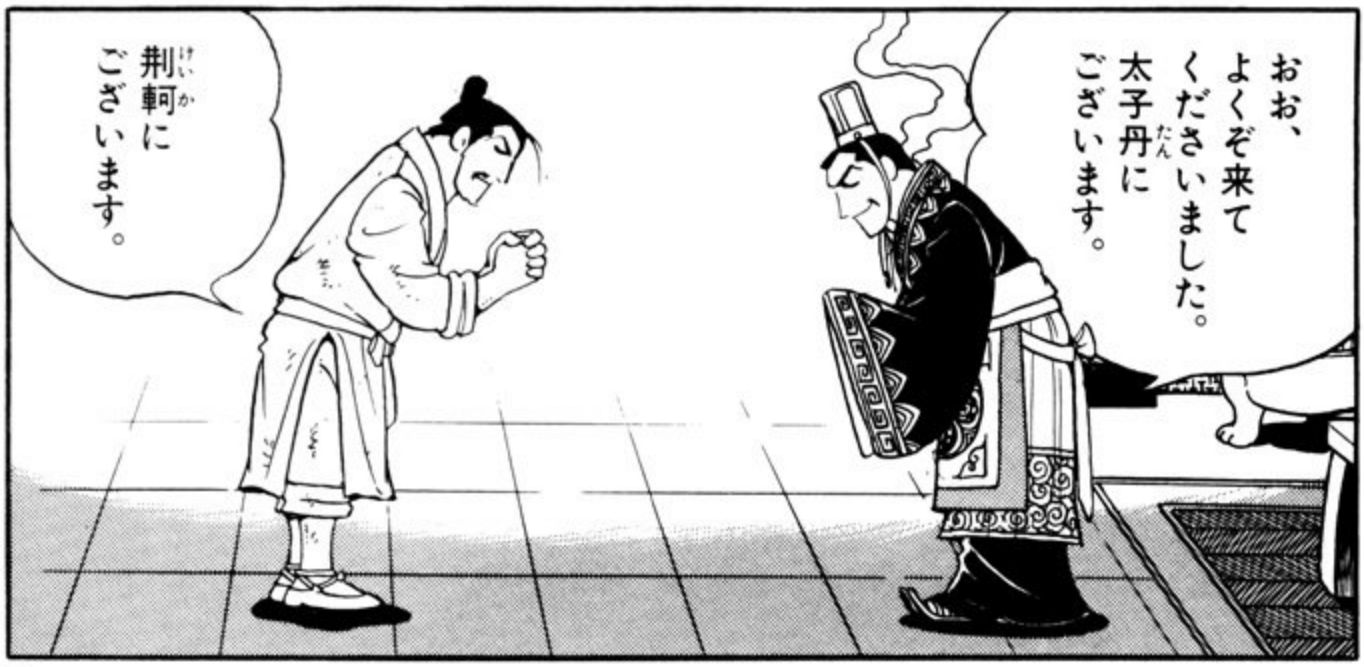


なにっ、荊軻どのがお見えになられたと。



44

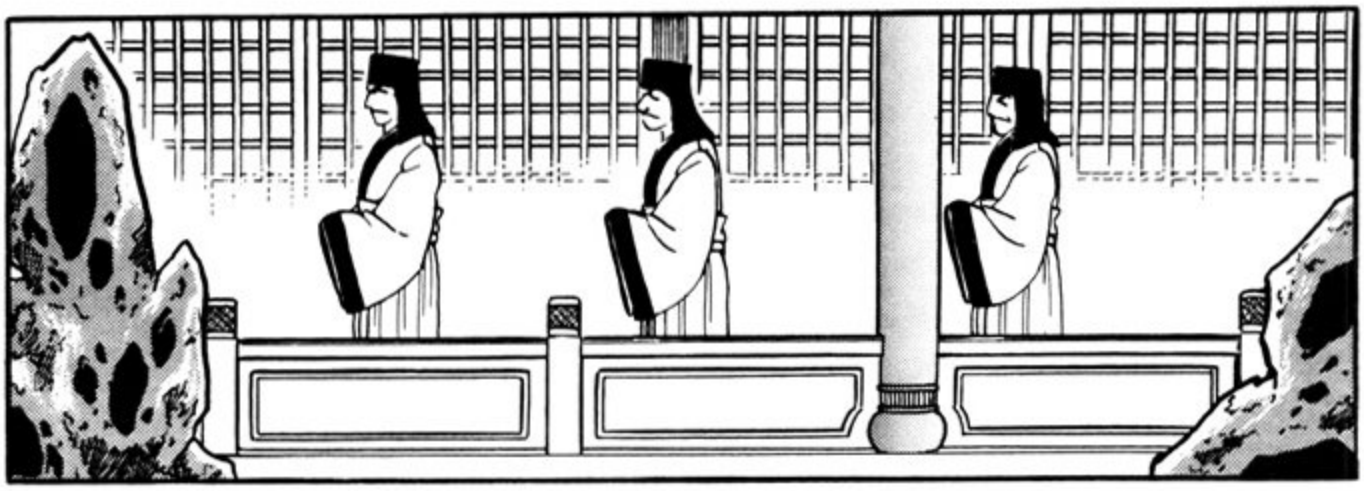
太子さま、荊軻先生をご案内いたしました。


おお、よくぞ来てくださいました。太子丹にございます。
荊軻にございます。

45

そち達は座をはずせ。

はっ。



太子丹さま、
田光先生は
すでに秘密を
守られました。

どういう
ことで
ございますか
？

46

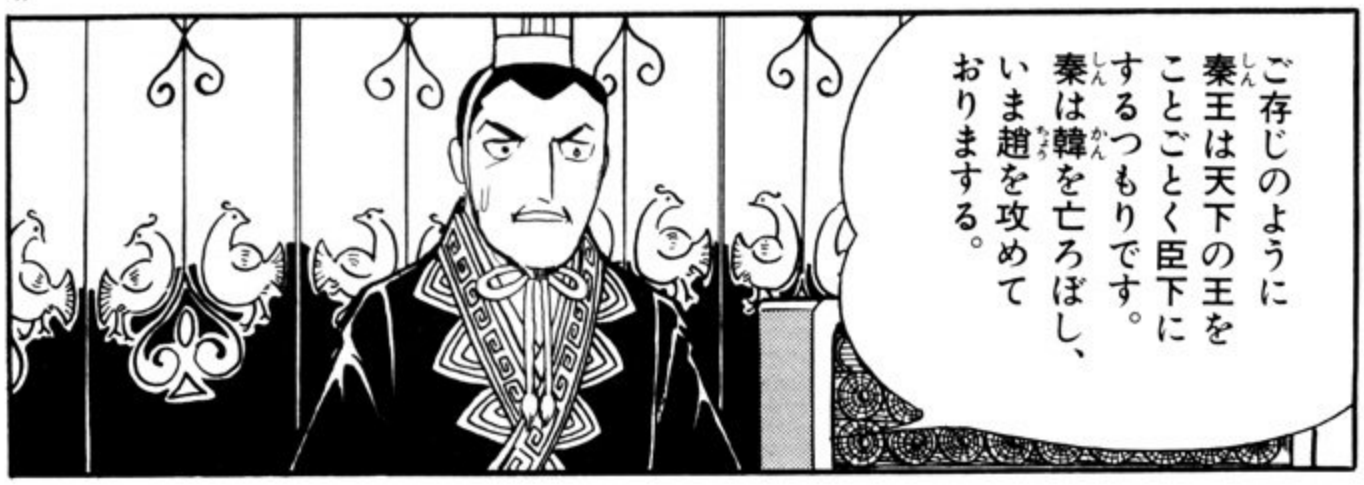
太子は田光先生に
秘密をもらさぬ
ようにと申されました。
それはすでに
自分を疑って
おられるからだと申し
死をもって
秘密を守りました。
死んだ。

な、なんということを。
わ、わたしは
そんなつもりで
申したのではない。

余計なことを
いってしまい
ました。

ところで
わたくしも
田光先生の
信頼に応える
つもりで参りました。
わたしの知っている
かぎりの知識を
お役に立てて
ください。
かたじけない、
あなたのような人物を
田光先生が紹介して
くださったことは、
天がまだ燕を
見放していないと
いうことで
ございましょう。

47


ご存じのように
秦王は天下の王を
ことごとく臣下に
するつもりです。
秦は韓を亡ろぼし、
いま趙を攻めて
おりまする。

秦将王翦は漳、鄴一帯を平定し、秦将李信は太原(趙の昔の都)雲中(趙の北境)にまで撃って出ておりまする。趙の滅亡は日数の問題です。

趙が亡びれば次は燕です。わが国は弱小国、国家総動員しても秦には歯が立ちませぬ。
わたしは各国に使者を送り、連合して秦に当ろうとしましたが、どの国も秦を恐れて応じてくれませぬ。

そこでわたしが考えたのが、秦王暗殺でございます。

もし秦王が死ねば各地にいる秦の将軍達はどう動きましょう。ここに亡命してきた樊於期将軍のように、不満をもってる将軍も多いのです。きっと内乱か権力闘争が起こりましょう。

秦の国内が乱れてくれれば、その間にわれらは諸国と連合軍を組む刻ができるのです。その役目をあなたにしていただきたいのです。

わたしに秦王を殺せと。

今はそれしか道が残っておりませぬ。なにとぞお引き受け下され。

49

お待ち下さい、わたしは田光先生に知恵をかすようにといわれて来たのです。刺客などとても引き受けられませぬ。
しかしもはやこれしか道が残っておりませぬ。なにとぞお引き受け下され。

しかし一介の浪人が
秦王には近づけませぬ。
それに
秦王はまわりの者にも
帯剣を許していないと
聞いております。
無腰でどうやって
秦王を殺せるのです。

秦王は貪欲です。
莫大な貢物を
持っていけば
かならずやこの使者を
迎え入れましょう。
われらに出来る事は
すべていたします。
この通りこの通り
お願い申しあげます。

荆軻は一国の太子が
遊侠の徒の自分に
土下座して頼む姿に
あわれみをおぼえた。

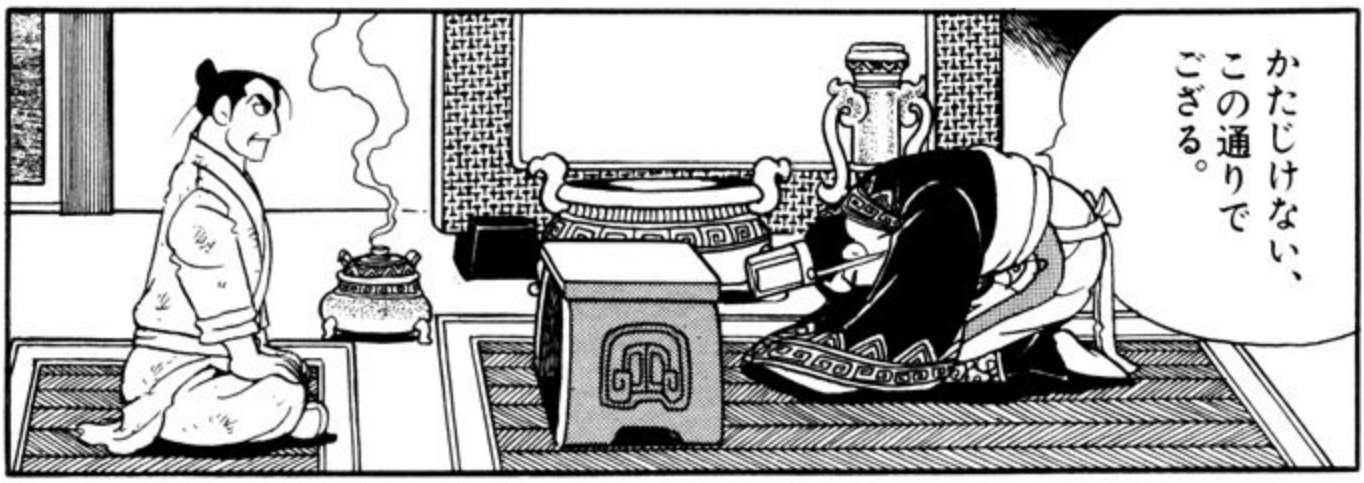
50

わしも人生半ばを
過ぎた。このまま
遊侠の徒として
一生を終えるか…
それとも一仕事して
ぱっと散ってみせるか。

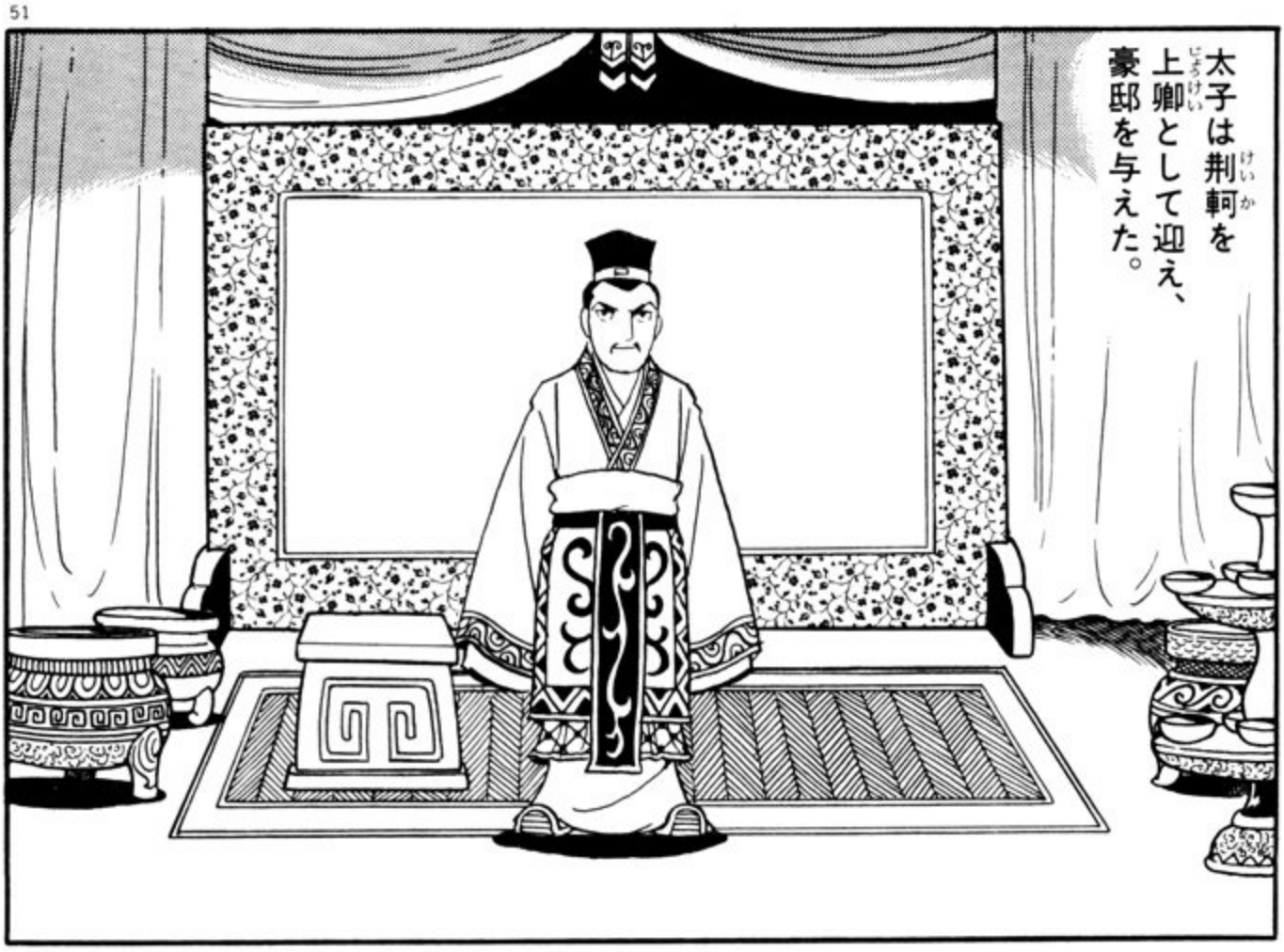
ましてや
天下の王と震え
あがられている秦王を
相手に勝負を
挑むというのも
悪くないかもしれぬ。

太子さま、わかりました お引き受けいたしましょう。

おお、お引き受けくださるか。


かたじけない、この通りでござる。

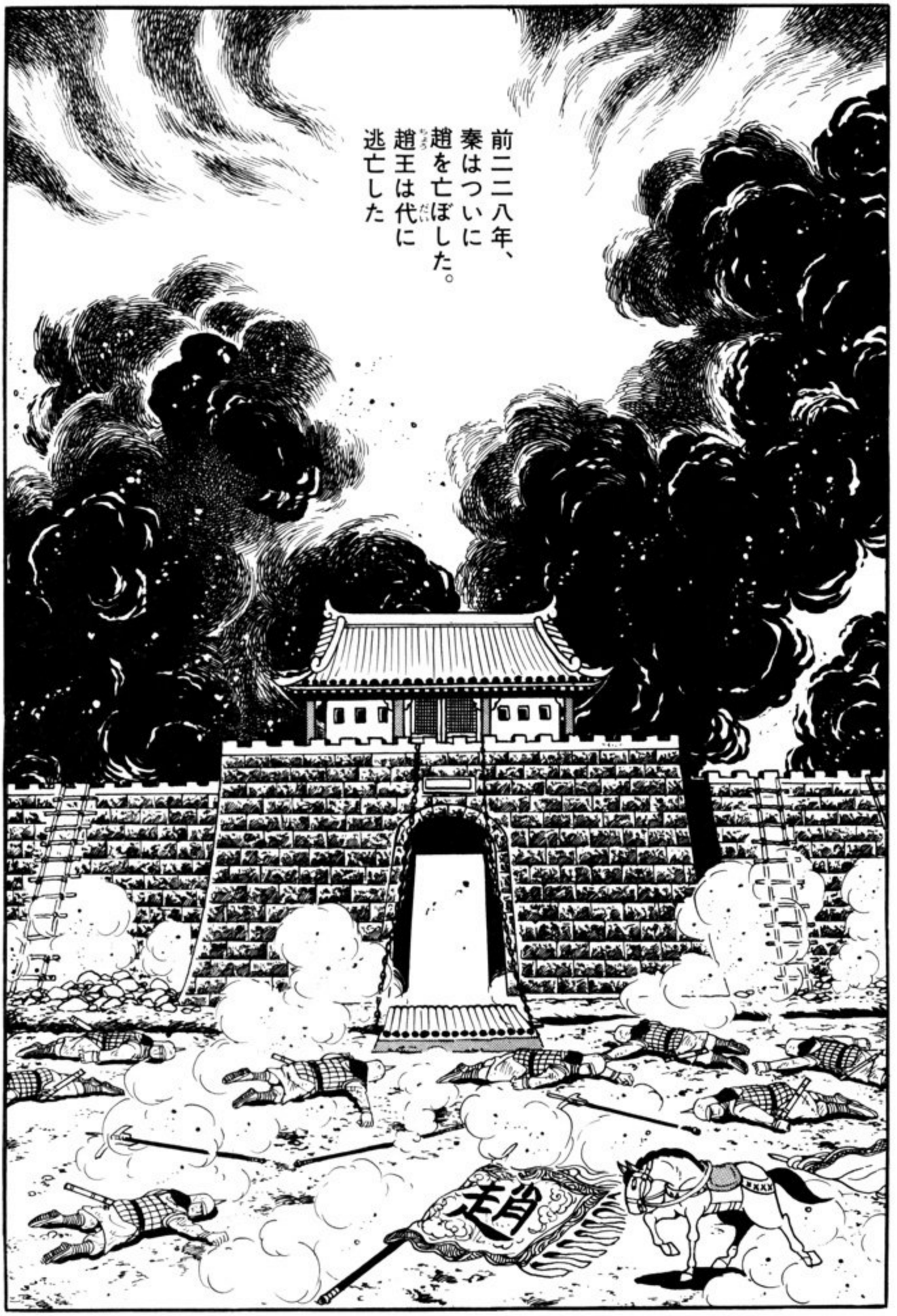
51


太子は荊軻を上卿として迎え、豪邸を与えた。

そして毎日屋敷を
訪れ、最高の
料理や酒をすすめ
美女を与え
荊軻(けいか)の機嫌をとった。

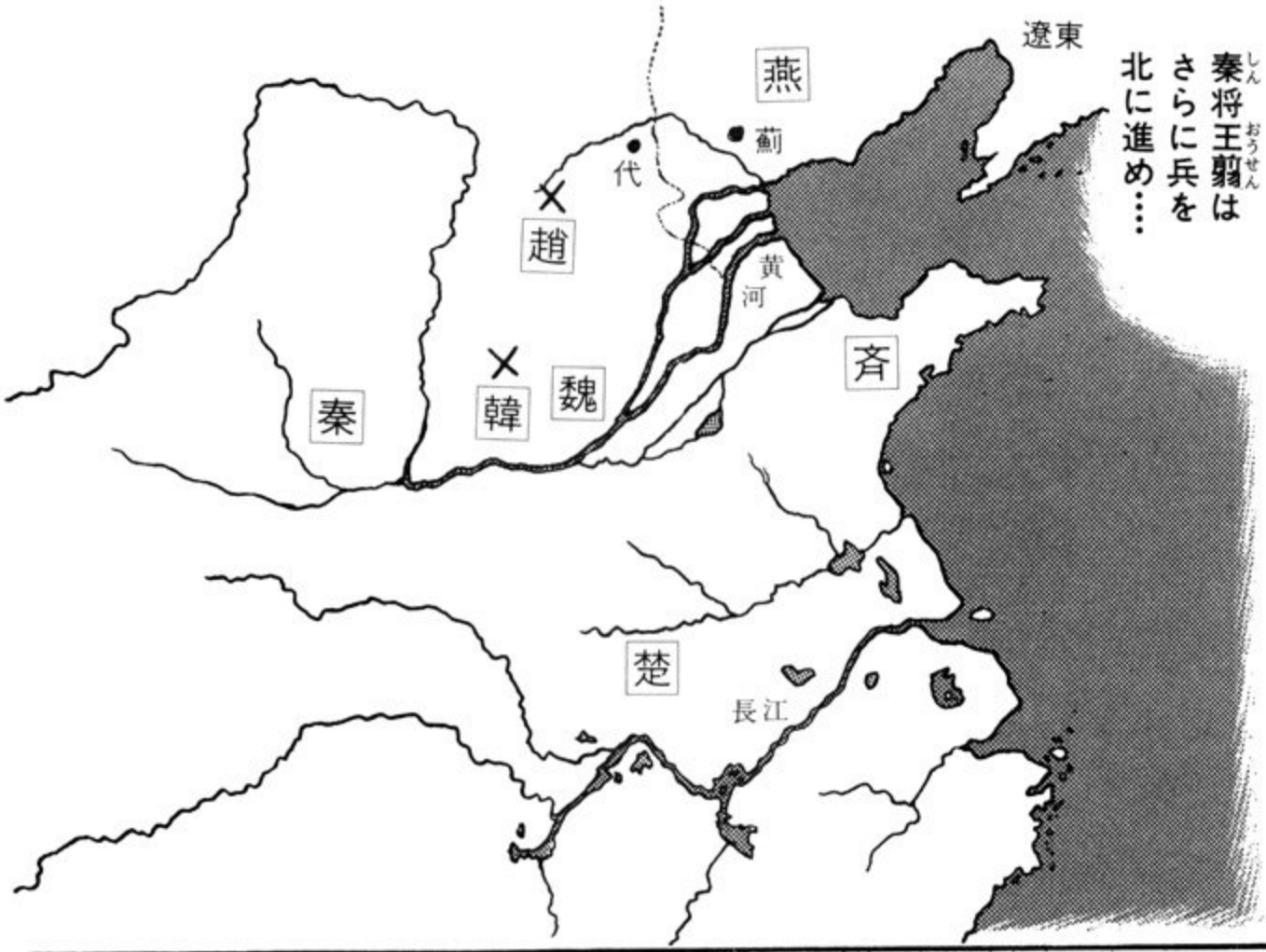
52

かなり日がたったが
荊軻(けいか)は生活を
楽しむだけで
行動を起こそうとは
しなかった。



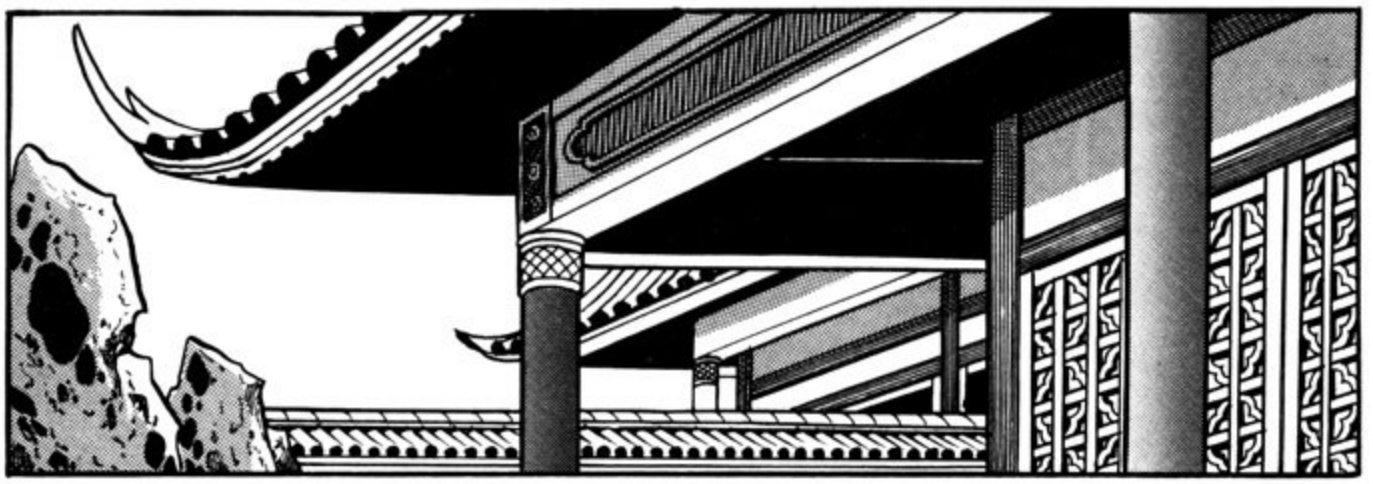
53

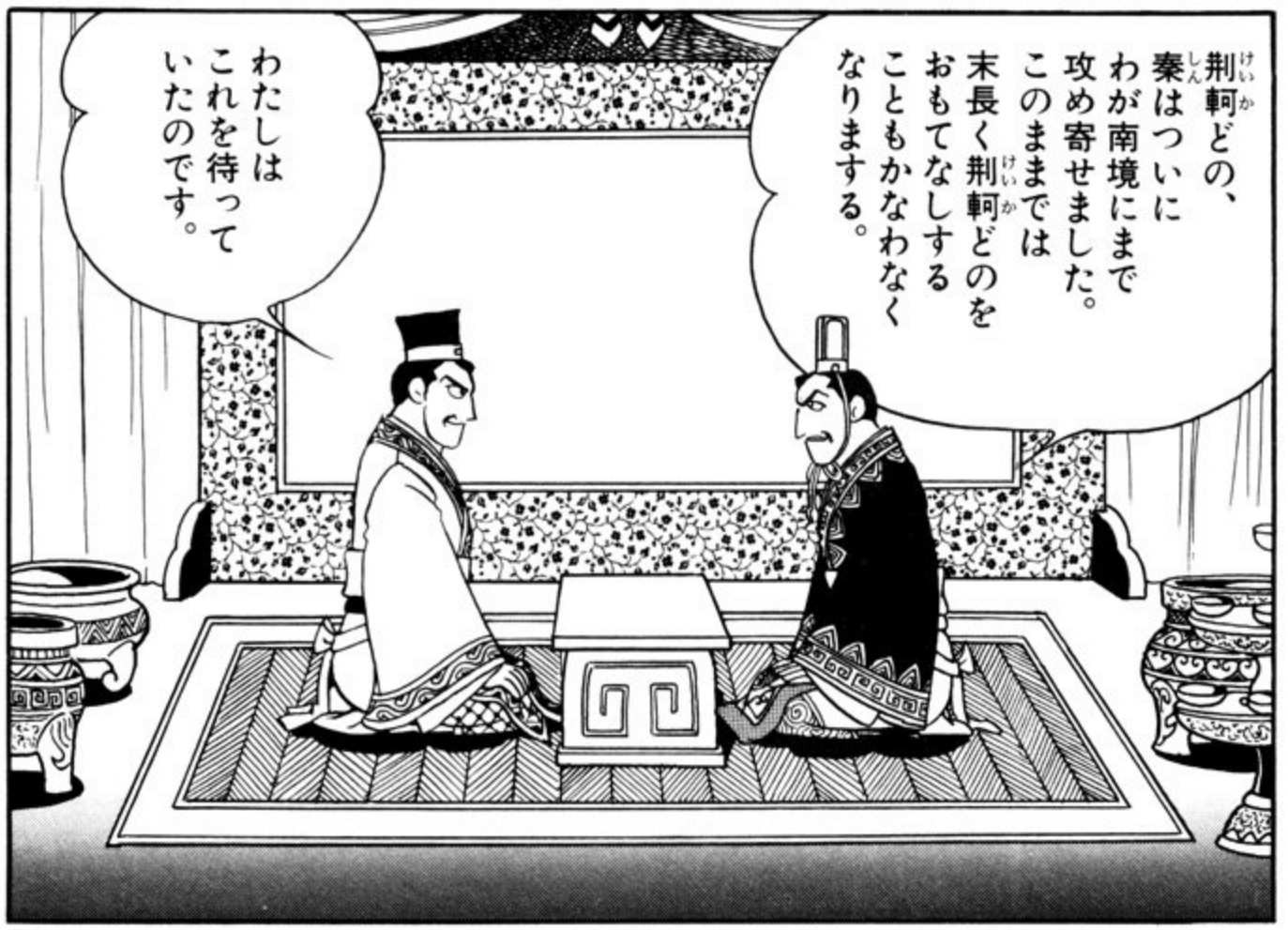
秦将王翦は
さらに兵を
北に進め……



ついに燕の南境に
達した。

54




荊軻どの、秦はついにわが南境にまで攻め寄せました。このままでは末長く荊軻どのをおもてなしすることもかなわなくなりまする。
わたしはこれを待っていたのです。

55

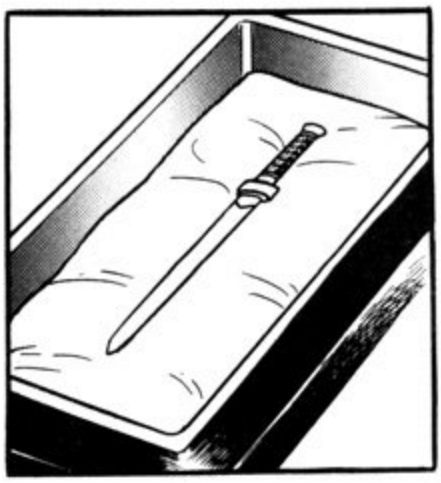
秦軍が国境に迫る日をですか？
そうです。

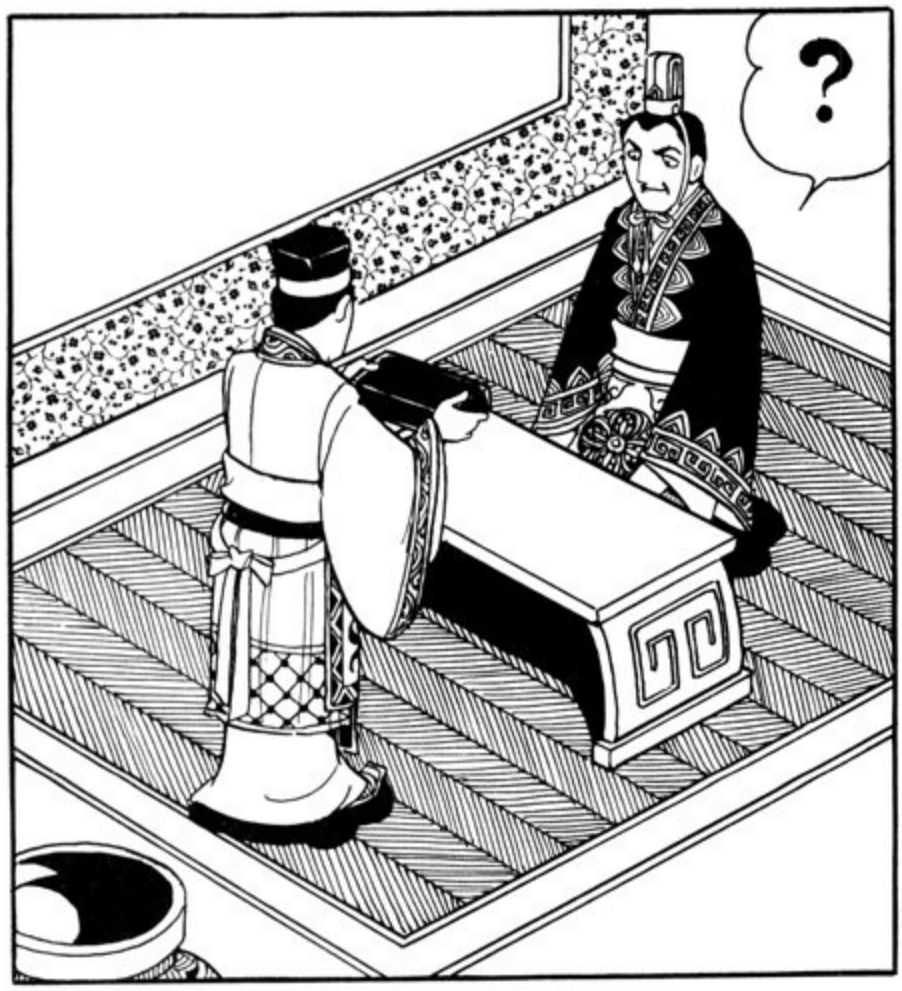
どういうことかお教え願えませぬか。

まず秦王には
よほどのことがない限り
近づけませぬ。
今ならば隆伏の使者と
して近づけます。

お見せしたい
ものが
ございます。

56



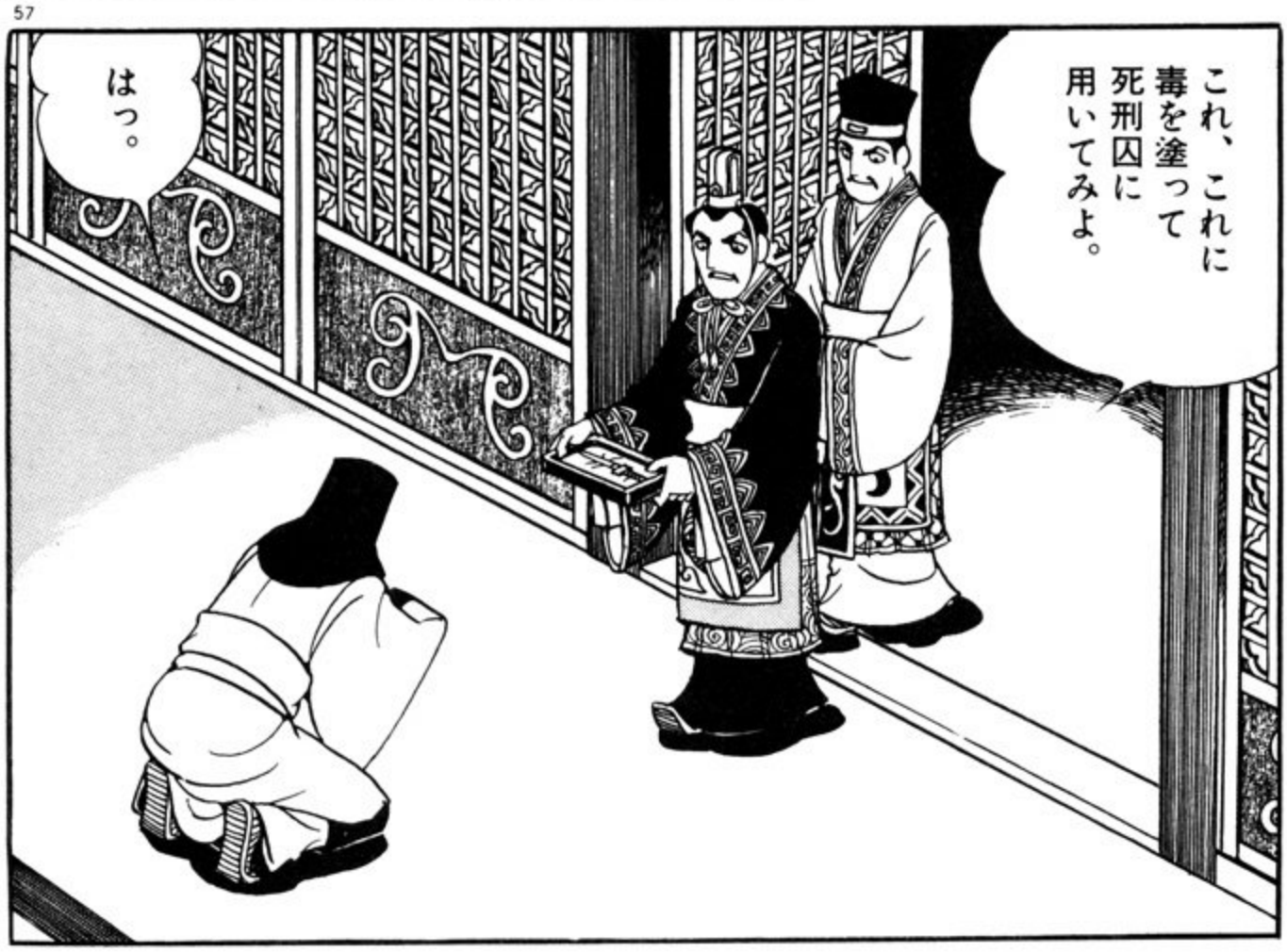

?

秦王には剣を持って近づけませぬ。それゆえこの刃物を巻物の地図に隠して近づきます。

そして地図を見せるふりをしてこの刃物を取り出し秦王を刺すのです。

万一ということもありますのでこの刃物に毒を塗って死刑囚を傷つけてみてください。
わ、わかりました。

57


これ、これに毒を塗って死刑囚に用いてみよ。
はっ。

その効果は
死刑囚の躰で
ためされて……

かすり傷で……

チクリ☆

死刑囚は
息をひきとった。

58

そうか、
かすり傷で
死んだか。

ところで
これを隠す
地図が必要で
ございましたな。

はい、督亢の地図がよろしかろうと思います。（燕南部の肥沃の土地）それと樊於期将軍の首が必要です。
なんですと、樊於期将軍の首ですと。

はい秦の信用を得るものでなくては秦王には近づけませぬ。秦王は樊将軍に金千斤（一万六千両）と一万戸が住める領地を懸賞として出しております。督亢の地図と樊将軍の首を献上すれば、きっと喜んでわたしと会ってくれるでしょう。

その時に初めてわたしは太子のご希望にそえるのです。

しかし樊将軍はわたしをたよってこられたのです。わたしにはとてもそのようなことは出来ませぬ。

59

先生、なんとかその案は考えなおしていただけませぬか。

……

荆軻は太子の気持ちを察し、自ら樊将軍に会いにいった。

60

樊将軍、秦の仕打ちはむごいものです。一族を皆殺しにしそればかりか今も将軍の首に金千斤と一万戸の領地を懸賞として出しております。こののちいったいどうなされます。

この樊於期いつもそれを思うたびに骨まで痛みをおぼえます。

しかしいかなる策もございませぬ、くやしさだけの日々を送っております。

ひとつだけ策がございます。燕の憂いをなくし将軍の仇討ちも出来る策です。

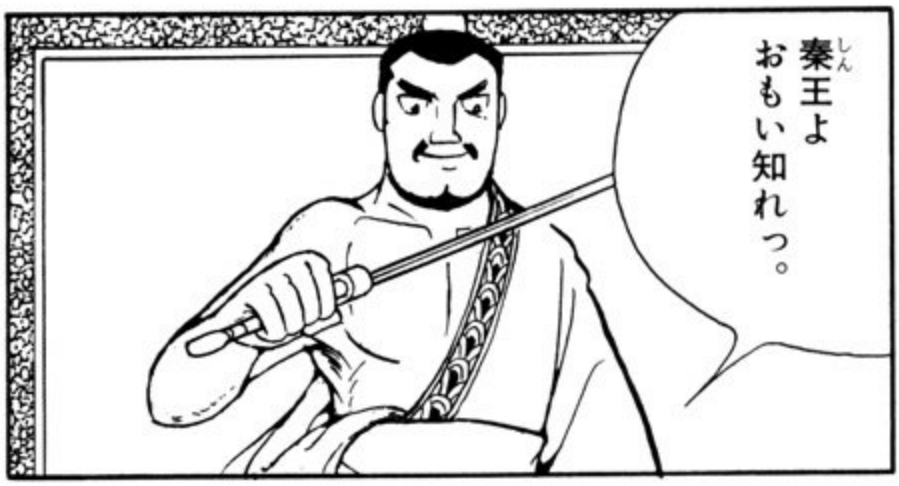
ほう、それはどのような策なのです。

将軍の首をいただきそれを秦王に献上いたせば、秦王はかならずや喜んでわたしと引見いたしましょう。その時隠し持った短刀で秦王を刺すのです。

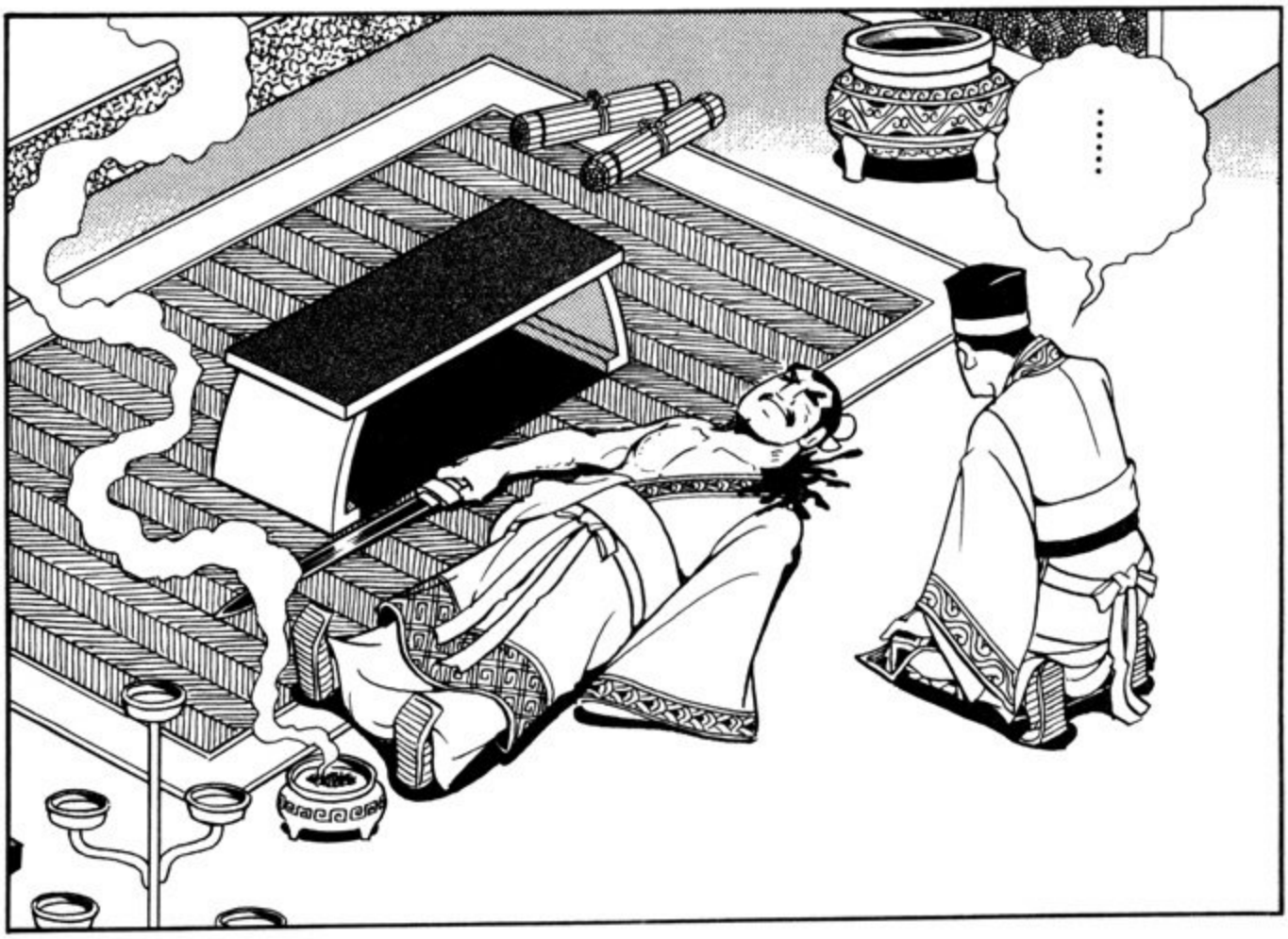
61

そうすれば将軍どのの仇討ちも出来、また燕も助けられます。将軍はこの策をどのように思われます。

おお、わしの首一つで家族の仇討ちが出来、燕にご恩返しが出来るわけですね。



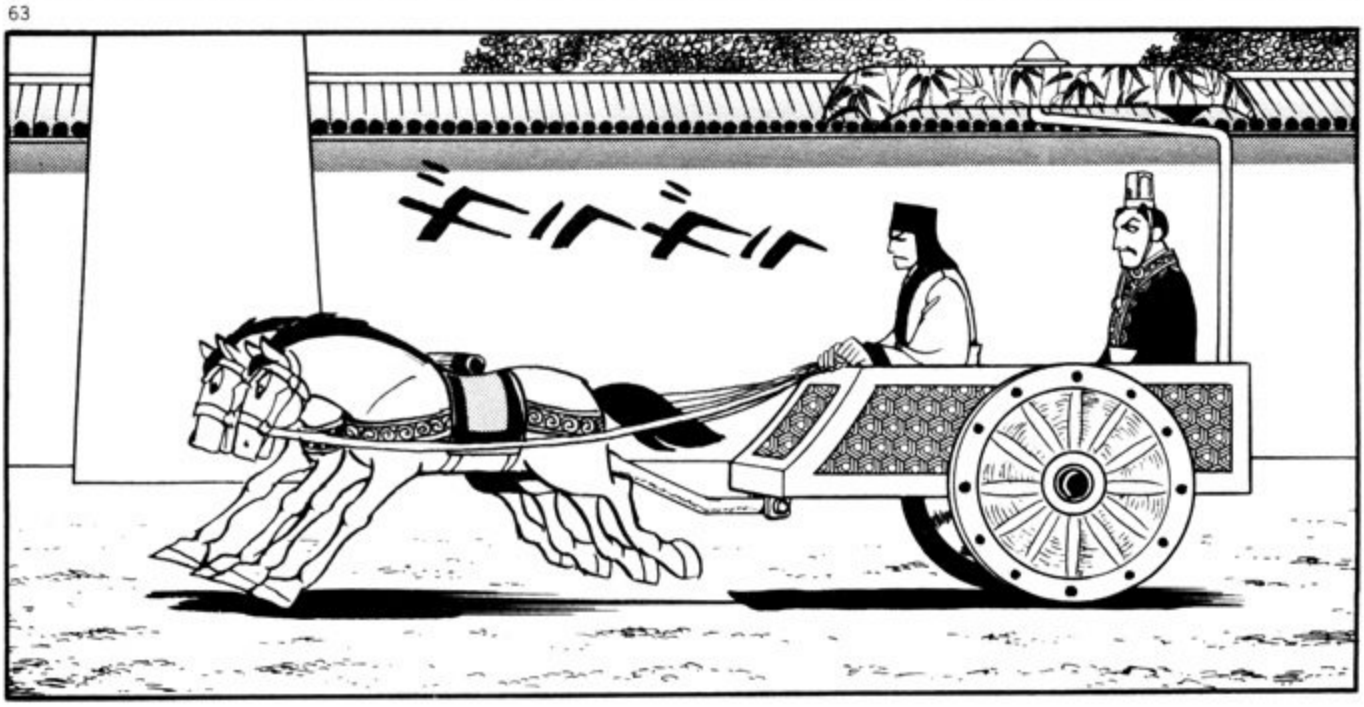
62

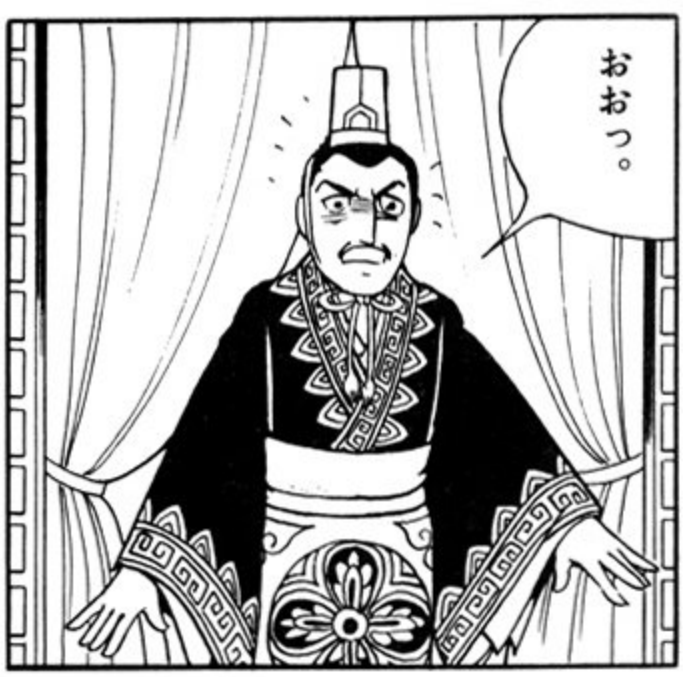


なに、樊(はん)将軍が自決なされたと。

これ、すぐ樊(はん)将軍の屋敷へ！

63




おおっ。

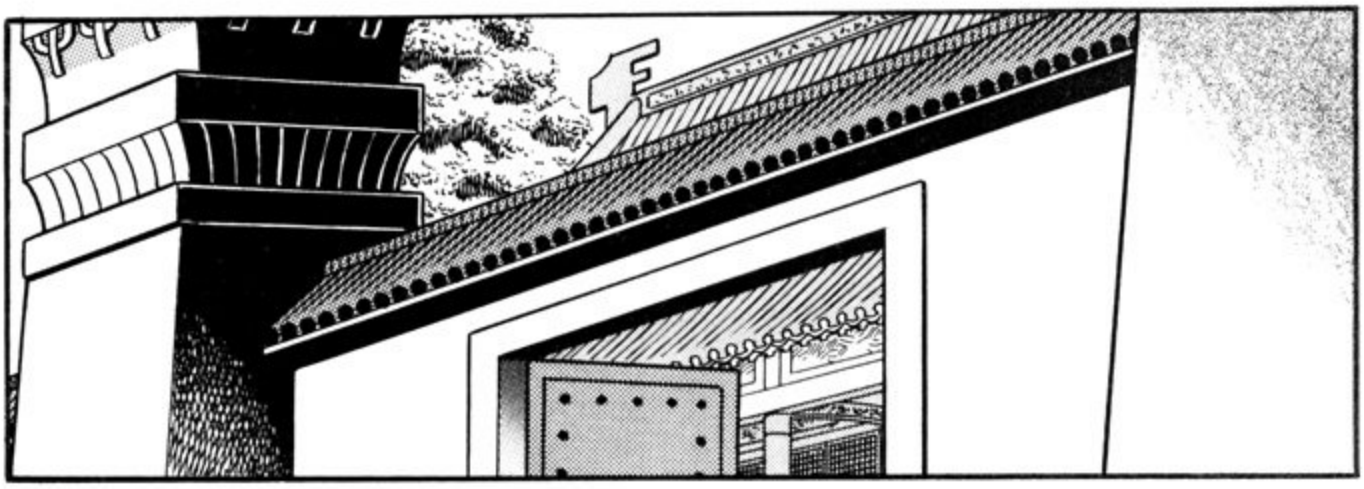
64

樊将軍
樊将軍。

太子、
お悲しみは
よくわかりますが、
樊将軍は
燕にご恩返しを
するつもりで
自決なさった
のです。

65

すべての準備はととのった。だが荊軻(けいか)は出立しようとしなかった。



先生、準備はすべてととのいました。ご出立なさらぬのは計画変更でもございますか。
わたしは遠くにいる信頼出来る友を待っているのです。

66

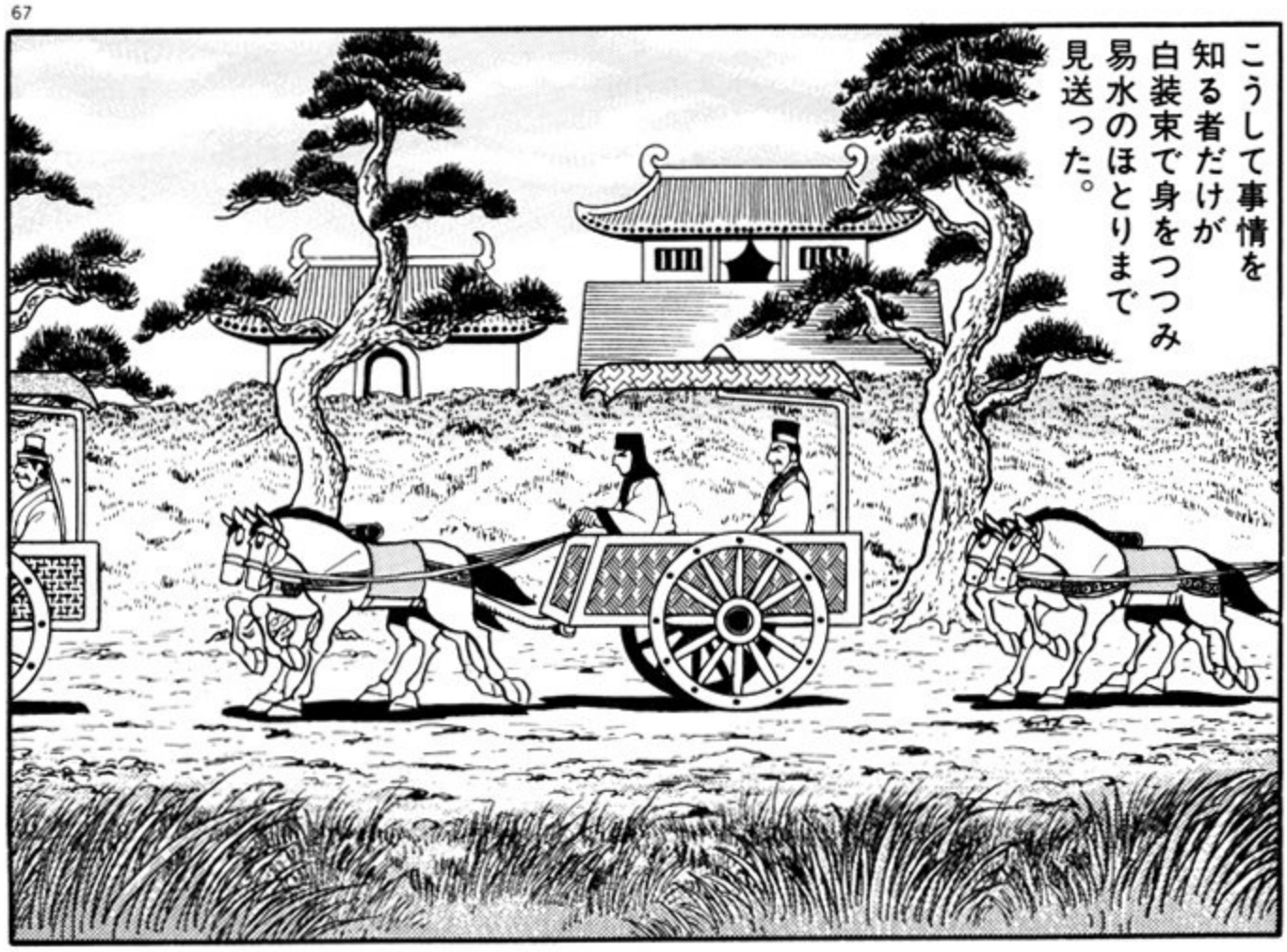
お供なら秦舞陽(しんぶよう)という豪傑を用意しております。彼は十三歳ですでに人を殺し、度胸は満点でございます。
あんな若僧には荷が重すぎます。彼はただの乱暴者です。

太子、わたしは
匕首一つで強国秦に
乗りこむのですぞ、
失敗は許されませぬ。
信頼できる人物を
副使として必要
なのです。

しかし
そのお方はいつ
お着きになるのか
わからぬので
ございましょう。
もはや一刻の猶予も
ありませぬ。

太子がそう
おっしゃられるの
なら出立
いたしましょう。

67


こうして事情を
知る者だけが
白装束で身をつつみ
易水のほとりまで
見送った。

ここで一行は別れの盃をかわした。荊軻はここで有名な詩を残した。

68

風は蕭々として易水寒く
壮士ひとたび去かば復たび還らず。

荆軻は車に乗った。

69

荆軻は二度とふりかえることはなかった。

秦

70

荆軻はまず
中庶子(宮内官)の
蒙嘉という
秦王の寵臣をたずね、
千金の贈り物をして
秦王へのとりなしを
たのんだ。

秦王さま、燕より使者が参っております。

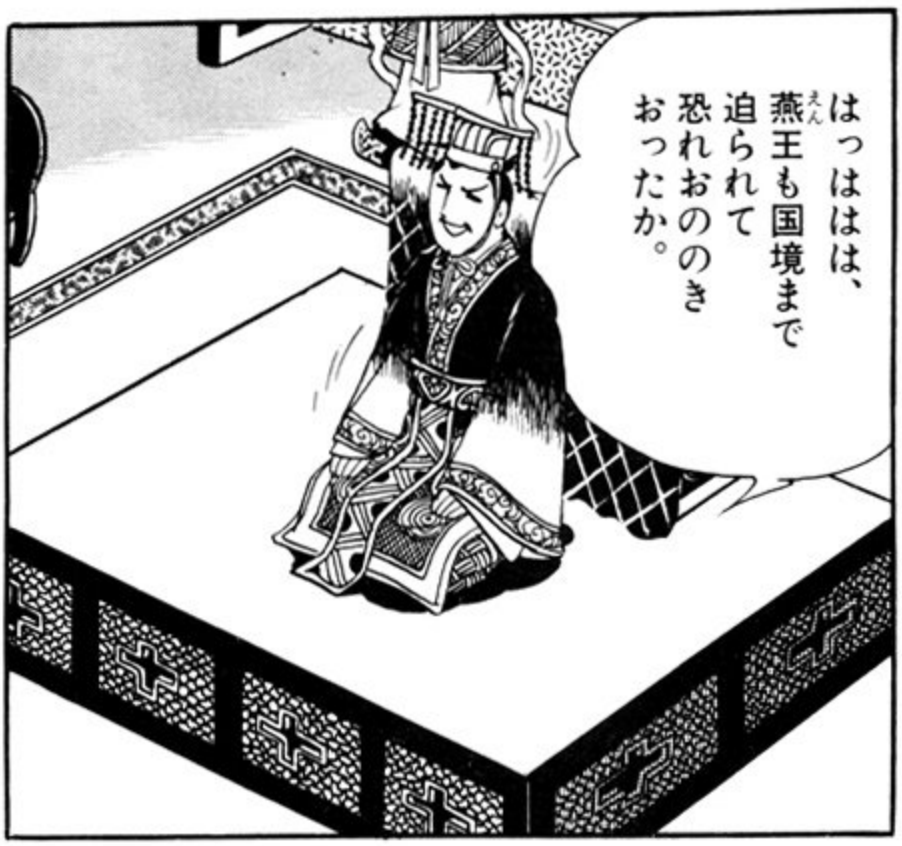
なんといって参った。

71

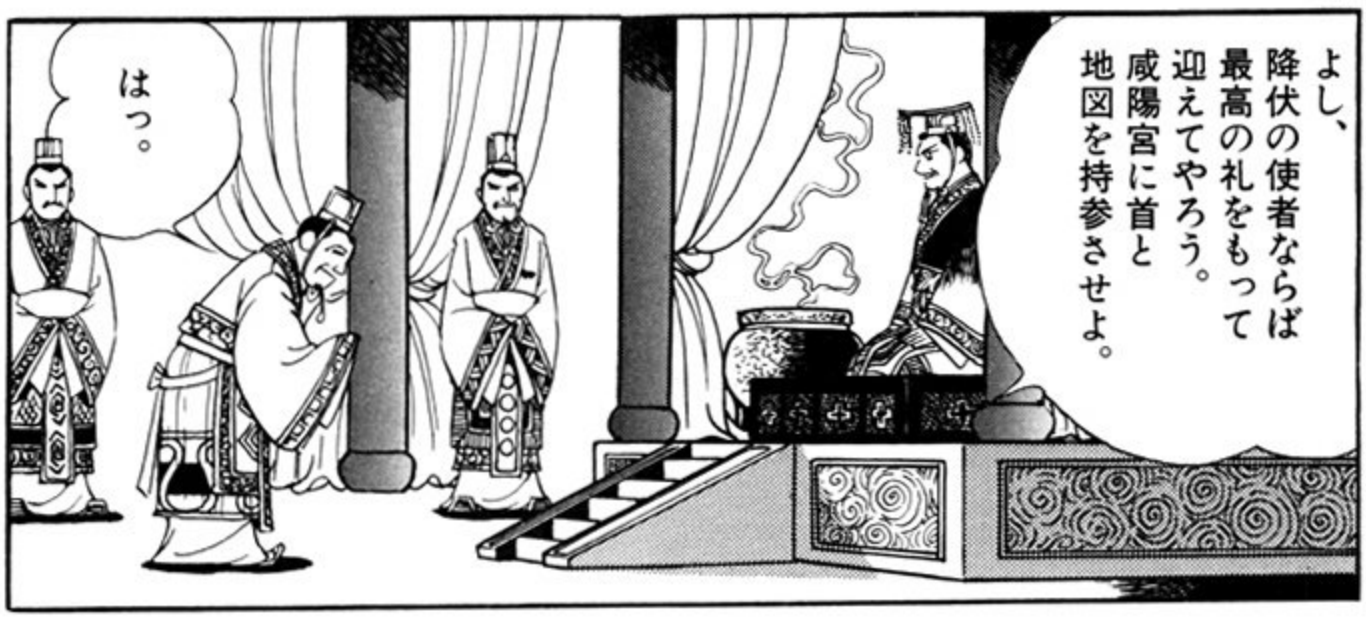
燕王は大王さまの威光をおそれお手向かいはいたさぬと申して参りました。これからは国こぞって大王さまの臣下となり諸侯と同じように貢物を差し出しますとのことでございます。

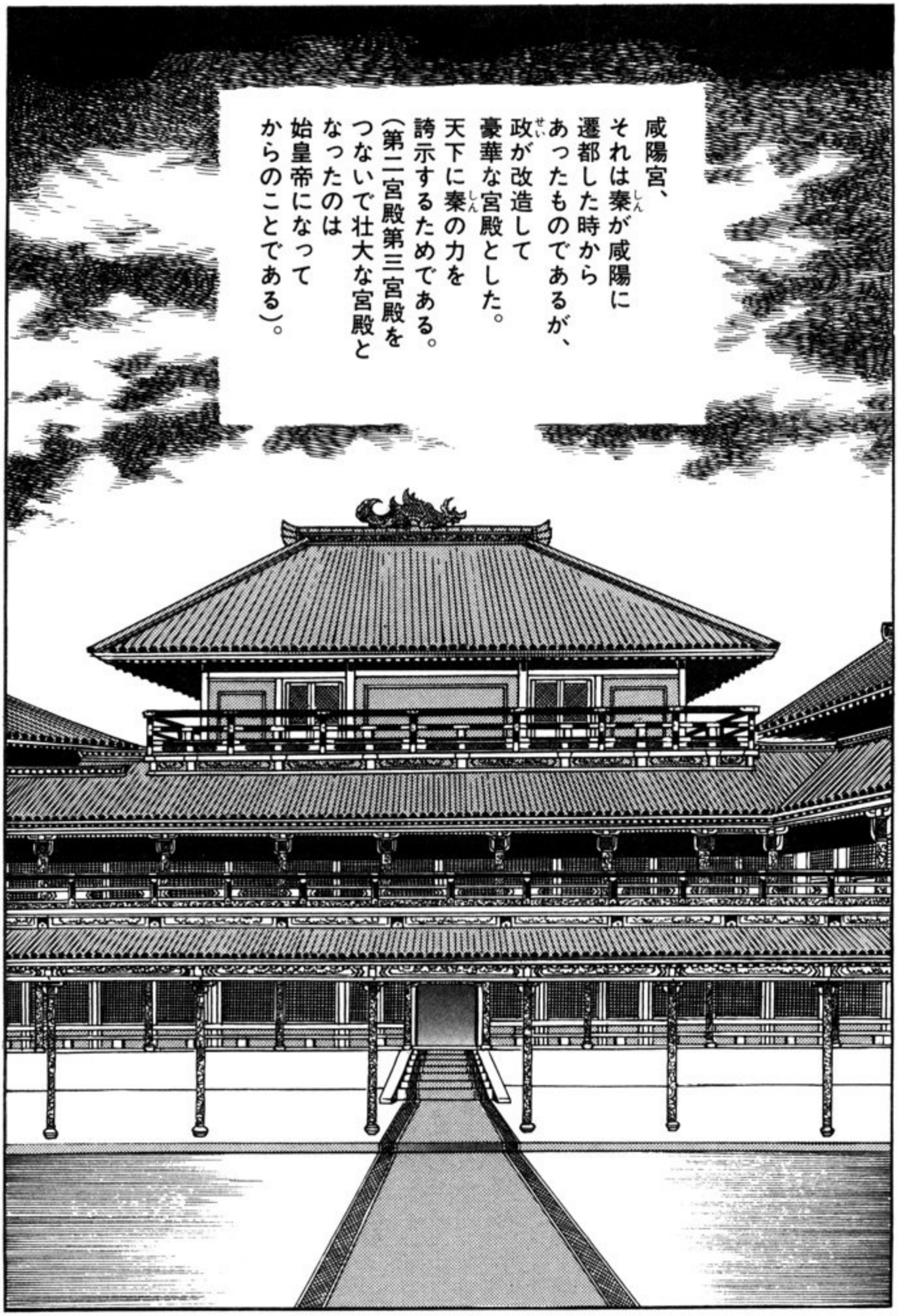
忠誠を示すために樊於期の首を斬り燕の督亢の地図を持参いたしております。いかがとりはからいましょう。

なにっ、樊於期の首と督亢の地図を持って参ったと。


はっははは、燕王も国境まで迫られて恐れおののきおったか。

72


よし、降伏の使者ならば最高の礼をもって迎えてやろう。咸陽宮に首と地図を持参させよ。
はっ。


咸陽宮、
それは秦が咸陽に
遷都した時から
あったものであるが、
政が改造して
豪華な宮殿とした。
天下に秦の力を
誇示するためである。
(第二宮殿第三宮殿を
つないで壮大な宮殿と
なったのは
始皇帝になって
からのことである)。

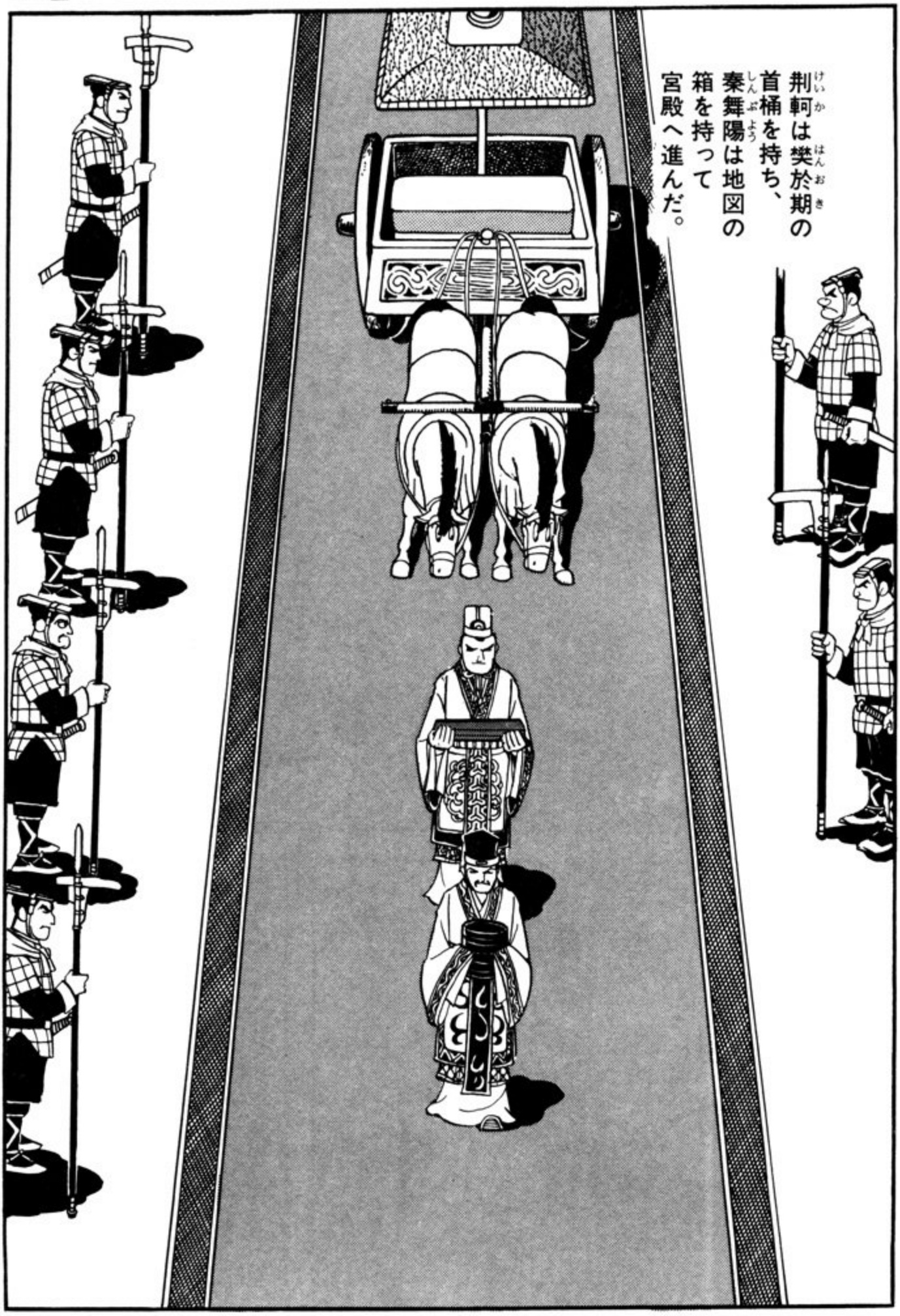
73

荊軻は樊将軍の
首と地図を持って
咸陽宮へ向かった。

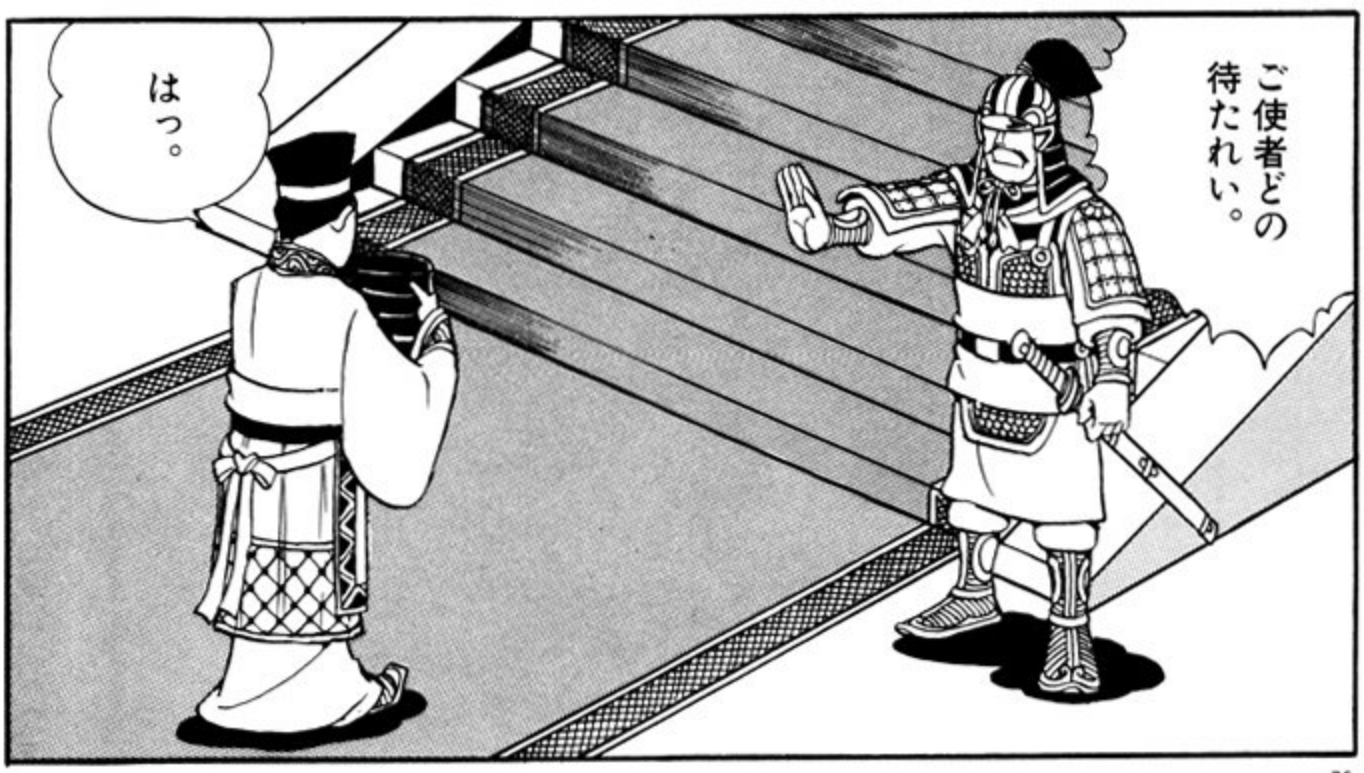
74

庭には兵士達が
整然と並んでいた。
良く訓練された
兵士であることが
一目でわかった。

だが剣を持つ
彼らは
秦王の命令が
ないかぎり昇殿は
許されないのである。


荆軻は樊於期の
首桶を持ち、
秦舞陽は地図の
箱を持って
宮殿へ進んだ。

ところが階下まで
進んだ時
秦舞陽はあまりの
威容に圧倒され
がたがたとふるえ
だしてしまった。


ご使者どの
待たれい。
はっ。

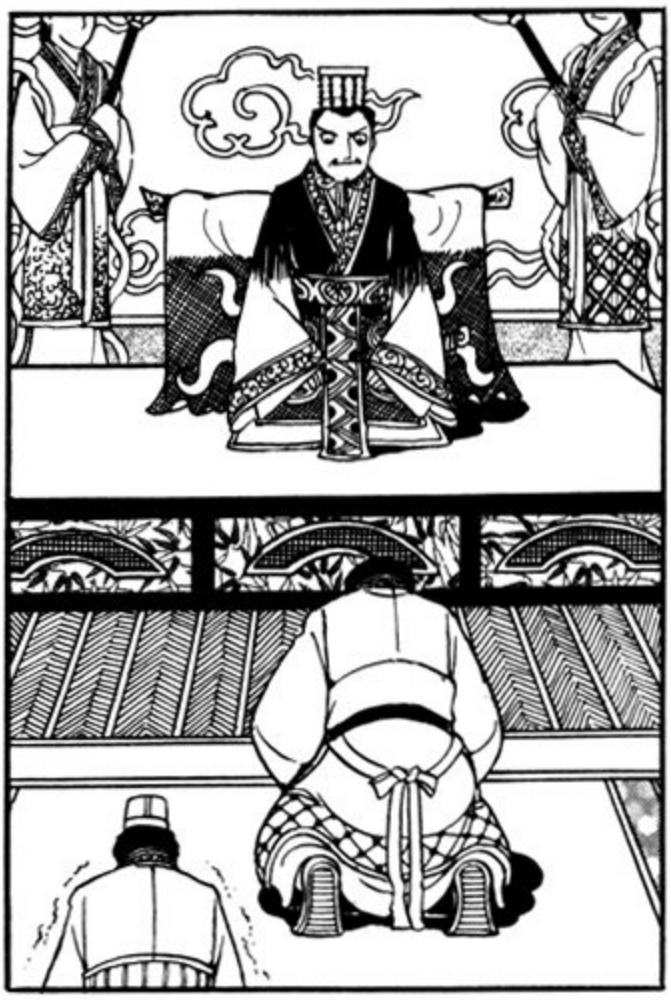
76

副使どののの
ご様子が
おかしい。

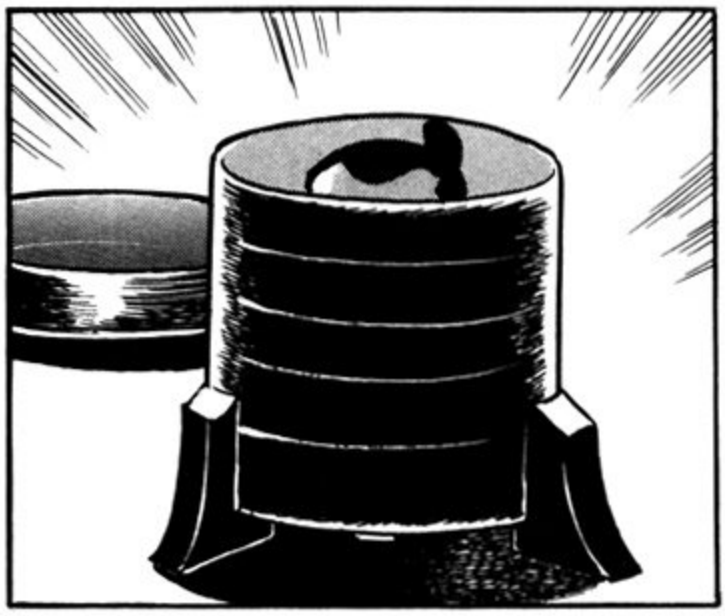
ほう
これはこれは…

77

よし、首と地図を持てっ。



78

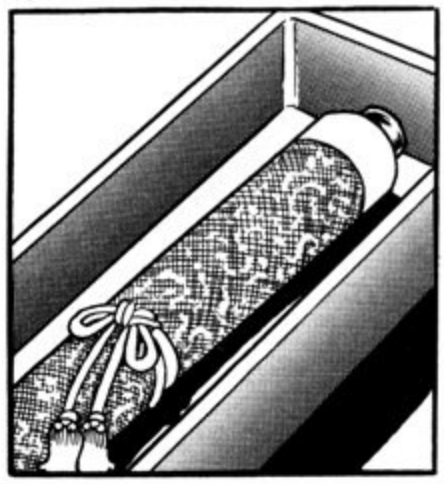


うむ、間違いなく樊於期だ。

みなの者、わしに逆らう者はこのようになる。

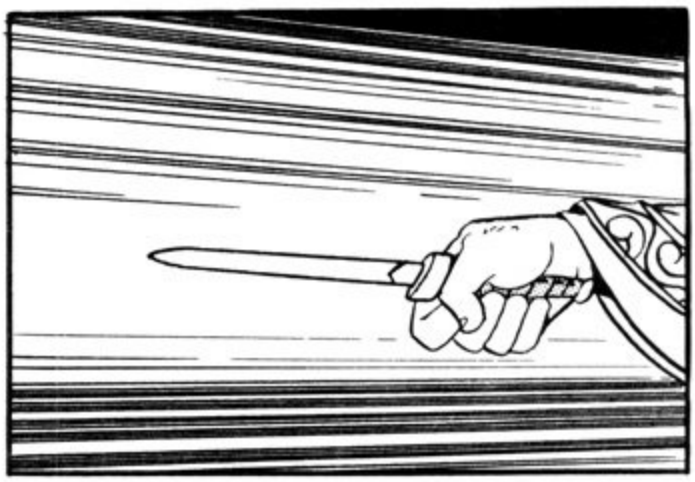
ははーっ。

よし、督亢の地図を見せよ。
はっ。



80

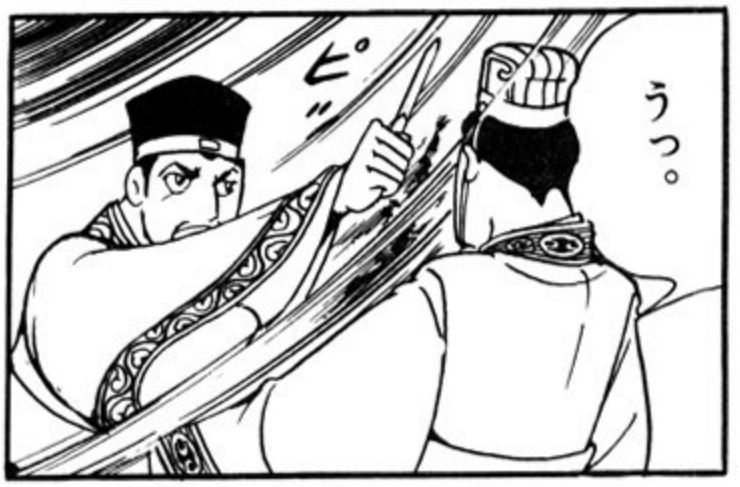
81

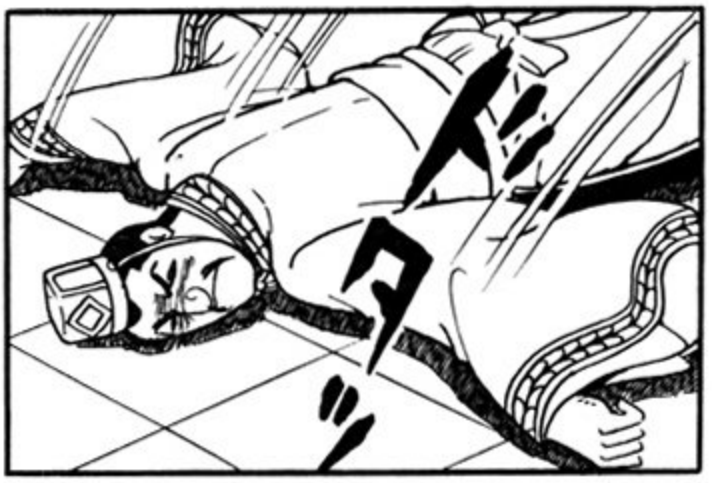


82

秦王は
柱をまわって
逃げまくった。

83





84

この時御典医の夏無且が薬箱を投げつけた。

あっ。

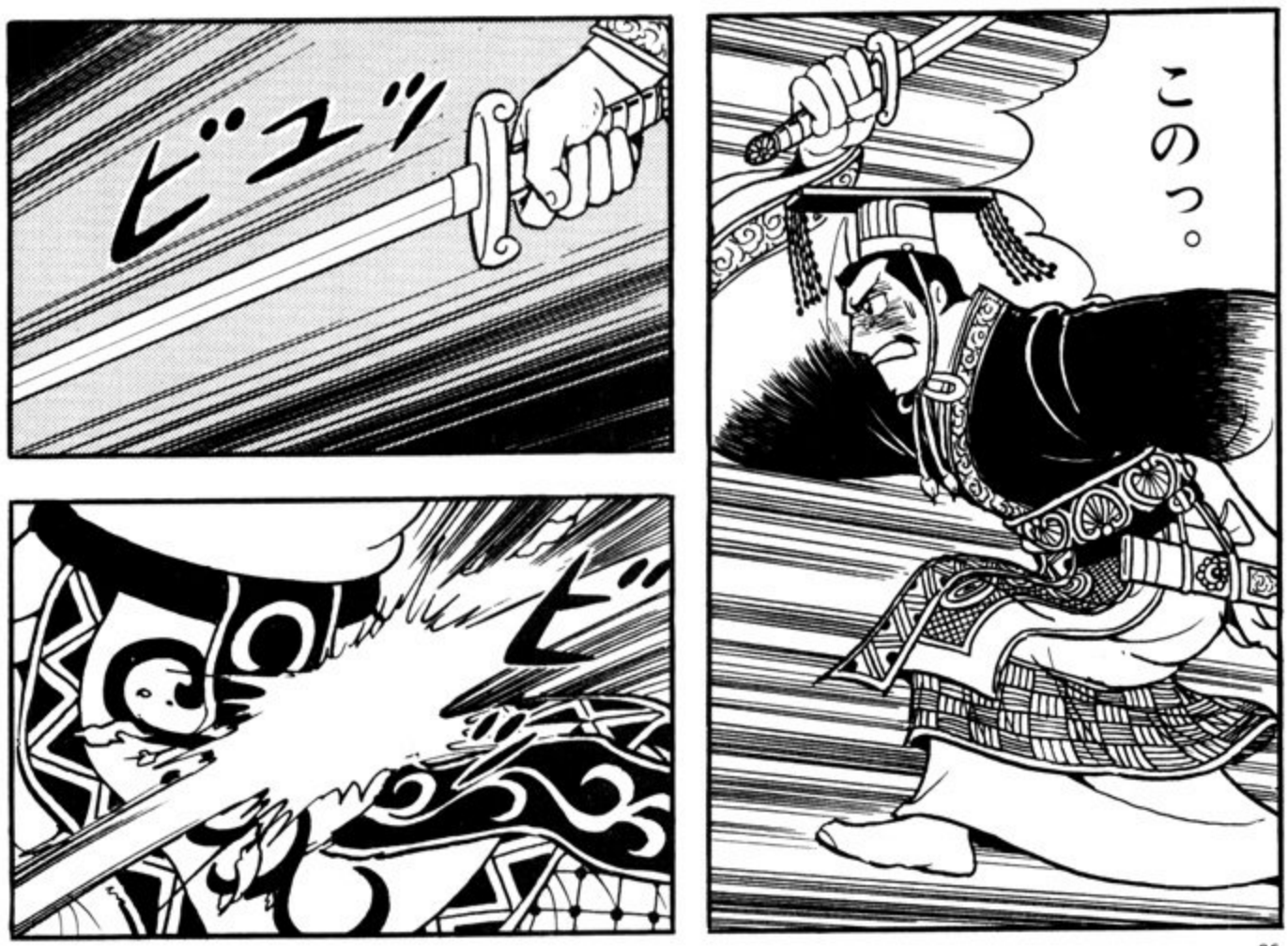
粉薬が荊軻の目に入った。

王さま今です、剣を。

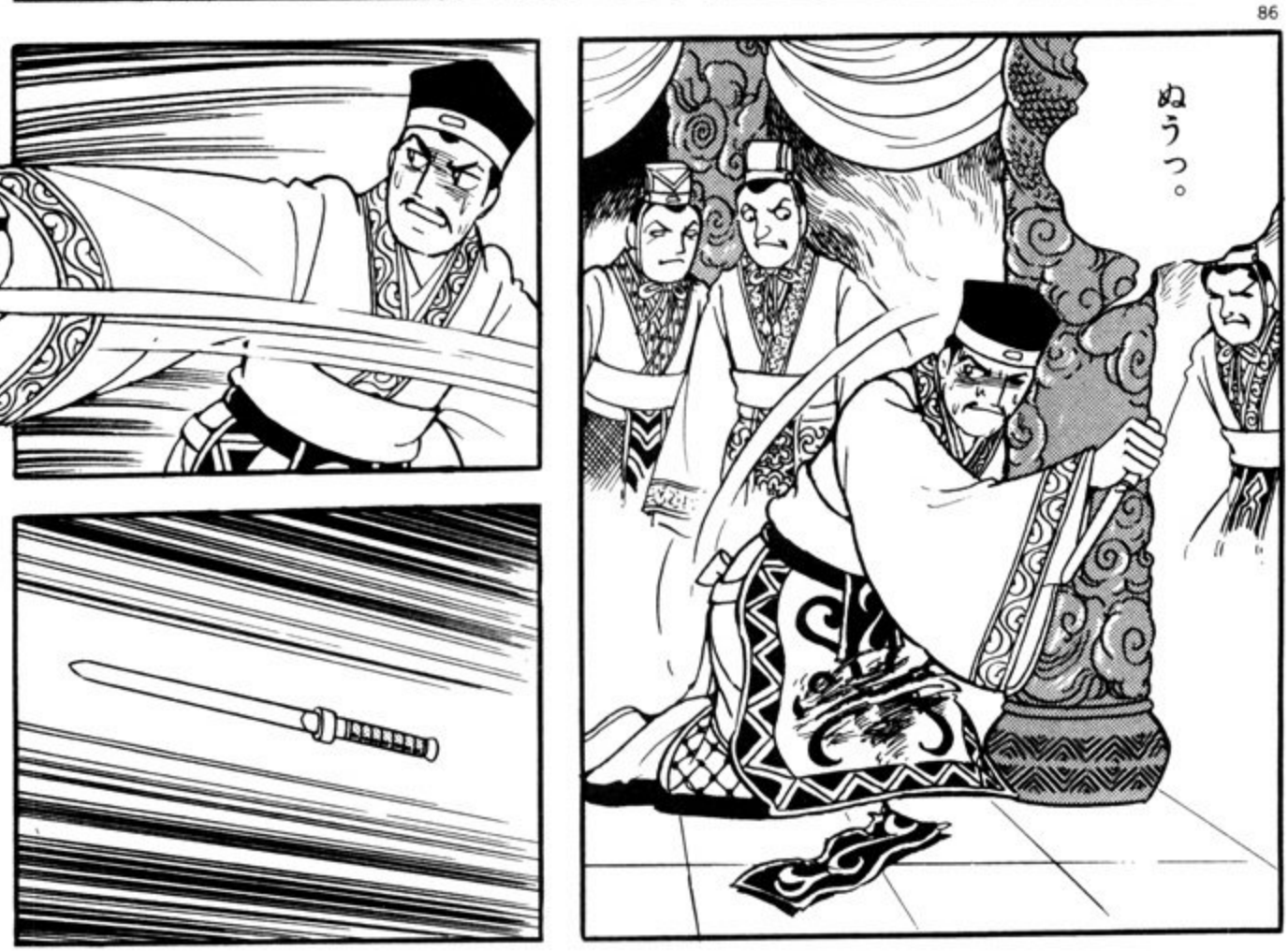
おおっ。

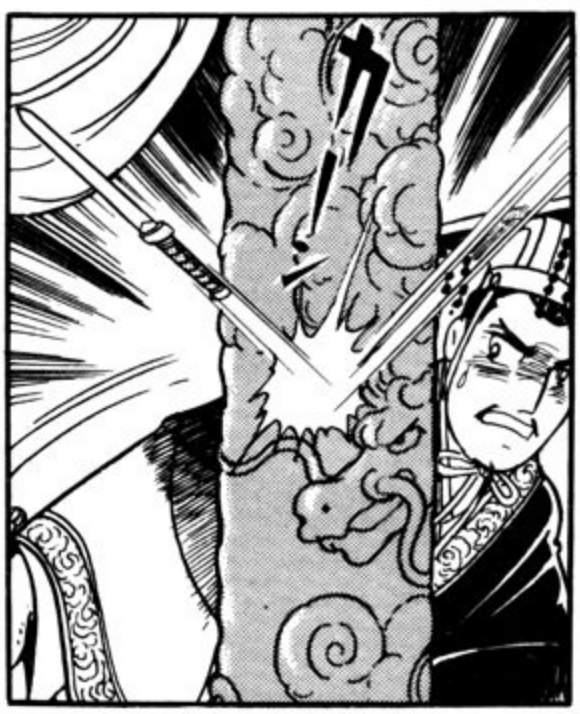
85

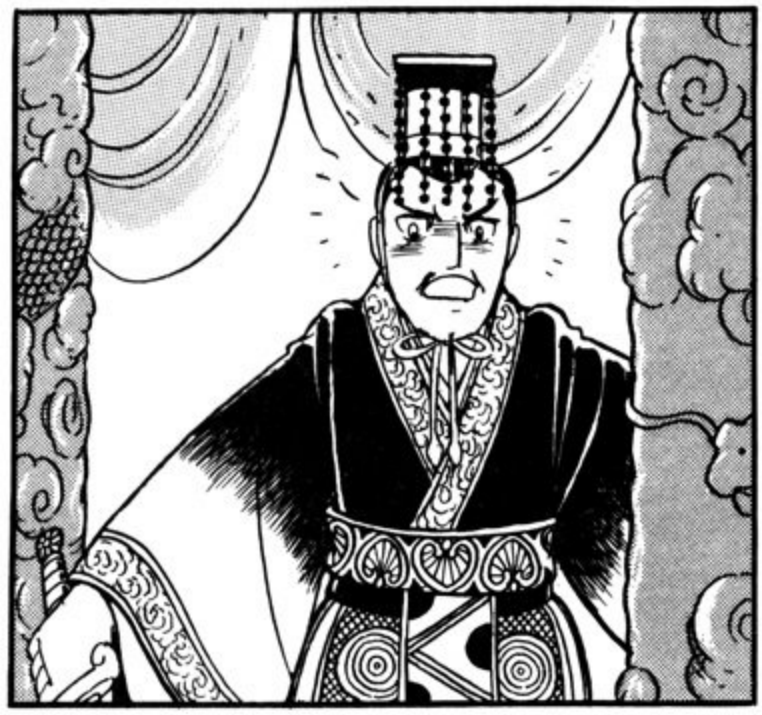
チャッ



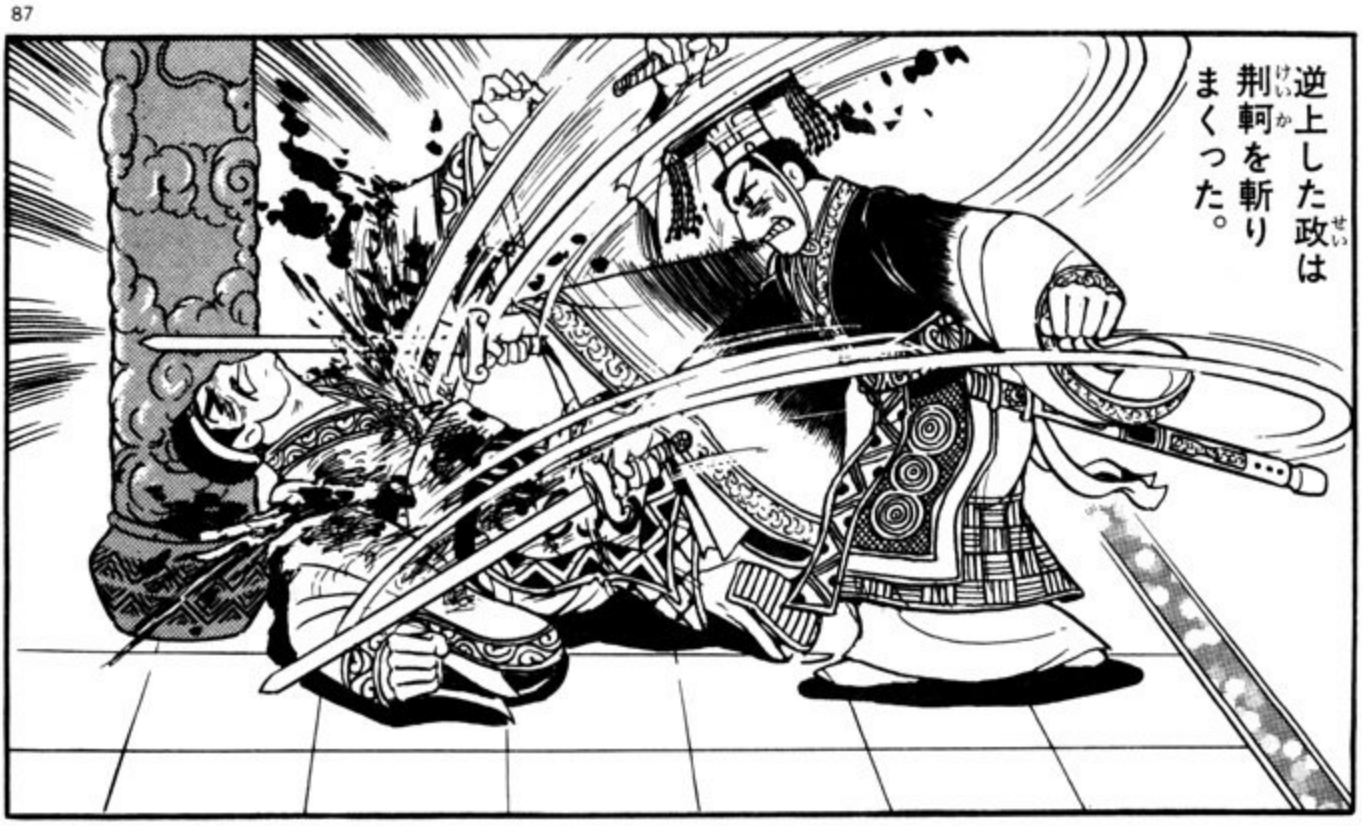
86







87



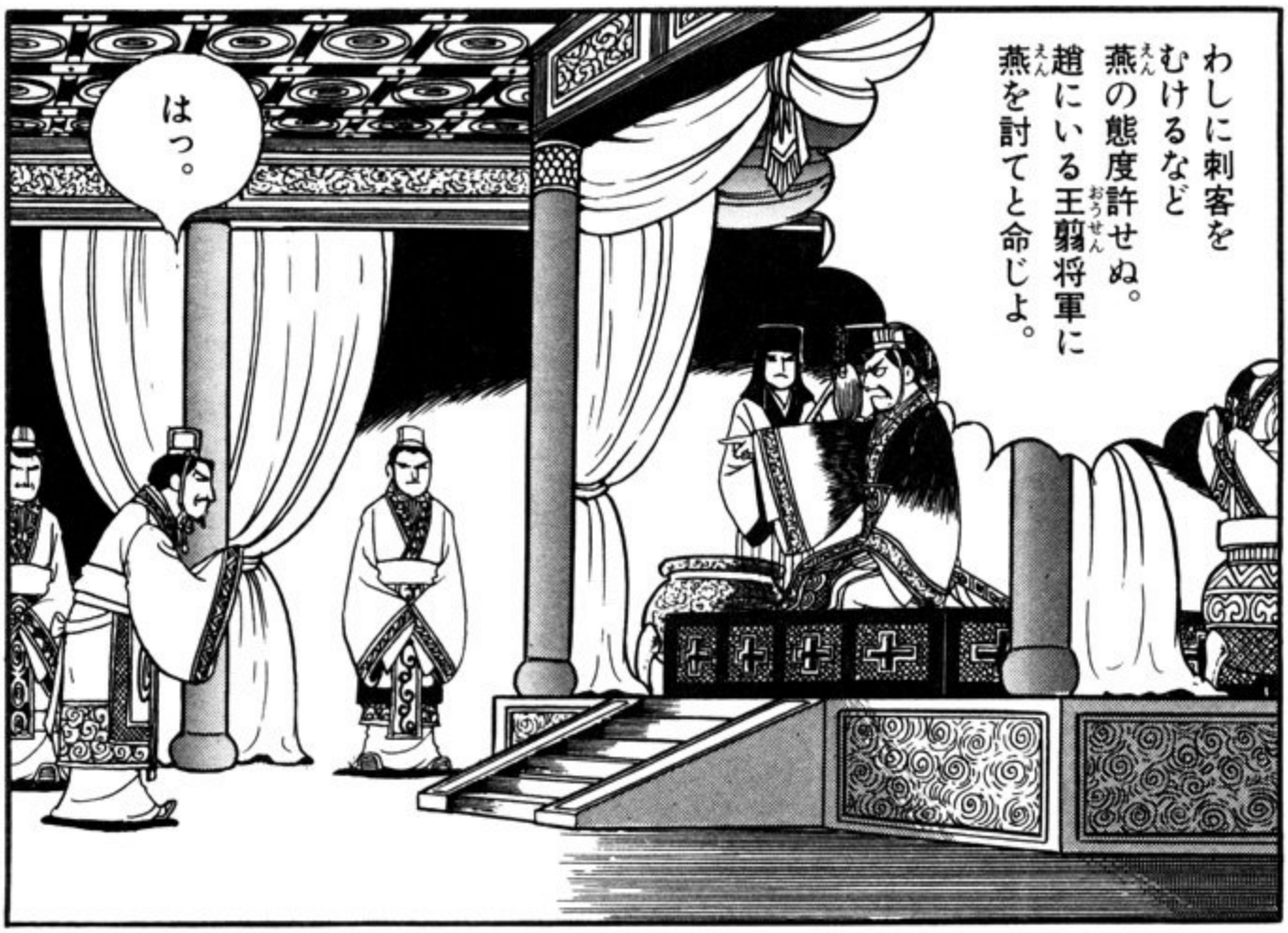
秦舞陽は
それを茫然と
見ていた。

88

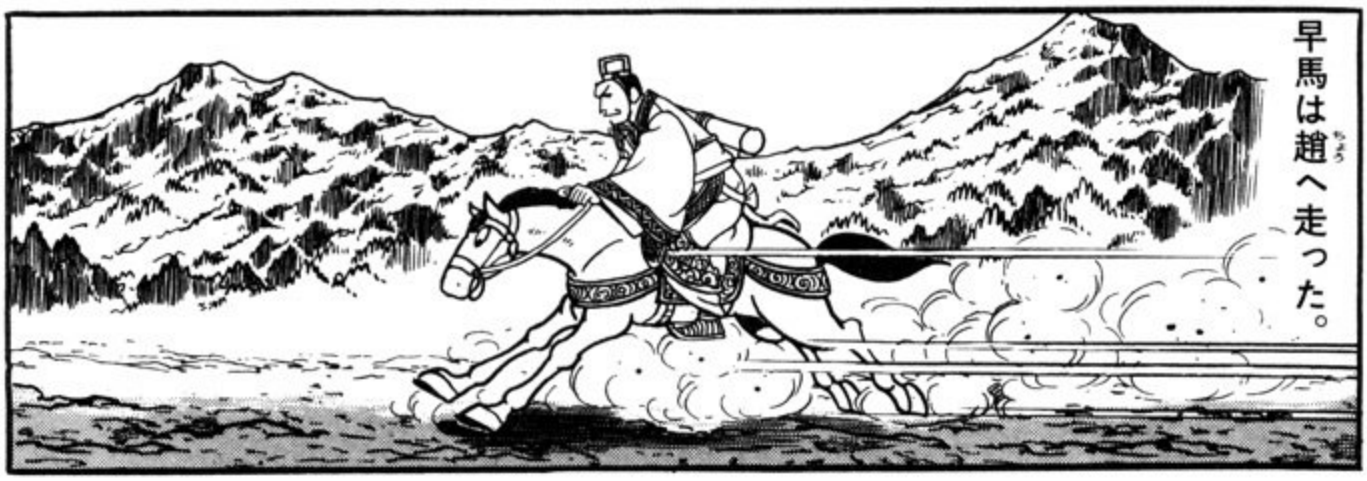
暗殺は失敗した。
荊軻は斬りきざまれて、
最期をとげた。この時
舞陽が秦王に
抱きついてでも
動きを止めていたら、
暗殺は成功して
いたかもしれない。

ハァ
ハァ

秦王政は激怒した。


わしに刺客をむけるなど燕の態度許せぬ。趙にいる王翦将軍に燕を討てと命じよ。
はっ。

89


早馬は趙へ走った。

90

王翦ひきいる秦軍は蓟城に襲いかかった。

91

燕は必死に防戦した。

だが十か月で
薊城は落城した。

92

燕王喜や太子丹は
東の遼東へ逃げた。

だが秦王は
今度は李信将軍に
追撃を命じた。

93

李信将軍は
丹の姿を求めて
追撃を開始した。

遼東

94

燕王さま、秦が執拗に燕を追撃するのは太子丹さまのせいでございます。

わかっている。

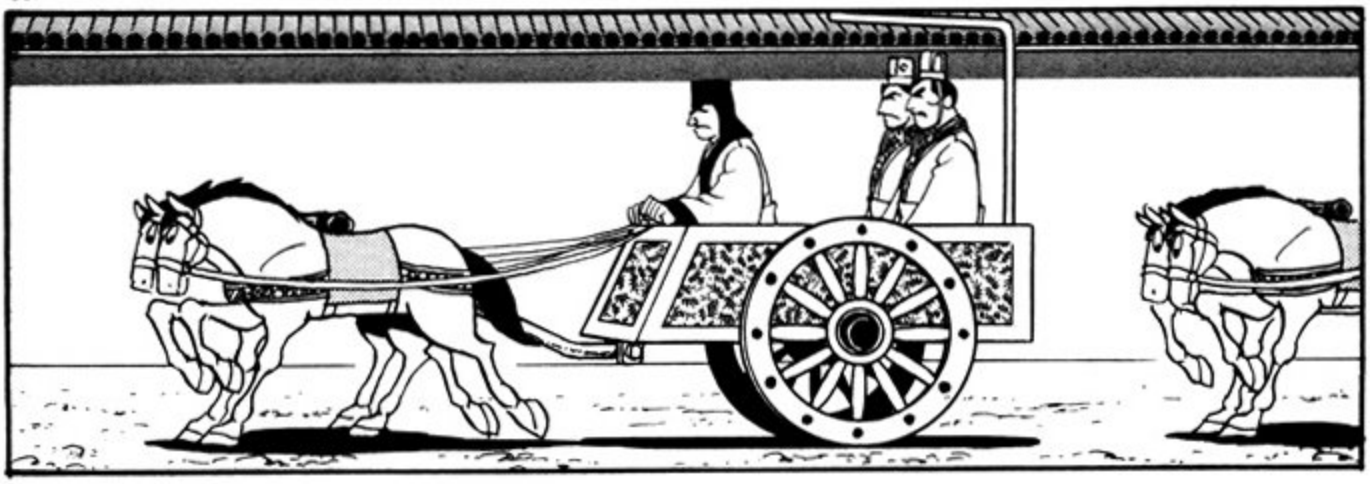
いま丹どのを殺してその首を献上すれば和解の道も開けましょう。

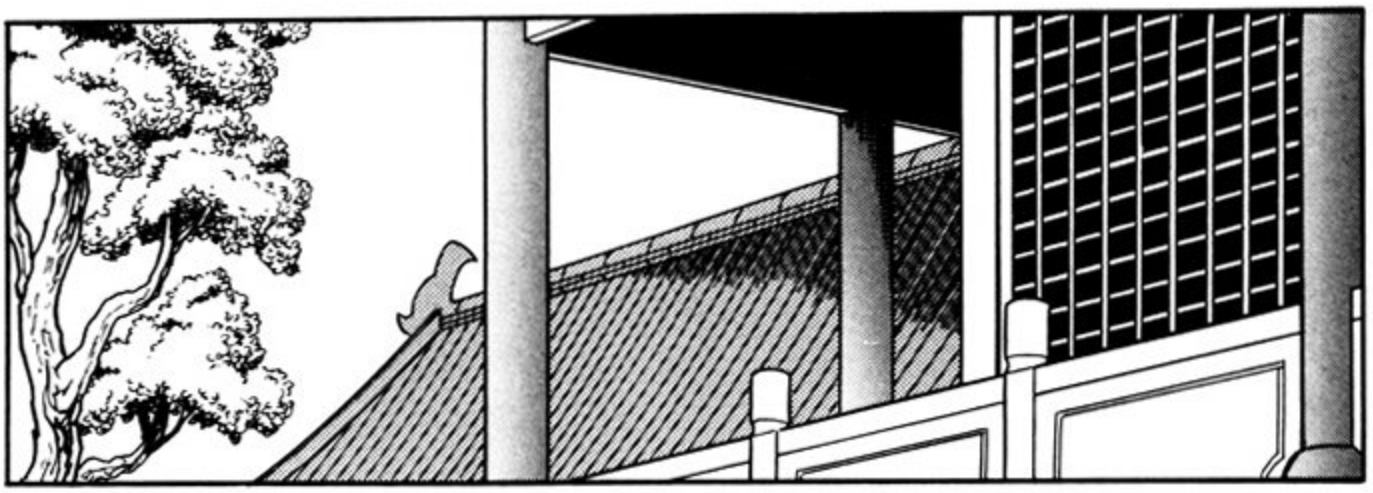
仕方あるまい、太子に自決を求めよ。

太子を殺せと申すか。
それしか燕の生きのびる道はありませぬ。

はっ。

95





なにっ、王がわたしに自決せよと。
はい、和解の道をさぐるためには太子さまの自決しかありません。

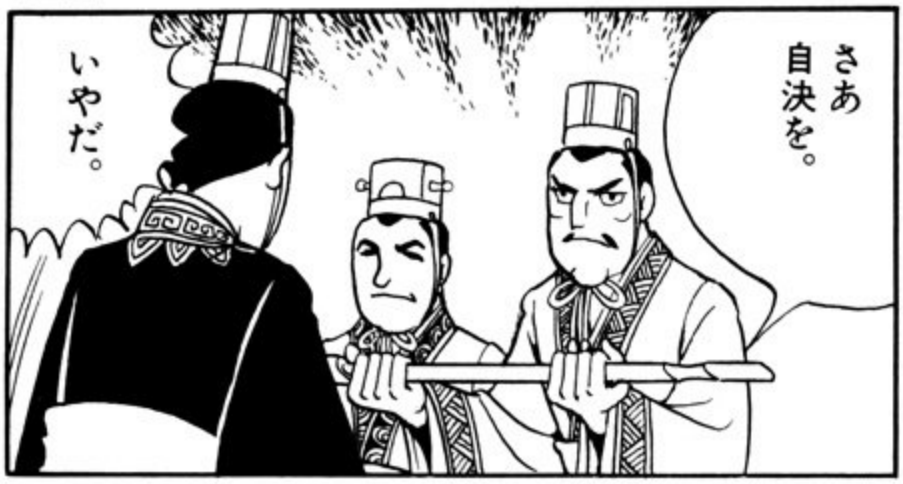
わたしは戦場ですでに戦死したことにできぬのか。

96

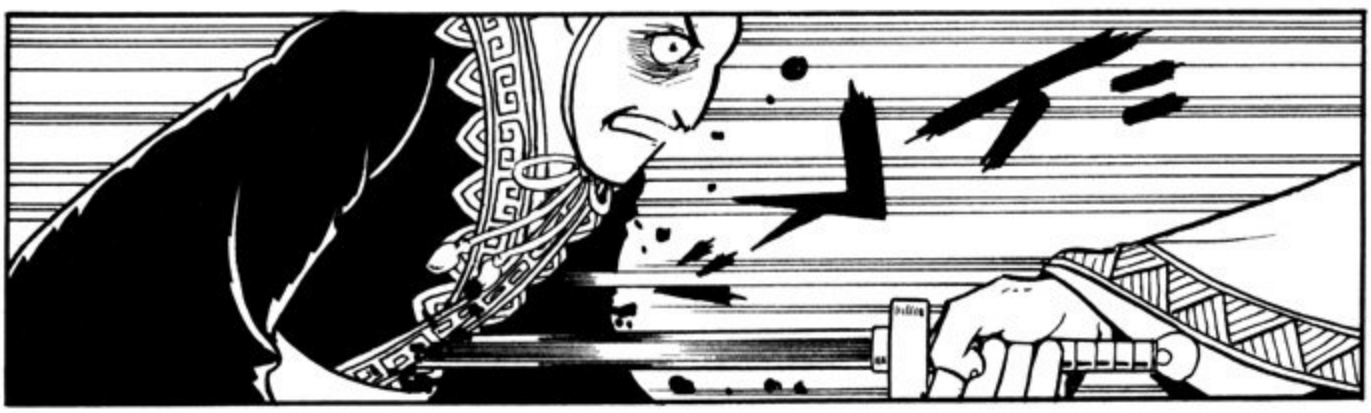
疑い深い秦王が首を見ずして信じましょうか。

しかしあんなやつのために死ぬくらいなら戦死したほうがましだ。

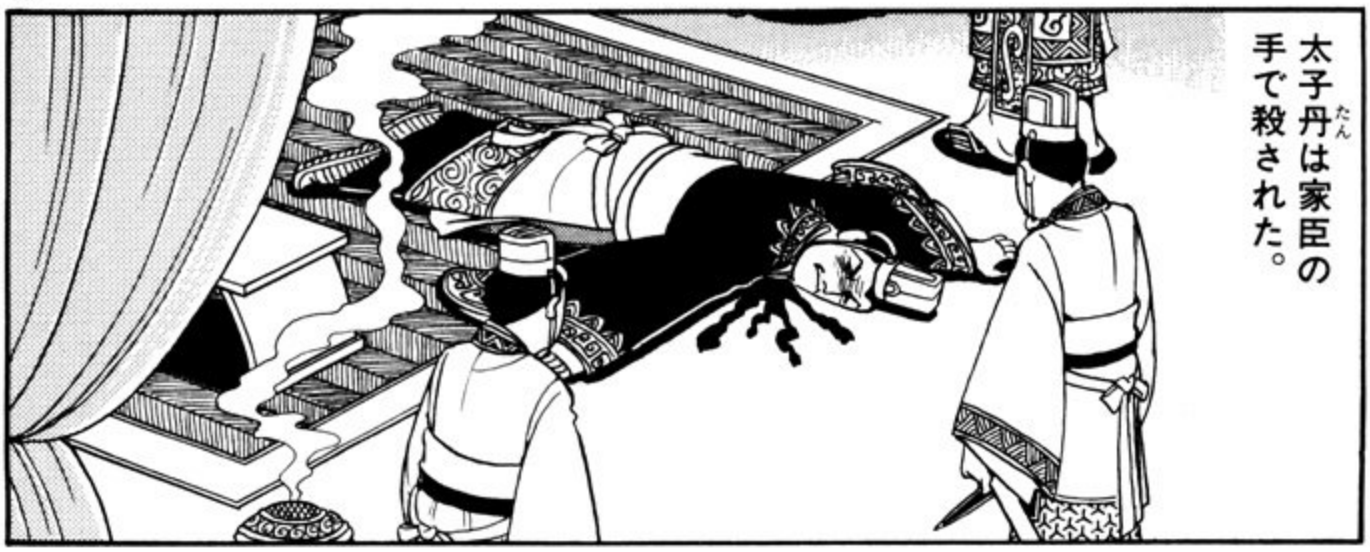
すべての原因が
太子さまの
意地から起こった
ことです。
禍の種をまいたのは
太子さま
あなたなのです。


さあ
自決を。
いやだ。

では、われらが
自決の手助けを
いたします。



97


太子丹は家臣の
手で殺された。

太子丹の首は
秦王のもとに
とどけられた。

98

秦王はこの首をみて
燕攻撃を中止し
他国に矛先を向けた。

まず魏を亡ぼし……

秦

秦

99

さらに楚に攻め入った。

その間だけ燕の寿命は
のびたのだが、
前二二二年、燕も
亡ぼされてしまった。
荊軻が秦王暗殺を
実行するにあたって
信頼出来る人物を
待っていたというが、
その人物が誰であるか
司馬遷「史記」は
記していない。

『史記』第7集―完―

■『史記』関連年表

紀元前	中国	紀元前	世界の国々
2550	黄帝、顓頊、帝嚳、堯、舜の五帝が支配した伝説の時代。	4000頃	エジプト初期王朝時代始まる。王都メンフィスを創設。
2144	夏、始まる。	2700頃	エジプト、ピラミッドを造営。
1711	殷、始まる。	2500頃	インダス文明はじまる。
1066	周、始まる。	2000頃	日本、縄文文化中期（発展期）。
1065	魯、燕、衛、晋、曹、蔡、呉、陳、宋、斉、楚の諸侯、成立。	1600頃	クレタ文明旧宮殿時代。日本、縄文時代後期。
		955	ソロモン（ダビデの子）イスラエル王となる。

770	東周、始まる。秦、諸侯に列する。	
722	春秋時代、始まる。	
686	斉の襄公、公孫無知の謀反により死す。	
685	斉の桓公、管仲を宰相に迎える。	
667	斉の桓公、周王より伯（覇者）を賜わる。	
666	秦の驪姫、その子・奚斉を立てようとし、重耳らの追放をはかる。	
645	斉の宰相管仲死す。	
636	重耳、亡命19年ののち即位し、晋の文公となる。	
546	宋の向戌の提唱で、晋、楚、魯、蔡、衛、秦など13か国間の和平成立。以降40年間休戦となる。	
522	楚の平王、伍奢とその子伍尚を死罪に処す。伍尚の弟伍子胥、呉に逃げる。	
515	呉の公子光、王、僚を討ち王位につく。名を闔廬と改める。	
511	呉、伍子胥の計を用いて楚に侵入。	
506	呉、楚軍を破り、楚の都郢に入る。	
505	越、呉に侵入。楚の申包胥、秦の援軍を得て楚を救う。呉敗北。	
776	ギリシア、オリンピアで第1回オリンピア競技会開催。	
753	ローマ建国。	
625	新バビロニア王朝はじまる。	
539	新バビロニア王朝滅亡。ペルシア帝国隆盛期。	
500	ペルシア戦争始まる。	
500頃	日本、縄文晩期時代。	
490	マラトンの戦いでペルシア、ギリシアに敗れる。	

紀元前	中国	紀元前	世界の国々
496	呉王闔廬、越王句践と戦い、矢傷を負い敗死。		
494	呉王夫差、句践を会稽山で破る。		
484	呉王夫差、艾陵で斉軍を破る。伍子胥、呉王夫差より死を命ぜられ自害。		
482	呉王夫差、黄池で覇権を争う。その隙をついて越王句践、呉に侵入。呉、大敗を喫す。		
481	春秋時代終わる。		
479	孔子死す。		
473	越王句践、呉を滅亡させ、覇者となる。		
		457	ギリシア、オリンピアにゼウス神殿完成。
453	大国・晋、韓・魏・趙の三氏に分裂される。これより三晋おこる。		
		449	アテネ艦隊、キプロス島でペルシアを破る。ペルシア戦争終わる。
446	魏、文侯即位。魏の国力盛んとなる。		
		447	ギリシア、パルテン神殿着工。
403	戦国時代始まる。		
387	魏の文侯没す。呉起、楚に移り宰相となる。		
384	秦、殉死を禁止。		
381	楚の悼王没す。呉起、楚の貴族たちに殺される。		

367	周、西周と東周に分裂。		
359	秦の孝公、商鞅を左庶長に任じ、新法を公布、国内改革を断行。		
350	秦、咸陽へ遷都。		
341	斉の将軍田忌、孫臏の計により魏軍を破る。魏の将軍龐涓、自害。		
340	秦の商鞅、魏軍を破り、商・於に封じられる。		
338	秦の孝公没す。商鞅、車裂の刑に処される。		
299	秦の昭王、斉の孟嘗君を迎える。		
298	孟嘗君、秦より斉に逃げ帰り宰相となる。趙の恵文王、公子勝を平原君に封ずる。		
293	秦の白起将軍、韓・魏連合軍を伊闕で破り、二十四万人を殺害。		
289	このころ孟子没。		
286	斉、宋を滅ぼす。		
284	燕、秦、趙、韓、魏、連合して斉を討つ。		
	燕の将軍・楽毅、斉都臨淄に攻め入る。		
280	秦の白起将軍、趙を破る。		
		340頃	日本、弥生前期時代。
		336	アレクサンドル大王即位。
		331	ペルシア帝国滅亡。
		317	インド、マウリア王朝を興す。

紀元前	中国	紀元前	世界の国々
279	秦の**昭王**、趙の**恵文王**と澠地で会談。 燕の昭王死去。**楽毅**、趙へ亡命。 斉の**田単**、楽毅に奪られた七十余城を取り戻す。 **孟嘗君**死去。	274	第一次シリア戦争始まる。
278	秦の**白起**将軍、楚を討ち、首都・郢を占拠。楚、東方の陳へ遷都。		
277	秦の**白起**将軍、武安君に封じられる。		
276	魏の公子無忌、**信陵君**に封じられる。		
273	秦の**白起**将軍、魏・韓・趙連合軍を破り、13万人を殺害。		
270	趙の将軍・**趙奢**、作戦で秦軍を破る。	269	ローマ、銀貨を初めて鋳造。
266	秦の昭王、**范雎**を宰相に任じ、応侯に封じる。	268	インド、アショーカ王即位。 マウリア王朝最盛期に。
262	楚の孝烈王即位。黄歇を**春申君**に封じる。		
261	戦国時代最大の合戦、趙・秦の両軍による**長平の合戦**始まる。	264	第一次ポエニ戦争始まる。
260	趙の孝成王、**廉頗**将軍を罷免し、趙奢の子、**趙括**を総大将に任命。秦の**白起**将軍、趙軍を長平で大破し、捕虜四十万余を生き埋めにする。		

257	秦の**白起**将軍自害。秦の王陵将軍、趙の都、邯鄲を包囲するも、楚の**春申君**、魏の**信陵君**の助太刀により大敗。		
256	**秦**、西周を滅ぼす。		
255	秦の昭王、**范雎**を罷免する。	256	ローマ海軍、シチリア南岸沖でカルタゴ海軍を破る。
249	秦の昭王、**呂不韋**を相国とする。		
247	秦、魏に侵攻。魏の**信陵君**、五か国の兵を率いて秦を破る。	248頃	パルティア王国建国。
246	**秦王政**（後の使皇帝）即位。**呂不韋**、幼君政に代わって執権。		
241	趙・楚・魏・燕・韓の5か国、連合して秦を攻め、函谷関に敗れる。	241	第一次ポエニ戦争終わる
238	楚の李園、**春申君**を殺害。		
	秦の長信侯・**嫪毐**、謀反を起して失敗、車裂きの刑に処される。		
237	秦の**呂不韋**、相国を解任され、楚の**李斯**、秦王に登用される。		
235	秦の**呂不韋**自害。		
233	韓の公子・**韓非**、和平の使者として秦に送られ、後に獄中で毒を飲み自害。	232	アショーカ王没。

紀元前	中国	紀元前	世界の国々
230	秦により韓滅亡。		
228	秦により趙滅亡。趙の公子・嘉、代に逃亡し代王となる。		
227	燕の太子・丹、荊軻を刺客として秦王の許に送り失敗、太子・丹、遼東に逃亡。秦の王翦、燕を討つ。		
226	燕の太子・丹、遼東で死去。		
225	秦により魏滅亡。		
223	秦により楚滅亡。		
222	秦により燕、代滅亡。		
221	秦、天下統一。秦王政、始皇帝と名を改める。		
214	万里の長城の建設始まる。	215	第一次マケドニア戦争起こる。
210	始皇帝、沙丘で死去。		
202	劉邦、項羽を破り、漢王朝を興す。劉邦、皇帝・高祖を名のる。	205	第一次マケドニア戦争終る。

145	司馬遷、生まれる。（異説あり）。	
140	武帝、天下の大学者、董仲舒を得る。	
136	武帝、五経博士を置く。	
110	武帝、泰山で封禅を行なう。	
104	太初暦（陰暦）完成。	
99	匈奴軍に降った李陵を弁護したため、司馬遷宮刑に処される。	
96	司馬遷、大赦により出獄し、中書令に任命される。	
87	武帝死去。	
86	司馬遷死去。（異説あり）。	

144	ローマ、マルキア水道建設。	
133	グラックス兄弟の改革。	
87	民衆派ローマを占領。恐怖政治始まる。	

BIG GOLD COMICS
ビッグゴールドコミックス

史記
若き支配者

1995年4月20日　初版第一刷発行

著者
横山光輝
© 1995 MITSUTERU YOKOYAMA
発行者
猪俣光一郎

発行所
株式会社　小学館
振替(00180-1-200)
〒101-01 東京都千代田区一ツ橋2-3-1
[編集]TEL03・3230・5481 [販売]TEL03・3230・5749

印刷所
株式会社美松堂(カバー・表紙)
中央精版印刷株式会社

装幀
海野一雄
＋
Bay Bridge Studio

●本書の一部あるいは全部を無断で複製・転載・上演・放送等をすることは、
法律で認められた場合を除き、著作者および出版者の権利侵害となります。あらかじめ小社あて許諾を求めてください。
●造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら、「業務部」あてにお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。業務部(TEL0120-336-082)
Ⓡ本書の一部または全部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。
本書から複写を希望される場合は、日本複写権センター(TEL03-3401-2382)にご連絡ください。

検印廃止

ISBN4-09-189047-4

Printed in Japan

●四六変型判●各224〜288ページ
●定価(各)650円〜700円〈税込〉

続刊
水島新司[平成野球草子]⑤巻
●4月26日ごろ発売！
近藤ようこ[心の迷宮]①巻

小学館

ハートフル・ストーリー!!

ツタンカーメンと王妃の愛、そして多神教から一神教へと移り行く宗教ドラマ!!

里中満智子[アトンの娘]全③巻

一球に泣いた男、笑った男。白球の中に見た多くの人びとの人情ロマン!!

水島新司[平成野球草子]①〜④巻

貧しい農民に生まれ、苦闘のすえに農政の実務家となった男、二宮金次郎の魅力!!

ジョージ秋山[博愛の人]①〜④巻

歴史を記すことに一身を賭けた司馬遷の「史記」、中国第一の歴史書の完璧なコミック化。

最新刊・⑦巻

横山光輝[史記]①〜⑦巻

どんな状況でも対応できる鍛え抜かれた兵士たちが、極限状態で見たものは!?

松本零士[ケースハード]①〜③巻

謎の怪人等々。強烈な個性が入り乱れて綴る「幸福」をめぐるユーモラスな連作。

水木しげる[妖怪博士の朝食]①〜③巻

迷いようもない整然としたニュータウンの町、真っすぐ伸びた道路の果ては!!

齋藤なずな 作品集①[迷路のない町]

ビッグゴールド BGC コミックス

心の底から暖かくなる

晶子、漱石、山頭火など、文学者の愛と死のドラマを見つめ、作品と作家の秘密に迫る力編。

齋藤なずな 作品集②「恋愛烈伝」(上)

中国大陸でたくましく生きた日本人の芸妓たち!!日中近代史を女性の側から見直す…!!

竹宮恵子「紅(くれなゐ)にほふ」①〜②巻

世の流れに翻弄されながらも、己れの信じた道を突き進む人間たち。〝男〟の心意気!!

青柳裕介 作品集①「男の船出」②「男達の航海」

公園の明るい日差しの中で老人の心に芽ばえる殺意のゆくえ!?日常生活のリズムが…。

青柳裕介「ゼンマイ仕掛けの犯罪白書」①巻

夢と現実の狭間に建つ幻想のミュージアムへようこそ!!奇才の怪作群!!

岡崎二郎 作品集①「トワイライト・ミュージアム」

花のように華やかに、自分の作りたい家を自分で作る!!〝建築〟の本義に迫るコミック。

畑中 純「理想宮」①巻

開国か攘夷か!?で揺れる幕末に、激動の波を超え、未来へと時代を動かした名旅籠が!!

石ノ森章太郎「HATAGO―〈旅籠〉―」①巻

小学館文庫

「カリフォルニア物語」全4巻
吉田秋生
混沌、怠惰。大都会の片隅に生きる若者たちの心の遍歴…。病めるアメリカで突っぱって生きるヒースとその仲間たち…!!

「河よりも長くゆるやかに」全1巻
吉田秋生
基地の街の少年・季邦と姉には暗い過去が…。環境にめげず、明るくしたたかに生きる少年たち。時代感覚にあふれる作品。

「吉祥天女」全2巻
吉田秋生
謎の少女・叶小夜子が転校してきた日から、学園は変わった。美しさと、あやしい魅力で人を引きつける小夜子とは…!?

「11人いる！（新編集版）」全1巻
萩尾望都
宇宙大学の受験者を待ちうける奇妙な最終テスト…!?限られた人数と時間の中で様々な人種と性格がぶつかり合うSF名作！

「スター・レッド（新編集版）」全1巻
萩尾望都
地球で育った火星人レッド・星は、異星人エルグと共に訪れた故郷・火星で、同胞から思わぬ迫害を受ける。やがて彼女は…。

「ボーイフレンド」全6巻
惣領冬実
バスケットは天才的、だが影のある高刀柾が結城可奈子のいる高校に転入してきた。独特な感性で贈る青春グラフィティ!!

「闇のパープル・アイ」全7巻
篠原千絵
瞳の色が紫に変わる時、倫子は恐ろしいものに変身する！読み出したらやめられない戦慄のサスペンスロマン!!

いつでも、どこでも
誰にでも、手のひらに感動を。

「それでも地球は回ってる」全❸巻
秋里和国弐

さかみのクラスに転校してきた美形3人組は、それぞれおかしな秘密が…わっくんのニューセンス・コメディーの決定版!!

「人間交差点（ヒューマンスクランブル）」❶〜❿巻
矢島正雄／弘兼憲史

過ぎてゆく時の流れの中で、ほの青く見えかくれする人生。男たちと女たちの、業にも似た生の姿を描くオムニバス作品集!!

「きりひと讃歌」全❸巻
手塚治虫

謎の奇病モンモウ病に挑む青年医師〝桐人〟。彼の直面する現実は、自らの病の罹患、そして医学界の権力争い…!!

「M（ムウ）W（新編集版）」全❷巻
手塚治虫

悪とは何か!?略奪、恐喝、誘拐、詐欺、殺戮…。現代人の心に巣食う様々な悪徳の姿をコミック界の巨匠が鋭く描破!!

「ねじ式（新編集版）」全❶巻
つげ義春

メメクラゲにかまれた少年が体験する超現実社会。狂ほんする現実社会を痛烈に批判する目が見つめた、つげ芸術の集大成。

「紅い花（新編集版）」全❶巻
つげ義春

愛を表現できぬもどかしさから、少女にせまった少年が見た紅い花とは?人生の哀歓を描く作者の代表的傑作選。

「カムイ伝（新編集版）」❶〜❻巻
白土三平

徳川時代の日置藩でおこる武士、農民、商人等の戦い。身分差別と戦う正助を中心とする白土劇画の代表的作品。